

重点事業調書

〔担当部局・課名：総務部総務学事課〕

3次	基本戦略名称等	基本 将来を担う人づくり				
夢	戦略プログラム名等	学校・家庭・地域の連携による教育推進プログラム				
ラン	メッセージ・基本施策名	学力向上策の充実				
重点事業等の名称		私立学校教育力強化事業				
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	私学助成費	
現状・課題	<p>現状・課題 本県では、「学校の荒れ」が問題となっているが、公教育の一翼を担っている私立学校においても、中途退学、暴力行為等の問題行動への対策が喫緊の課題となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の職業観・勤労観の育成や、能力・適性に応じた進路指導は、将来の目標に向かっての学習意欲を向上させるとともに、生徒の目が学校に向くことで、中途退学の減少にもつながるものであり、生徒の進路意識の向上を図る取組が必要である。 ・学校での問題行動等の要因は、幼少期から存在していることが多く、各発達段階における規範意識の醸成が重要であり、幼稚園段階からの取組が必要である。 					
事業内容・進め方	<p>事業内容 私立学校教育力強化事業【43,000千円】</p> <p>拡充 1 進路指導の充実(中・高・中等) 21校×1,000千円=21,000千円 〔補助上限300千円 1,000千円に拡充〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業と連携・協力した職場体験・インターンシップ、専門家による出張講義や技能向上に向けた企業訪問、資格取得や技能審査のための講習の取組等に対して支援 <p>拡充 2 規範意識の醸成 20校× 700千円 = 14,000千円 小・中・高・中等への支援 〔補助上限300千円 700千円に拡充〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、外部の指導者による、生き方、社会のルール、マナー等の規律や、伝統文化等の指導、奉仕活動やボランティア活動等の社会貢献活動参加の取組等に対して支援 <p>新規 幼稚園への支援 20園× 400千円 = 8,000千円 ・早い段階での道德性の芽生えを培うための外部指導者による教育の実施や、地域、異世代との交流の取組等に対して支援</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>進め方 補助金交付要綱を各私立学校へ送付(4月)、事業実施見込み調査(10月)、交付決定(1月)</p>					
事業の意図・費用対効果等	<p>事業の意図・費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験・インターンシップや外部人材による継続的指導で、職業観・勤労観の育成が図られるとともに、明確な進路意識を持たせることができ、中途退学者の減少が期待できる。 ・外部指導者から生き方、社会のルール等を学んだり、社会貢献活動をすることにより、社会的なルールやマナーの体得、自主性、社会への意識を高めることが期待できる。 ・地域と連携することで、社会の構成員として共に生きる心を養うとともに、地域に対する理解を深め、地元への愛着心や誇りを持つことが期待できる。 					
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額
	事業費(単位:千円)	12,300	43,000	43,000	43,000	
財源内訳	一般財源	6,150	36,850	36,850	36,850	
	起 債					
	その他特定財源	6,150	6,150	6,150	6,150	

私立学校教育力強化事業

1 私学の状況 (全国、全県は国公立計)

中退率(%)		
全国	全県	私立
1.20%	1.40%	2.70%
(中途退学者数 ÷ 在籍者数 × 100)		

暴力行為発生率(高校:校内外)		
全国	全県	私立
34.6%	41.3%	43.8%
(発生学校数 ÷ 学校総数 × 100)		

2 私学の課題

目的意識が持てない生徒への対応
基礎学力の向上への対応

問題行動への対応
各発達段階に応じた規範意識の醸成

3 具体的な取組

進路指導の充実

- 地域の企業と連携・協力した職場体験・インターンシップ
- 起業家・企業技術者による出張講義
- 技能習得や技術向上に向けた企業訪問
- 資格取得や技能審査のための講習
- 基礎学力定着に向けた補充授業
- 語学・芸術・スポーツ等特色ある教育への外部人材の活用
- 支援を要する生徒への対応に向けた、専門的知識を有する外部人材の活用

規範意識の醸成

- 地域と連携し、地域の「おやじの会」などの外部指導者を招き、生き方、社会のルール、マナー等の規律を学ぶ
- 奉仕活動やボランティア活動などの社会貢献活動
- 地域の伝統文化等の学習
- 論語や徳育などの授業実践
- 幼児期からの、外部指導者による道徳性の芽生えを培うための教育
- 地域や異世代との交流

4 効果

中途退学者の減少
早期の進路決定

落ち着いた学習環境
規範意識の醸成

私学教育の質の向上と、地域と連携した、社会を担う人材の育成

重点事業調書

〔担当部局・課名：警察本部・少年課 〕

3次 夢 ラン	基本戦略名称等	基本 将来を担う人づくり 基本 安全・安心な地域づくり									
	戦略プログラム名等	支え合いの心あふれる社会実現プログラム 犯罪や事故のない社会実現プログラム									
	メッセージ・基本施策名	子どもたちの豊かな心の育成 少年非行対策の推進									
重点事業等の名称		少年非行防止・健全育成強化事業									
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	生活安全対策・地域警察強化費						
現状・課題	<p>現状・課題 本年1～11月における全刑法犯検挙・補導人員の35.9%を少年が占め、少年人口千人当たりの刑法犯少年数は9.8人で全国ワースト1位、校内暴力事件での検挙は、56件64人で前年比+4件11人、平成22,23年度の文部科学省調査で小中高等学校における暴力行為発生率が2年連続全国ワースト1位になるなど、本県の少年非行情勢は極めて深刻な状況である。</p> <p>このような状況を打開するためには、非行に走らせず、落ち着いた学校環境を取り戻すために少年の規範意識を育成する取組が必要不可欠であることから、県下の警察署、少年サポートセンターの警察官等が各学校において非行防止教室を開催しているが、対応する職員数にも限りがあることから、平成24年11月末現在で実施率が38.7%にとどまっている。</p>										
事業内容・進め方	<p>事業内容 非行防止教室促進事業 【8,378千円】 少年の規範意識の育成を目的として警察官等が各学校で開催している非行防止教室を積極的に推進するため、法令知識や現場の実体験が語れる警察官OBを非行防止教室専門員として3名雇用する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>進め方 (4月～6月)開催準備(非行防止教室研修会、学校との調整) (7月～)順次開催</p>										
事業の意図・費用対効果等	<p>事業の意図・費用対効果 少年の規範意識の育成は「教育県岡山の復活」のための最重要課題であり、事件等の実体験や法令知識を踏まえた訴求力のある規範意識育成教育は警察のみが可能であることから、専門員を配置して、県下のすべての小中高等学校における開催を目指し、非行防止教室を積極的に推進する。児童・生徒の心に響く警察OBならではのリアリティーあふれる非行防止教室により、規範意識の育成を図り、児童・生徒を非行に走らせず、落ち着いた学校環境を取り戻すことにより、教育再生を図る。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="text-align: center;">設定目標 (数値等)</td> <td style="text-align: center;">「非行防止教室」 実施率</td> <td style="text-align: center;">現 状 38.7%(H24.11末)</td> <td style="text-align: center;">平成25年度 70%</td> <td style="text-align: center;">平成27年度 85%</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>コスト抑制のための工夫</p>						設定目標 (数値等)	「非行防止教室」 実施率	現 状 38.7%(H24.11末)	平成25年度 70%	平成27年度 85%
設定目標 (数値等)	「非行防止教室」 実施率	現 状 38.7%(H24.11末)	平成25年度 70%	平成27年度 85%							
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額					
	事業費(単位:千円)		8,378	8,378	8,378						
財源内訳	一般財源		8,378	8,378	8,378						
	起 債										
	その他特定財源										



子どもたちの豊かな心の育成 ～ 少年非行防止・健全育成強化事業 ～



県下の少年非行情勢は極めて深刻!!

- 全刑法犯検挙・補導人員の少年割合
→ 35.9% (平成24年1～11月)
- 少年人口に占める刑法犯少年の割合
→ **全国ワースト1位**
- 小中高等学校における暴力行為発生率
(平成22,23年度 文科省調査)
→ **2年連続全国ワースト1位**
- 校内暴力検挙数(平成24年1～11月)
→ 56件64人



「教育の再生」のためには、
児童・生徒の規範意識の育成が必要！



警察官等による非行防止教室の開催



警察官等による実体験や法令知識を踏まえたリアリティーあふれる授業を県下各学校において実施中。



《授業を受けた児童・生徒の感想》

- ・万引きの見張りも罪になることが分かった。
- ・注意し合えるのが本当の友達だと分かった。
- ・中学生の犯罪が多いことに驚いた。
- ・謝れば済むということは通用しないことが分かった。
- ・悪いことに誘われても断るような勇気を持ちたい。

しかし、県下すべての小中高等学校で開催するには限界が・・・
《 実施率38.7%(平成24年11月末現在) 》

非行防止教室促進事業 【8,378千円】
(警察官OBを非行防止教室専門員として雇用)

すべての
小中高等学校
で開催

落ち着いた
学校環境へ

「教育県岡山」
の復活！！



重点事業調書

[担当部局・課名：教育庁生徒指導推進室]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅱ 将来を担う人づくり																
夢	戦略プログラム名等	支え合いの心あふれる社会実現プログラム																
ラン	メッセージ・基本施策名	子どもたちの豊かな心の育成																
重点事業等の名称		問題行動等への対応																
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	心の教育総合推進事業													
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の不登校の出現率、小中高の暴力行為の発生率が2年連続で全国ワースト1位となるなど、非常に厳しい状況である。 ・不登校や暴力行為等に対しては、教員の指導力の向上と合わせて、早期発見・早期対応、関係機関と連携した取組が必要である。 ・問題行動等の背景や要因となる複雑な家庭環境や障害特性等の課題は、幼少期の段階から存在している場合が多いことから、関係機関が連携し早い段階から関与することが重要である。 																	
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>○問題行動等への対応<355,545千円></p> <p>拡充スクールカウンセラー（SC）配置事業【119,063千円】 課題の多い小学校への拡充配置 課題の多い中学校への傾斜配置</p> <p>新不登校関係の機関等との連携事業【3,000千円】 おかやま希望学園や不登校親の会、フリースペース等の関係者と連携を図ることで、不登校児童生徒の解消に資する。</p> <p>拡充・新スクールソーシャルワーカー（SSW）を活用した行動連携推進事業【79,004千円】 SSWを大幅に増員し、地域ごとに関係機関との行動連携を推進し、課題に応じたスクールソーシャルワークを展開する。就学前のケースにも関わり、問題行動等の背景や要因に早期から対応する。</p> <p>拡充暴力行為対策アドバイザー配置事業【29,159千円】 暴力行為等、生徒指導上の課題の大きい学校に警察OBを派遣し、組織的な生徒指導の推進について助言するとともに、学校と警察等、関係機関との橋渡しを行う。</p> <p>学級サポートチーム派遣事業 等【80,157千円】 不登校対策のための教員派遣事業【45,162千円】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉</p> <p>○不登校関係機関等との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかやま希望学園での不登校児童生徒の宿泊体験研修を2学期までに複数回実施するとともに、連携協力を円滑に実施するため総合教育センターの職員を定期的（週1回）に派遣する。 ・不登校親の会は、県下3会場で2学期までに実施する。 <p>○大幅に増員するSSWについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分な知識や共通理解をもとに活動するため、4月は研修や協議の時間をしっかり確保する。 ・7月までは、状況に応じてスーパーバイザーや経験豊富なSSWとの複数対応を積極的に行う。 ・9月以降は単独で活動できるようにし、各市町村教委の指導主事等と協働しながら、市町村の福祉部局や関係機関等との日常的な連携を基に、より多くのケースに積極的に関わる。 <p>○他の事業は年間を通じて継続的に取り組む。</p>																	
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSWの拡充により関係機関との行動連携が充実し、問題行動等への多角的な支援が拡大する。 ・SCの小学校への拡充により、不登校の未然防止に向けた相談体制の充実が図られる。 ・NPO等との連携により、不登校児童生徒等への指導・支援の方法を充実させることができる。 ・各専門家をチーム編成して課題解決に当たり、複合的な要因に即時に対応することで、事案の早期解決が図られるという効果が期待できる。 <p>〈設定目標〉 (数値等)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>現 状</th> <th>平成25年度</th> <th>平成28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>少・中・高等学校における不登校の出現割合</td> <td>16.3人 /1000人</td> <td></td> <td>10人以下 /1000人</td> </tr> <tr> <td>少・中・高等学校における暴力行為の発生割合</td> <td>8.6件 /1000人</td> <td></td> <td>4件以下 /1000人</td> </tr> </tbody> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専門家をチーム編成して課題解決に当たることで、事案の早期解決を図り、トータルコストの抑制を図る。 ・全ての学校に対して均等に実施するのではなく、課題の多い学校に資源を集中させることでコスト抑制を図っている。 							現 状	平成25年度	平成28年度	少・中・高等学校における不登校の出現割合	16.3人 /1000人		10人以下 /1000人	少・中・高等学校における暴力行為の発生割合	8.6件 /1000人		4件以下 /1000人
	現 状	平成25年度	平成28年度															
少・中・高等学校における不登校の出現割合	16.3人 /1000人		10人以下 /1000人															
少・中・高等学校における暴力行為の発生割合	8.6件 /1000人		4件以下 /1000人															
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額												
	事業費(単位:千円)	265,389	355,545	355,545	355,545													
財源内訳	一般財源	172,087	287,753	287,753	287,753													
	起 債																	
	その他特定財源	93,302	67,792	67,792	67,792													

問題行動等への対応

～早期対応や未然防止の取組の強化～

アクション1 《支援が必要な子どもへの直接的な対応》

新 不登校関係の機関等との連携事業

- おかやま希望学園との連携
- 不登校親の会との協議
- フリースペース関係者との協議・研究委託

拡充 スクールカウンセラー配置事業

- SCの小学校への配置拡大

拡充 暴力行為対策アドバイザー配置事業

- 警察との連携強化と組織的な生徒指導の推進

集団遊びの減少
自然・生活体験の不足
生活習慣、社会の変化 等

情報化の影の部分への関与
携帯電話、ゲーム 等

家庭の教育力の低下
登校を促す力の不足
過保護、過干渉、放任
しつけ不足、虐待 等

規範意識の低下
登校意欲の低下

生活習慣の未定着
自己抑制の未発達
コミュニケーション力の不足 等

「学校のルールに従えない」
「登校できない・したくない」

学校の組織的対応
担当者の明確な位置付け

不安定な集団
問題のエスカレート

人間関係の希薄化
集団の秩序の不安定さ
いじめ等の問題行動
組織的対応力の弱さ 等

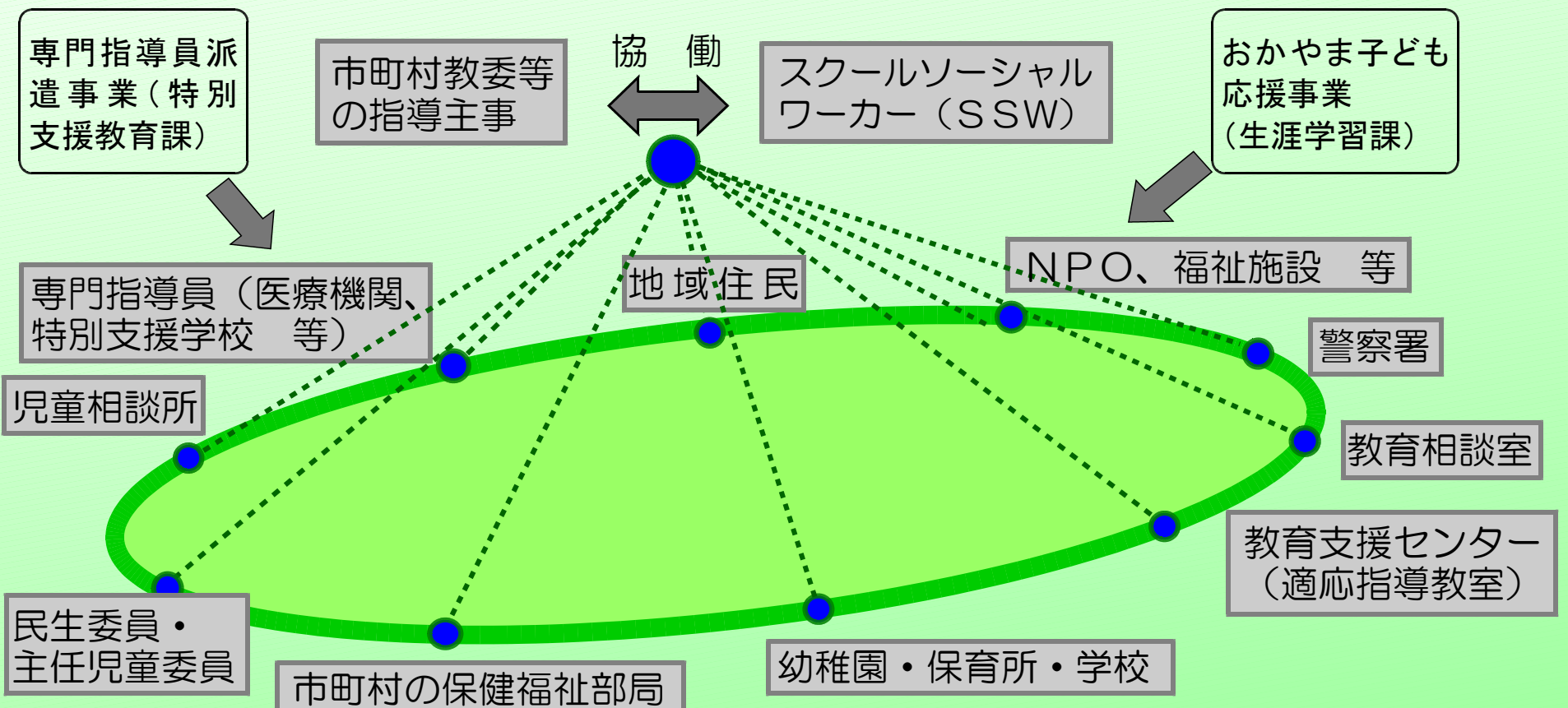
アクション2 《問題行動等の背景や要因への対応》

拡充・新 スクールソーシャルワーカーを活用した行動連携推進事業

アクション3 《集団の意識を高める取組》

新 心と命のサポート事業
新 明るい学校づくり支援事業

背景となる家庭の問題や障害特性等に対して、関係機関が連携し、多角的に関わっていくことが必要



- ◇指導主事とSSWが協働しチーム対応をコーディネートする。
- ◇定期的にSSWの連絡会議を開催し、対応力の底上げを図る。

重点事業調書

[担当部局・課名：教育庁生徒指導推進室・人権教育課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅱ 将来を担う人づくり												
夢	戦略プログラム名等	支え合いの心あふれる社会実現プログラム												
ラン	メッセージ・基本施策名	子どもたちの豊かな心の育成												
重点事業等の名称		「STOP!いじめ」プロジェクト												
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	心の教育総合推進事業・人権教育指導									
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県のいじめの認知件数は減少傾向にあったものの、平成24年9月に行った緊急調査では大幅に増加した。 最近のいじめは、多様化しており、中には陰湿化・潜在化し、発見しにくいものもある。 これまでも教科・領域等での学習やアンケート、相談活動等に基づいた取組を行ってきたが、いじめは、どの学校でもどの子どもにも起こり得るとの危機意識を持ち、いじめを生まない取組を充実させるとともに、早期発見・適切な対応をさらに徹底させる必要がある。 													
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>新いじめ問題対応専門チーム配置事業【6,199千円】</p> <p>ネットパトロール事業緊急雇用</p> <p>ネット上のいじめ等の問題に対応するため、学校非公式サイト等の検索や監視を行う。</p> <p>新心と命のサポート事業【7,537千円】</p> <p>NPOや司法関係者による出前授業の実施や命の大切さを実感させるプログラムを開発する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門チーム：年間を通じて取り組む ネットパトロール：年間を通じて取り組む 出前授業（4月～2月）：リスト作成→学校募集開始（4月～）→出前授業実施（6月～） プログラム開発：委員会設置（5月）→プログラム開発・試行（6～11月）→配付（3月） 													
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関・団体等と連携し、自他の生命の尊重や暴力防止等いじめの未然防止への取組を支援し、充実を図る。 教員のいじめへの対応力を強化することによりいじめの解消を図る。 これらにより、いじめの総数の減少への効果が期待できる。 <p>〈設定目標〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <tr> <td style="width: 25%;">いじめ等の未然防止のために児童生徒が主体的に活動している学校の割合</td> <td style="width: 25%;">現 状</td> <td style="width: 25%;">平成25年度</td> <td style="width: 25%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">27.2%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止を進めることで、いじめ対応へのトータルコストの抑制を図る。 						いじめ等の未然防止のために児童生徒が主体的に活動している学校の割合	現 状	平成25年度	平成28年度		27.2%		100%
いじめ等の未然防止のために児童生徒が主体的に活動している学校の割合	現 状	平成25年度	平成28年度											
	27.2%		100%											
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額								
	事業費(単位:千円)	254	13,736	13,736	13,736									
財源内訳	一般財源	254	7,537	7,537	7,537									
	起 債													
	その他特定財源		6,199	6,199	6,199									

子どもたちの豊かな心の育成(いじめ防止)

県教委



新 くいじめ問題対応専門チーム

警察OB、臨床心理士等 → 学校や市町村教委へ指導・助言
直接出向いての解決支援

学校



未然防止

- * 「いじめ防止プロジェクト」
 - ・いじめについて考える週間の実施
 - ・いじめ防止ポスターの募集・表彰



早期発見・早期対応

- * SC配置事業
- * SSW活用事業
- * ネットパトロール事業
- * 学校問題解決支援事業
- * 家庭環境改善サポーター配置事業
- * 生徒指導巡回員配置事業
- * コンビニとの連携 等



教育相談

- * 教育相談員配置事業
- * 県総合教育センターでの教育相談
- * 思春期サポート事業

家庭との連携協力

新 心と命のサポート事業

- ・[出前授業]NPOや関係機関等との連携・協働
- ・[資料整備]いじめ防止や命の大切さを実感させる教育プログラム開発、DVD整備等

* 教職員の体制整備

- ・教職員定数の改善
- ・いじめ対応等生徒指導に関する加配の定数増
- * 教員研修の充実

重点事業調書

[担当部局・課名：教育庁指導課・生徒指導推進室・人権教育課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅱ 将来を担う人づくり																
夢	戦略プログラム名等	支え合いの心あふれる社会実現プログラム																
ラン	メッセージ・基本施策名	子どもたちの豊かな心の育成																
重点事業等の名称		道徳教育等の充実と規範意識の醸成																
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	心の教育総合推進事業													
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの問題行動等の背景には、社会性や規範意識の低下等があるため、社会性や規範意識を育む必要がある。 「将来の夢や目標を持っている」と答えた子どもの割合は、小学校6年生で7割、中学校3年生になると4割強と大幅に減る傾向があり、目標を持ちにくいことで学習意欲につながらない面も考えられるため、将来に「夢」を持つことで自ら学ぶ意欲を持てる取組の充実を図る。 																	
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>○道徳教育等の充実と規範意識の醸成 <26,611千円></p> <p>新 目指せ「あいさつ日本一！」プロジェクト【1,000千円】 「県下一斉あいさつ運動」を核にして、学校での取組から地域や家庭へあいさつ運動の輪を拡げ、「あいさつ日本一！岡山県」を目指した取組を展開する。</p> <p>新 論語を活用した実践研究事業【816千円】</p> <p>新 生活信条活用事業 ・「おかやまの子どもの生活信条」カルタ活用事業【2,300千円】 生活信条を幼児・児童が遊びの中で覚えられるよう親しみやすいカルタにし、幼稚園や小学校で活用し、規範意識の醸成を図る。</p> <p>新 明るい学校づくり支援事業【9,712千円】 学級集団の状態を把握するとともに、児童会・生徒会など児童生徒自身による取組等の充実を図り、意欲的に学習や活動に取り組む学級、学校づくりを行う。</p> <p>道徳教育実践研究事業 等【12,783千円】</p>																	

<p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ日本プロジェクト：のぼり等作成（4～5月）、特色ある活動の募集（5～10月）、活動の普及（通年） 論語の活用：論語学習研究委員会をおよそ2ヶ月に1度開催し、活用についての研究・検討 生活信条の活用：カルタの作成（4～9月）、学校園での活用（10月～） 明るい学校づくり支援（4～2月）：「Q-U」実施→各学校における取組→「Q-U」実施 																		
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動の拡大実施による規範意識の醸成 生活信条を活用した取組の展開による生活ルールの徹底 先進事例の収集・普及による授業の規律の確保と規範意識の醸成 学級づくりや仲間意識の醸成を図り、学校へ行く意欲を高めるとともに学校の規律を保つ。 問題行動等の根底にある規範意識を醸成していくことで、落ち着いた学習環境を整え、学力向上に向けても効果が期待できる。 																	
〈設定目標〉 (数値等)		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>自校の「児童生徒は礼儀正しい」と答えた学校の割合</td> <td>現 状</td> <td>平成25年度</td> <td>平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小：81.8%</td> <td></td> <td>小：90%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中：78.5%</td> <td></td> <td>中：90%</td> </tr> </table>	自校の「児童生徒は礼儀正しい」と答えた学校の割合	現 状	平成25年度	平成28年度		小：81.8%		小：90%		中：78.5%		中：90%				
自校の「児童生徒は礼儀正しい」と答えた学校の割合	現 状	平成25年度	平成28年度															
	小：81.8%		小：90%															
	中：78.5%		中：90%															

<p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の特色ある取組の収集・普及を図り、より広範に取組を展開することでトータルコストの抑制を図る。 																		
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額												
	事業費(単位:千円)	7,449	26,611	26,611	26,611													
財源内訳	一般財源	7,449	25,610	25,610	25,610													
	起 債																	
	その他特定財源		1,001	1,001	1,001													

豊かな心の育成の推進 ～ 道徳教育等の充実と規範意識の醸成 ～

現状と課題



課題① 夢や希望が持ちにくい

・「夢や希望を持っている」
小: 70.5% (国: 69.8%)
中: 45.2% (国: 45.5%)

「全国学力・学習状況調査」
「青少年の意識に関する調査(岡山県)」から

課題② 自信を持って実行できない

・「自信を持ってやれることがない」
小: 23.1%
中: 35.4%
高: 52.1%

課題③ 人間関係が築きにくい

・「人とつき合うのが苦手だ」
小: 28.3%
中: 35.9%
高: 45.8%

心豊かなおかやまっ子の育成 生きる力 ～豊かな人間性～

ゆ めをもって よりよく生きようとする子ども

た くましく 規範意識の高い、他人を思いやる子ども

か んしゃの心で 豊かな人間関係を構築できる子ども



重点事業調書

[担当部局・課名：教育庁指導課・教職員課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅱ 将来を担う人づくり																										
夢プ	戦略プログラム名等	学校・家庭・地域の連携による教育推進プログラム																										
ラン	メッセージ・基本施策名	学力向上策の充実																										
重点事業等の名称		確かな学力の向上																										
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	学力向上総合推進事業																							
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国最低層に位置する本県児童生徒の学力状況の改善に向け、基礎基本の確実な定着や補充学習の拡大など、学校・家庭・地域が一体となった取組を重点的に進める。 																											
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>○学力向上策の充実 <84,661千円></p> <p>新学力向上市町村プロジェクト事業【7,000千円】 市町村が計画する学力向上に向けた独自の取組を集中的に支援する。</p> <p>新学力向上アドバイザー事業【2,071千円】 施策の徹底的検証を第三者が行い、課題に対する助言や指摘、改善に向けた提案を行う。</p> <p>新放課後学習サポート事業【29,430千円】 放課後の学習支援をサポートする支援員を学力状況に課題のある小学校180校に配置する。</p> <p>ホリデーわくわく学習支援事業【6,000千円】 土曜日や長期休業中等に市町村が実施する補充・発展学習事業を支援する。</p> <p>岡山県学力・学習状況調査 等【40,160千円】</p> <p>○きめ細かな指導の充実</p> <p>拡充35人学級の推進 国の定数改善計画に基づき、小3・小4で35人学級を実施する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査の実施による実態把握(4~7月)、調査結果を活用した取組の検証・改善(7~9月) 改善プランに基づいた各取組の推進(10~12月) 																											
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <p>○やる気のある市町村の取組の加速化の支援 市町村ごとの課題の明確化、必要な支援の重点化→重点地域の学力向上</p> <p>○授業の規律の確立</p> <p>○学力を伸ばす授業の実現 調査結果が下位の学校の授業の徹底的な改善 60校×3年→全体の40%の学校を強化</p> <p>○基礎学力の定着と家庭での学習習慣の確立 補充学習：小37.3%、中90.2% → 小65%、中100%に改善させる 家庭学習を1時間以上する児童生徒：小57.1%・中55.7% → 70%に改善させる</p> <p>○学習意欲の向上</p> <p>○きめ細かな指導の充実 学級規模を35人以下にすることで個に応じたきめ細かな指導が実施でき、落ち着いた学習環境を整えることができる。</p> <p>○特に課題となっている地域や分野に重点的に取り組むことで、学力向上を目指す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">〈設定目標〉 (数値等)</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">全国学力・学習状況調査(平均正答率)の全国順位</td> <td>小学校</td> <td>45位</td> <td></td> <td>10位以内</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>42位</td> <td></td> <td>10位以内</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合</td> <td>小学校</td> <td>57.1%</td> <td></td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>55.7%</td> <td></td> <td>70%</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村支援に関する事業について、委託料での全額支援から、一部補助事業とし、市町村にも財政負担をさせコストの抑制を図る。 					〈設定目標〉 (数値等)		現 状	平成25年度	平成28年度	全国学力・学習状況調査(平均正答率)の全国順位	小学校	45位		10位以内	中学校	42位		10位以内	授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合	小学校	57.1%		70%	中学校	55.7%		70%
〈設定目標〉 (数値等)		現 状	平成25年度	平成28年度																								
全国学力・学習状況調査(平均正答率)の全国順位	小学校	45位		10位以内																								
	中学校	42位		10位以内																								
授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合	小学校	57.1%		70%																								
	中学校	55.7%		70%																								
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額																						
	事業費(単位:千円)	42,361	84,661	84,661	84,661																							
	財源内訳	一般財源	42,361	84,661	84,661	84,661																						
		起 債																										
	その他特定財源																											

子どもたちの学力向上のために（学力向上策の充実）

改善すべき課題

課題① 学力状況

全国調査結果
小45位・中42位
→全国差が最大：小学校算数
▲3.3pt

- ・基礎基本の徹底指導
- ・小学校算数の学力改善

夢づくりプラン目標 H28.4全国学力調査 小学校・中学校 10位

課題② 授業

※全国平均との比較
・個に応じた指導
小▲10.4pt 中▲14.3pt
・校長による授業参観 中▲23.0pt
・外部人材の活用 小▲1.7pt 中▲9.9pt

- ・学校の意識改革
- ・外部活力の活用強化

課題③ 学習状況

※全国平均との比較
・平日の家庭学習習慣
小▲2.4pt 中▲10.7pt
・補充学習の実施
小▲24.5pt

- ・学習する場・機会の拡充

平成25～27年度の学力向上に向けた重点施策

○学力を伸ばす授業の実現

- ・個人の学習状況の的確な把握による個に応じた指導の実施
- ・徹底した授業改善による基礎基本の確実な定着

○授業の徹底的な改善

- [新]魅力ある授業づくり徹底事業**
- ・課題のある小・中学校を徹底指導
 - ・「教科指導の匠」等による訪問指導
 - ・60校を指定、各校10回訪問指導
 - ・学力上位県への教員の派遣による研修

○学習状況の把握

- 岡山県学力・学習状況調査
- ・中1悉皆、4教科+質問紙
 - ・結果に基づく中学校区での改善取組
- 全国学力・学習状況調査
- ・小6・中3悉皆、2教科+質問紙

○学習意欲の向上

- ・学習の基盤づくり
- ・チャレンジする場の創出

○規範意識の醸成

- 道徳教育等の充実(別掲)
- 授業の規律の確立
- ・好事例の収集、県下への普及

○チャレンジ精神の育成

- [新]学びのチャレンジコンテスト(小学校)**
- ・学びの定期便
月に1回チャレンジ問題を全児童に送付(H25.9～:6回実施)
 - ・チャレンジランキング
団場で挑む問題をWebで提供
優秀団体を表彰し意欲を喚起

○補充学習の充実・学習習慣の定着

- ・放課後学習サポートの拡充
- ・長期休業中の補充学習の拡充

○学校での取組

- [新]放課後学習サポート事業**
- ・教員による放課後学習サポートを支援
 - ・小学校180校に配置
- 家庭学習促進事業
- ・家庭学習手引きの活用
 - ・到達度確認テストの活用

○地域での取組

- ホリデーわくわく学習支援事業
- ・長期休業中等に実施する市町村の取組を支援
 - ・実施地域を拡充
- 放課後子ども教室
- ・放課後や土曜日等

基礎・基本の徹底的な定着
学習意欲の向上

地域活力による
学校支援の拡大

○きめ細かな指導の充実、組織力の向上

- ・35人学級の推進
- ・中核リーダーの育成・活用
- ・地域連携担当者の育成・活用

○地域資源の活用強化

- 子ども応援人材バンクの活用・強化
- ・多彩な人材の発掘・登録
 - ・学校と支援者のマッチング

○やる気のある市町村の取組の加速化の支援

- [新]学力向上市町村プロジェクト事業**
- ・市町村独自の学力向上に向けた取組を集中的に支援(1/2補助)
 - ・授業改善、家庭学習への取組等について目標を数値化



市町村の意識改革
自律的取組の拡大



検証・評価の結果を迅速に
プラン・事業に反映させま
す。

Action

Plan

Do

Check

アクションプランにもとづい
て事業を推進します。

[新]学力向上アドバイザー

- ・第三者アドバイザーによる施策・事業の徹底検証、助言、改善策の提案

重点事業調書

[担当部局・課名：教育庁生涯学習課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅱ 将来を担う人づくり												
夢	戦略プログラム名等	学校・家庭・地域の連携による教育推進プログラム												
ラン	メッセージ・基本施策名	地域力による教育の推進												
重点事業等の名称		”おかやま総ぐるみ”教育支援プロジェクト												
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	生涯学習活動促進費									
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域の教育力低下により、基本的な生活習慣の確立や学校生活を営む上での最低限必要となる躰ができていない子どもが増加し、孤立した家庭等において児童虐待等が発生 地域が総ぐるみとなって、学校と家庭を支援することにより、子どもの社会的自立及び学力の向上や不登校、問題行動の解消等につなげる必要がある。 													
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>施設①おかやま子ども応援事業【65,871千円】</p> <p>地域住民の参画による「学校支援地域本部」「放課後子ども教室」「家庭教育支援」の活動を効果的に組み合わせた取組を実施し、地域ぐるみで子どもを健やかに育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校支援地域本部：地域住民による学校支援ボランティアが学校教育活動を支援 放課後子ども教室：地域住民が、放課後・週末等に子どもへ学習やスポーツ、文化活動等の機会を提供 家庭教育支援：地域住民による家庭教育支援チームの活動や学習機会等の提供 <hr/> <p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会を開催するとともに、3つの活動を効果的に組み合わせた取組校区の視察や支援を行う（年間） 													
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域が総ぐるみとなって、子どもの学習や体験を充実する取組など、学校と家庭を支援する事業を実施する。これにより、地域で子どもたちを育てる体制を構築し、学校・家庭・地域の教育力の向上を図る。 <p>〈設定目標〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 5px 0;"> <tr> <td style="width: 20%;">学校支援地域本部の設置等を行っている中学校区の割合</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成26年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">56%</td> <td style="text-align: center;">70%</td> <td style="text-align: center;">80%</td> </tr> </table> <hr/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育力充実に、地域の教育力を活用して取り組む体制を構築する。 						学校支援地域本部の設置等を行っている中学校区の割合	現 状	平成25年度	平成26年度		56%	70%	80%
学校支援地域本部の設置等を行っている中学校区の割合	現 状	平成25年度	平成26年度											
	56%	70%	80%											
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額								
	事業費(単位:千円)	65,638	65,871	65,871	65,871									
財源内訳	一般財源	33,481	33,628	33,628	33,628									
	起 債													
	その他特定財源	32,157	32,243	32,243	32,243									

“おかやま総ぐるみ”教育支援プロジェクト

地域が総ぐるみとなって、子どもの学習や体験を充実する取組など、学校と家庭を支援する事業を実施することにより、地域で子どもたちを育てる体制を構築し、学校・家庭・地域の教育力の向上を図る。

心豊かでたくましい子どもの育成 学校・家庭・地域の教育力の向上



地域ぐるみで子どもを育てる体制整備

【拡充】おかやま子ども応援事業

学校支援地域本部

連携

放課後子ども教室

連携

家庭教育支援

- ◆地域住民が学校支援ボランティアとなり、学習支援や部活動支援、環境整備、学校行事支援等を実施
- ◆ボランティアによる子どもの不登校や暴力行為等問題行動の解決に向けた支援
- ◆地域住民のボランティアに加え、子育て支援団体や大学生等による支援を積極的に推進

【90→137箇所】

- ◆地域住民が、放課後や週末等に学習活動、体験活動、交流活動等を実施
- ◆中学生や高校生等による活動を推進し、活動の場づくりを推進
- ◆不登校傾向等の課題をもつ子どもへの学習活動や体験活動等の提供

【126→134教室】

- ◆地域における身近な場所での「親育ち応援学習プログラム」等を活用した学習機会や情報提供、相談活動等の実施
- ◆地域住民による家庭教育支援チームにより、孤立しがちな保護者等への支援を拡充
- ◆学校園との連携による家庭教育支援の充実

【11→12市町村】

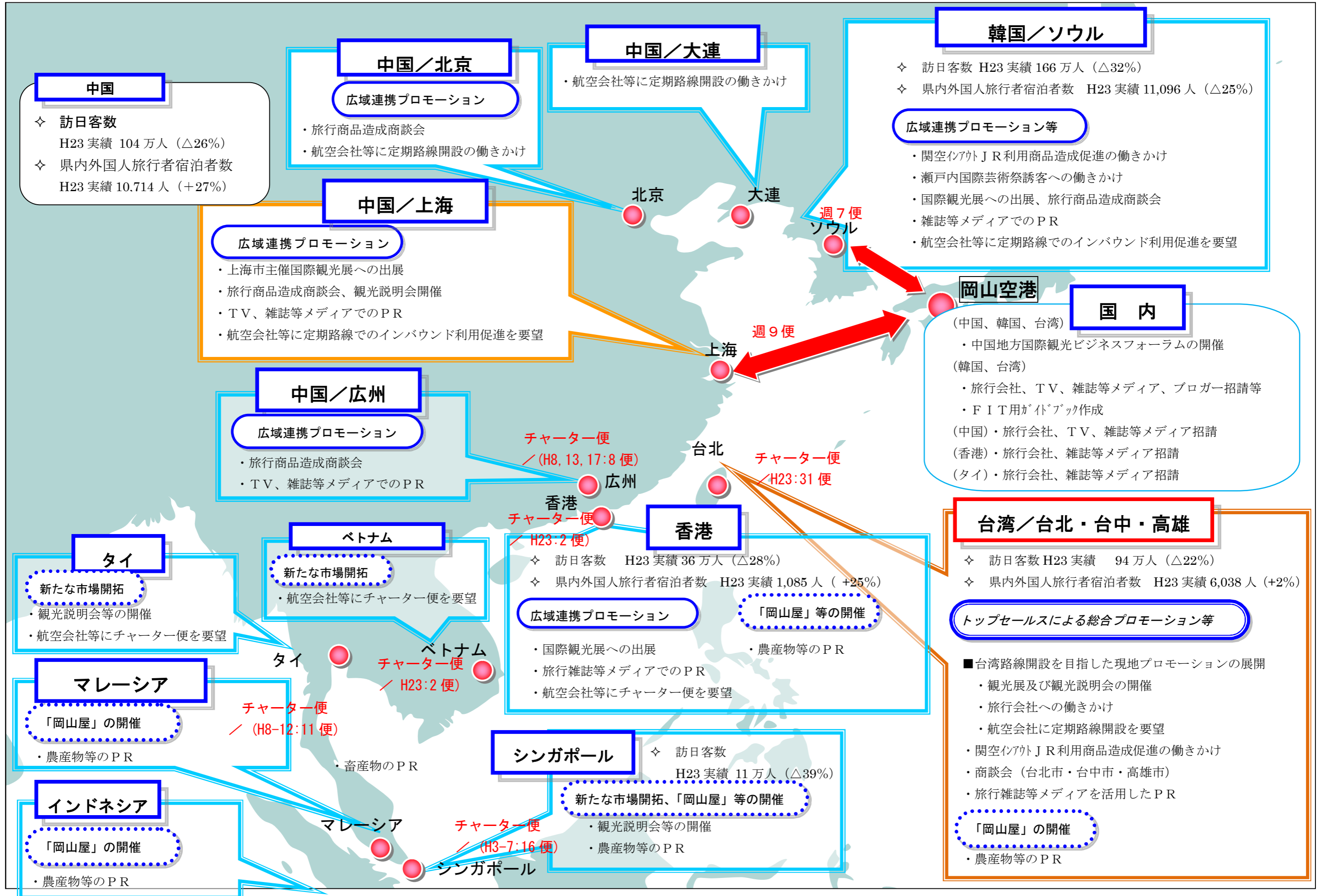


重 点 事 業 調 書

[担当部局・課名：産業労働部、県民生活部、農林水産部]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展につながる産業づくり					
夢	戦略プログラム名等	アジアへ！世界へ！産業グローバル戦略推進プログラム					
ラン	メッセージ・基本施策名	東アジア総合プロモーションの推進					
重点事業等の名称		東アジア総合プロモーション事業等					
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	国際観光推進事業費 空路利用促進事業費 農林水産物ブランド化推進事業費		
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 急速な成長を遂げている東アジアを主なターゲットに、外国人観光客を誘致するため、本県の第一級の観光資源や農産物等について認知度を高める必要がある。 ・ 県内産業を振興するため、アジアへの航空路線開拓が求められており、定期便やチャーター便の運航の積極的な誘致のためのインセンティブが不可欠である。 ・ 県外との競争に加え、韓国などの東アジア向け輸出が続伸しており、県産農産物等のブランド強化のスピードアップが必要 						
事業内容・進め方	<p>〈事業内容・進め方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 東アジア総合プロモーション推進事業【10,312千円】【産業労働部】《再掲》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾でのトップセールスの展開 ・ 新たな市場開拓（東南アジアでの観光プロモーション） 2 アジア路線開拓推進事業【23,500千円】【県民生活部】《再掲》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 航空会社に対する定期便の運航形態に近い形のチャーター便の運航支援 ・ 現地旅行会社に対する当該チャーター便を活用した岡山への送客助成 3 おかやま農林水産ブランドカアアップPR事業【17,952千円】【農林水産部】《再掲》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 注目を集めるプロモーション等、話題性のあるPRの展開 						
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インバウンドの促進による外国人旅行者宿泊者数及び観光消費額増による県内観光産業をはじめとした地域経済の活性化 ・ アジア路線開拓に伴う積極的な海外事業展開による県内産業の振興 ・ 輸出先として有望な地域におけるPR強化、販売拠点の拡大、取扱品目の多様化等による他県に先駆けたブランドの確立 						
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額	
	事業費(単位:千円)	14,324	51,764	51,764	38,329		
	財源内訳	一般財源	14,324	51,764	51,764	38,329	
		起 債					
	その他特定財源						

東アジア総合プロモーション案（イメージ）



重点事業調書

[担当部局・課名：県民生活部航空企画推進課]

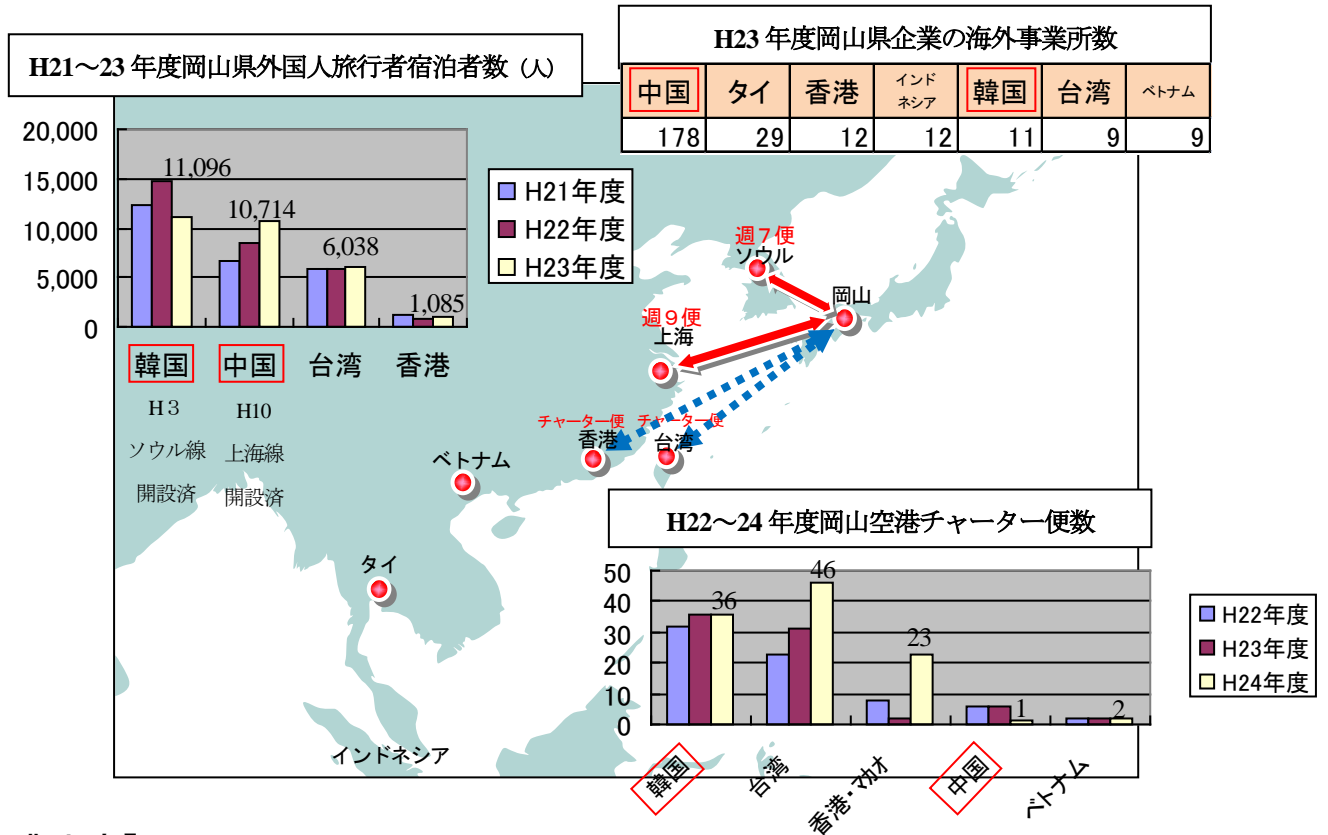
3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展につながる産業づくり				
夢	戦略プログラム名等	アジアへ！世界へ！産業グローバル戦略推進プログラム				
ラン	メッセージ・基本施策名	東アジア総合プロモーションの推進				
重点事業等の名称		アジア路線開拓推進事業				
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	空路利用促進事業費	
現状・課題	<p>〈現状・課題〉 アジアの元気と呼び込み、県内産業を振興するため、ソウル線、上海線に次ぐ岡山空港からの路線開拓が求められている。 台湾については、平成23年度の総合プロモーション以降、チャーター便の運航実績を積み重ねており、平成25年度から定期便就航実現への最終段階へとステージアップさせ、チャーター便の運航及び利用を強力に推進する必要がある。 併せて、近隣空港との激しい競争の中で、東アジアへの路線開拓を進めるためには、チャーター便の連続的な運航を積極的に誘致する必要があり、このためには航空会社及び現地旅行会社への一定のインセンティブの付与が不可欠である。</p>					
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉 定期便の運航形態に近い形で、一定期間内に双方向チャーター便又はインバウンドチャーター便の運航を行う航空会社に助成するとともに、こうしたチャーター便を活用して岡山への送客を行う現地旅行会社に対しインセンティブを付与する。</p> <p>1 双方向・インバウンドチャーター便運航促進事業【7,500千円】 30日間に6往復以上の双方向又はインバウンドチャーター便を運航する航空会社に助成 6往復以上:1,000千円 8往復以上:1,500千円</p> <p>2 国際チャーター便インバウンド送客促進事業【16,000千円】 対象のチャーター便を利用し、県内宿泊・観光地訪問等の要件を満たす団体旅行を支援 片道利用3千円/人 往復利用5千円/人</p>					

事業の意図・費用対効果等	<p>〈進め方〉 ①航空会社への働きかけ、事業のPR ②チャーター便の運航決定及びツアー商品の造成 ③利用実績の積み重ね ④さらなるチャーター便の運航及び定期路線化の要請</p>					
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉 国際チャーター便運航を一層促進することにより、近い将来の定期路線開設をめざすとともに、インバウンド旅客の増加による県内観光産業の活性化及びアジア路線開拓に伴う積極的な海外事業展開による県内産業の振興に資する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド旅客数増加見込み 約7,400人/年 ・これに伴う県内への経済波及効果 約2.1億円/年 (約28,400円/人) <p style="text-align: center;">※定期路線化が実現した場合の経済波及効果 約4.1億円/年</p>					
事業の意図・費用対効果等	〈設定目標〉 (数値等)	岡山空港の 国際線便数	現 状 週18便	平成25年度 週22便	平成28年度 週25便	

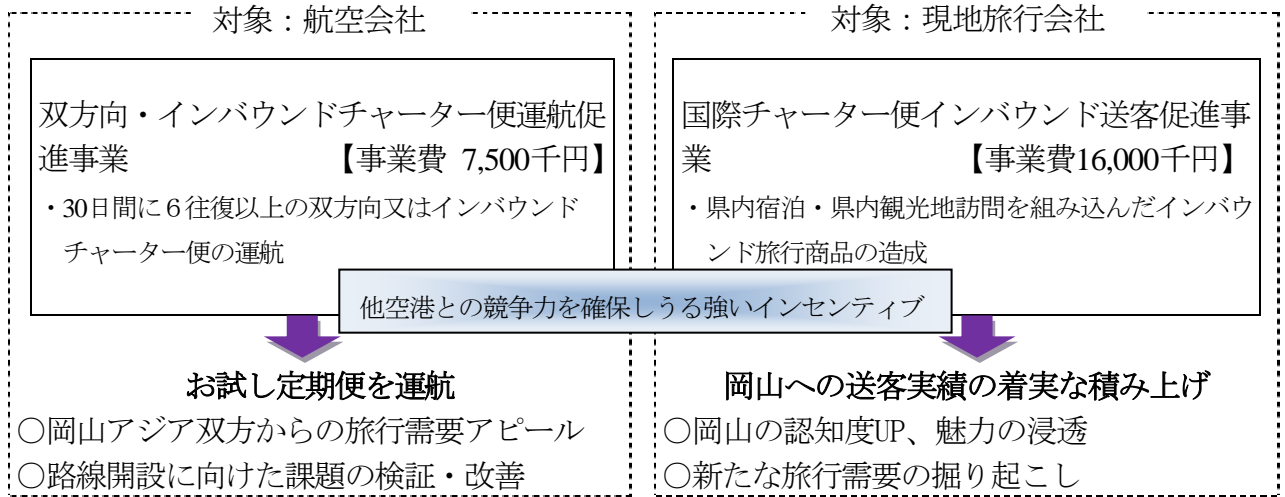
事業の意図・費用対効果等	<p>〈コスト抑制のための工夫〉 他県の類似事例と比べて、事業費を縮減、対象事業を特化。 (例) チャーター便運航・送客助成費の合計 (1機あたり150席で試算) 近隣A県(H24):1,150千円/往復 近隣B県(H24):1,100千円/往復 ⇒ 本県(H25):917~938千円/往復</p>					
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額
	事業費(単位:千円)		23,500	23,500	23,500	
財源内訳	一般財源		23,500	23,500	23,500	
	起 債					
	その他特定財源					

アジア路線開拓推進事業

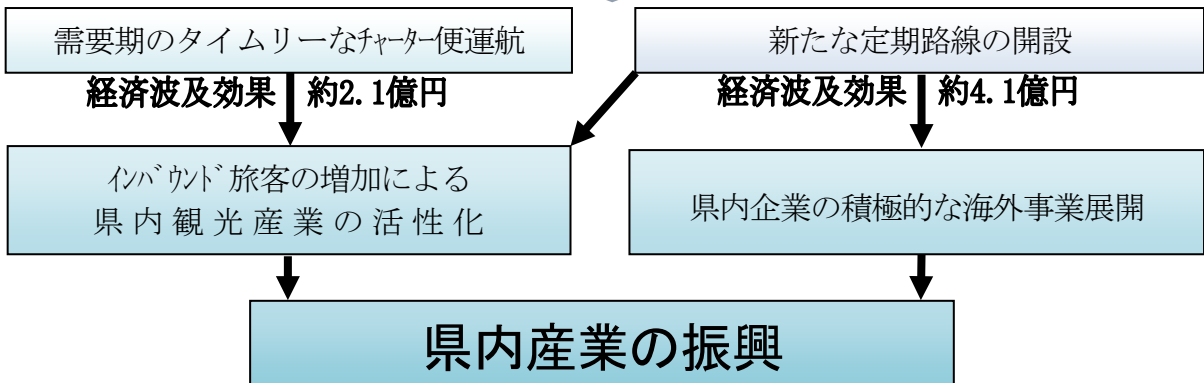
【現状】 東アジアからの旅客需要等と国際航空路線



【事業内容】



【効果】

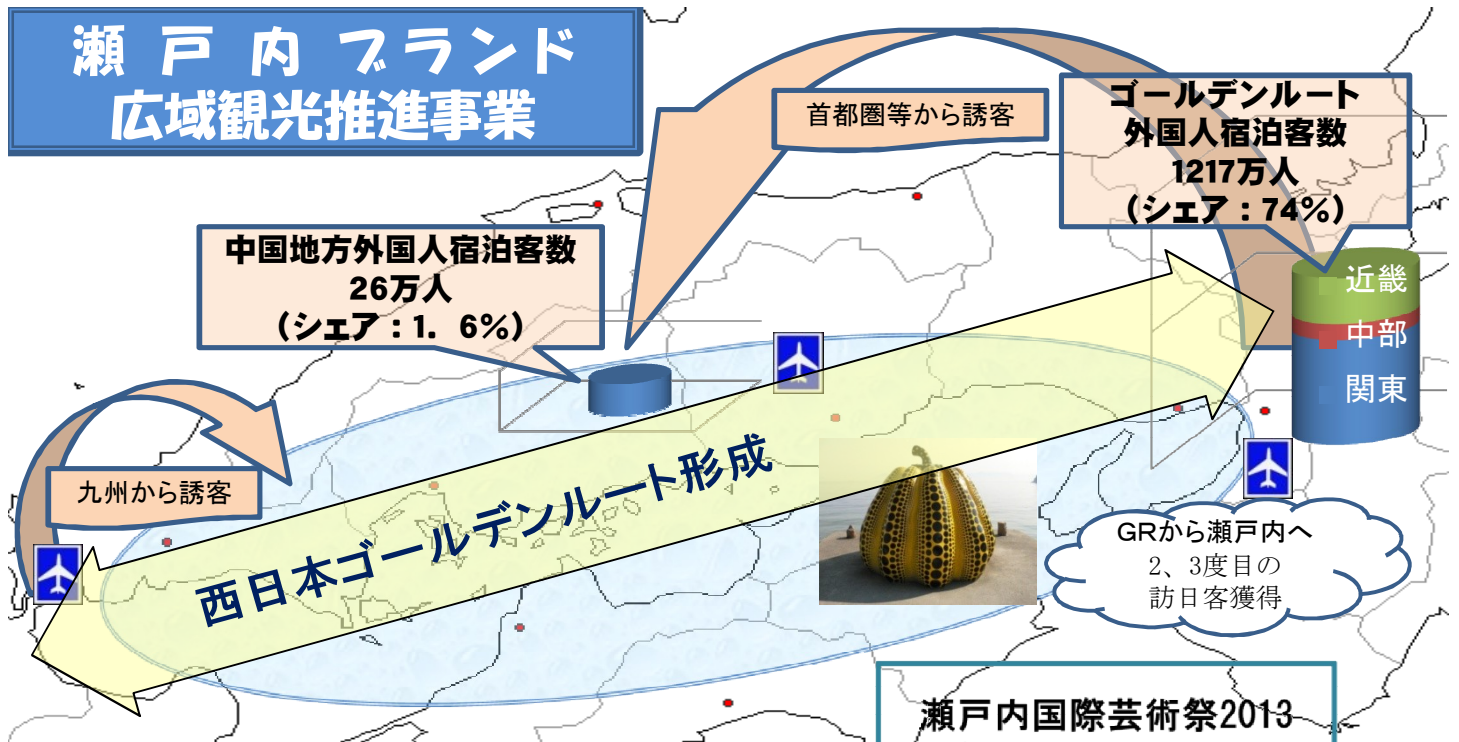


重点事業調書

[担当部局・課名：産業労働部観光課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展に繋がる産業づくり														
夢プラン	戦略プログラム名等	アジアへ！世界へ！産業グローバル戦略推進プログラム														
	メッセージ・基本施策名	東アジア総合プロモーションの推進														
重点事業等の名称		東アジア総合プロモーション推進事業、瀬戸内ブランド広域観光推進事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	国際観光推進事業費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○急激な経済成長を遂げている東アジアを主なターゲットに外国人観光客を誘致するため、本県第一級の観光資源や高品質な農産物の周知を図り、本県の認知度を高める必要がある。 ○西日本共通の観光資源である瀬戸内海を核として、沿岸各県やJR等と連携し国内外からの誘客を図る。 															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容・進め方〉</p> <p>1 東アジア総合プロモーション推進事業</p> <p>(1) 台湾でのトップセールスの展開【6,402千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾路線開設を目指し、現地でのプロモーションを展開（観光展、観光説明会開催等） <p>(2) 新たな市場開拓事業【3,910千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジア（シンガポール等での観光プロモーション） <p>2 西日本ゴールデンルート形成事業〈JR、関西圏等との連携〉</p> <p>(1) 関空インアウトJR利用ルート形成事業【3,806千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国・台湾個人客誘客事業（関空からの新幹線利用個人客の取り込み） ・欧米・富裕層誘客事業 <p>(2) 台湾路線利用ルート形成事業【1,500千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山関空相互利用商品造成（JR連携） ・岡山インアウト山陰山陽商品造成（鳥取・島根県連携） <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジア総合プロモーション推進事業(台湾路線の状況等により調整) ・西日本ゴールデンルート形成事業（4月～） 															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広域連携による瀬戸内への誘客促進及び観光消費額増による地域経済活性化 <p>〈経済波及効果見込み〉 ・西日本ゴールデンルート形成事業 12,980人 139百万円</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">〈設定目標〉 (数値等)</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外国人旅行者宿泊者数</td> <td style="text-align: center;">68,147人</td> <td style="text-align: center;">93,000人</td> <td style="text-align: center;">150,000人</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近隣県、民間との連携による費用分担 						〈設定目標〉 (数値等)		現 状	平成25年度	平成28年度		外国人旅行者宿泊者数	68,147人	93,000人	150,000人
〈設定目標〉 (数値等)		現 状	平成25年度	平成28年度												
	外国人旅行者宿泊者数	68,147人	93,000人	150,000人												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)		15,618	15,618	15,618											
財源内訳	一般財源		15,618	15,618	15,618											
	起 債															
	その他特定財源															

瀬戸内フランド 広域観光推進事業



○トップによる国内外への売り込み

- ・台湾（定期航空路線誘致等）
- ・首都圏、九州からの誘客促進

【新たな市場開拓事業】

新 東南アジアでのプロモーション
(シンガポール等)

瀬戸芸を誘客
ツールとして活用

- ・関西・岡山間フリーパス
- ・4日間7000円
- ・新大阪ー岡山のみ新幹線可
- ・2/1より宇野、児島まで延伸

西日本ゴールデンルート形成事業

～民間、近隣県との連携強化～

○関空⇄JR利用ルート形成事業（JRワイドエリアパス活用、新幹線利用客取込）

- ・台湾・韓国個人客誘客事業
(JR、近畿運輸局、和歌山、豊岡市、三都協議会等連携)
※「1人でも安心」ガイドブック作成、LCC利用商品造成、メディアでのPR等
- ・欧米富裕層誘客事業(ILTM(※)プレトリップ地連携)
※備前焼、長船刀剣、直島等を巡る富裕層向体験型特別商品造成

○台湾路線利用ルート形成事業

- ・岡山関空利用商品、山陰山陽商品造成事業

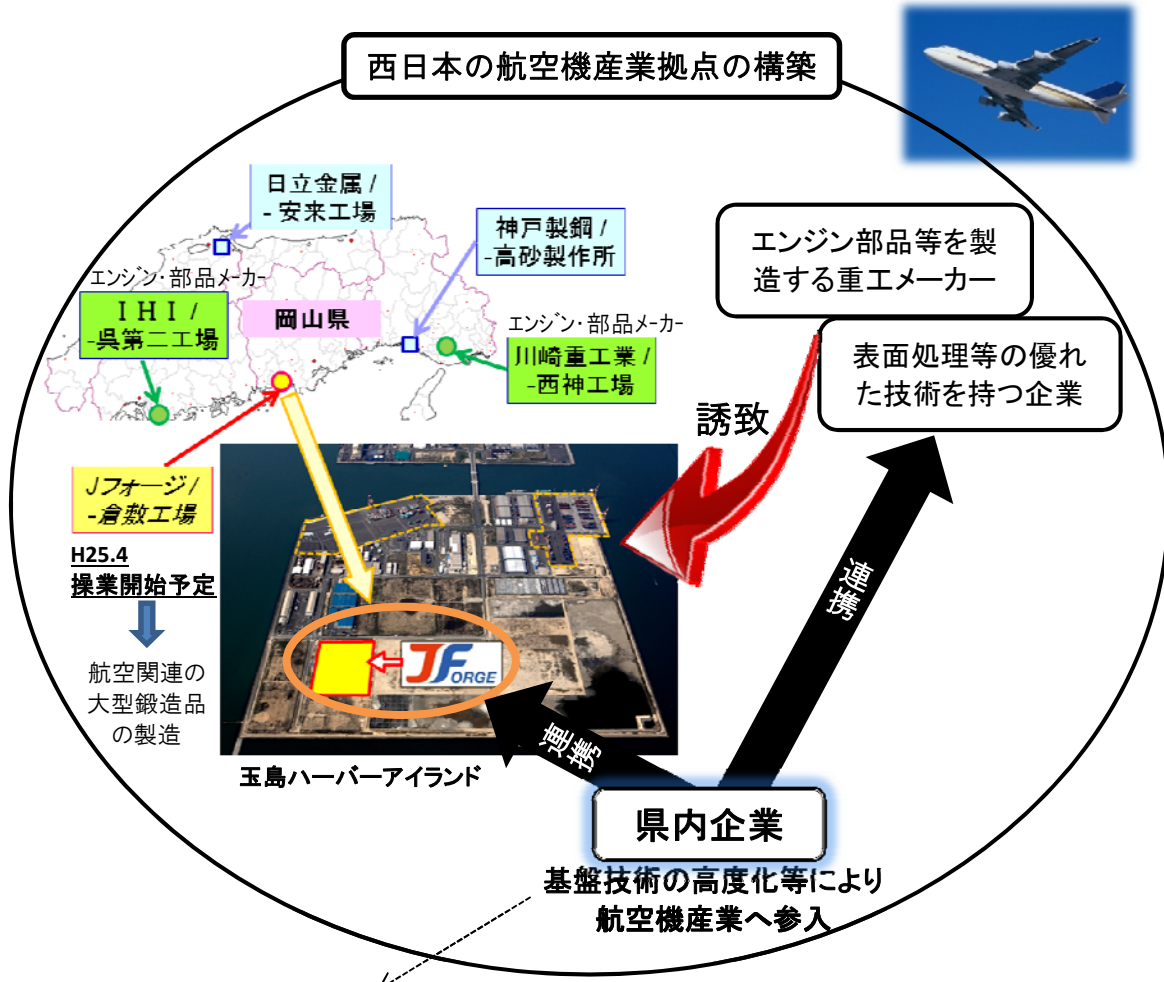
- ・(※) 世界富裕層旅行3大イベント
- ・完全招待制の商談会
- ・H25. 2月に日本版が開催予定
- ・観光庁が岡山をプレトリップ地に選定

重点事業調書

[担当部局・課名：産業労働部産業振興課・工業技術センター]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展につながる産業づくり														
夢	戦略プログラム名等	成長につながる企業の誘致・集積プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	西日本の航空機産業拠点の構築														
重点事業等の名称		航空機関連産業技術力強化事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	技術振興事業費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉 航空機をはじめ幅広い分野で部品の軽量化・高機能化が求められており、今後成長が見込まれる航空機産業への対応力を強化するためには、県内企業のニーズを踏まえ、先端材料であるチタン合金などの難削材について、加工技術の高度化や用途開発を促進する必要がある。</p>															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉 将来的な航空機産業への参入を視野に入れ、県内企業のチタン合金などの難削材への切削加工や表面処理、熱処理等の加工技術の高度化を促進するため、技術力向上を目指す意欲ある企業を募って産学官連携の「おかやま航空機材料等技術研究会」を立ち上げ、工業技術センターが技術面でサポートし、専門家によるセミナーや情報提供、企業の研究開発課題の具体化、技術高度化プロジェクト創出などの支援を行い、企業の競争力強化を図る。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉 参入意欲のある企業・分野等の大まかな把握（～6月） 最初に着手する研究会のテーマ決定 おかやま航空機材料等技術研究会の立ち上げ（9月） 専門家によるセミナーや情報提供の実施等、支援活動の開始（9月～） 県内企業のニーズ及び業界動向等の調査（通年）</p>															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉 日本エアロフォージ㈱が玉島ハーバーアイランドに工場を建設し、平成25年度からチタンの鍛造を開始する予定であり、これまで県内企業は航空宇宙機器マネジメント規格取得や共同受注グループによる取組などを行っているが、航空機産業に本格的に参入するためには、チタンをはじめ様々な難削材のより高度な加工や表面処理等の技術の高度化が必要であり、県としても企業の基盤技術高度化に向けた取組を支援していく必要がある。 当事業を進めることにより、難削材の高度化等に取り組んでいる企業の競争力をさらに高め、航空機分野のみならず、医療機器分野など他の分野での用途開発も期待される。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">〈設定目標〉 (数値等)</td> <td style="width: 30%;">先端材料応用技術の研究開発プロジェクト数</td> <td style="width: 10%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成27年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉 民間に委託できる業務は民間に委託する等、効果的かつ効率的に事業を実施する。</p>						〈設定目標〉 (数値等)	先端材料応用技術の研究開発プロジェクト数	現 状	平成25年度	平成27年度			—	—	2
〈設定目標〉 (数値等)	先端材料応用技術の研究開発プロジェクト数	現 状	平成25年度	平成27年度												
		—	—	2												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)		4,608	4,608	4,608											
財源内訳	一般財源		4,608	4,608	4,608											
	起 債															
	その他特定財源															

航空機関連産業技術力強化事業



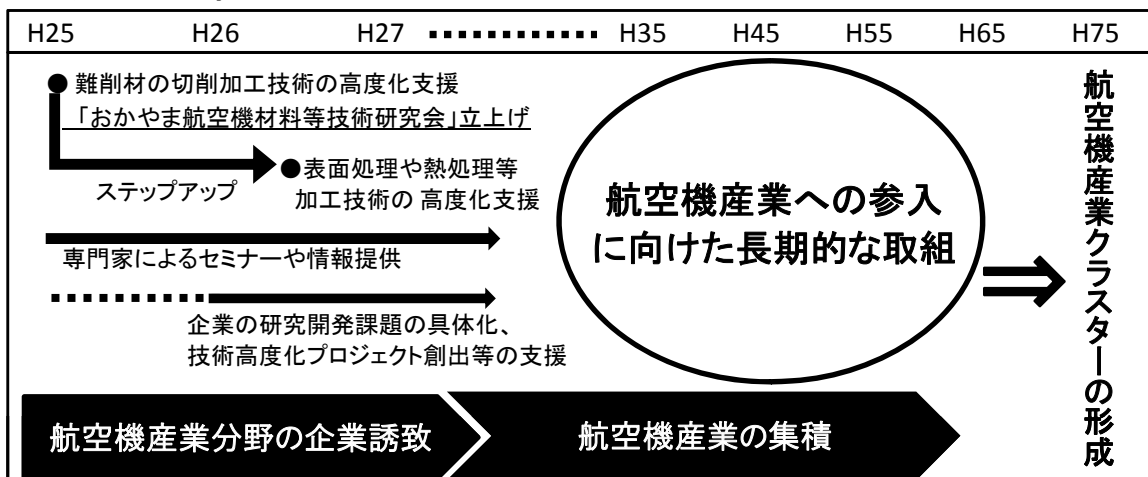
おかやま航空機材料等技術研究会の立ち上げ

航空機をはじめ幅広い分野で部品の軽量化・高機能化が求められていることから、航空機分野などで用いられている先端材料であるチタン合金などの難削材について、チャレンジする県内企業の切削加工や表面処理等の加工技術の高度化や用途開発等の促進を図るため、新たに研究会を立ち上げる。

【研究会の目的】

- ・平成25年度から操業を開始する予定の日本エアロフォージ㈱との連携など航空機産業に参入するためには、県内企業のチタン等難削材の加工技術の高度化が課題
- ・このため、各社の研究開発テーマ探索を支援、企業間連携の促進、サポインなどへのプロジェクト創出等、技術力向上を通じた意欲的な企業の競争力強化を図り、日本エアロフォージ㈱や重エメーカーに信頼されるパートナー企業を1社でも多く輩出

■スケジュール等



重点事業調書

[担当部局・課名：農林水産部・農政企画課対外戦略推進室]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展につながる産業づくり														
夢プ	戦略プログラム名等	儲かる産業に！攻めの農林水産業育成プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	農林水産物のブランド確立・農林水産物の輸出促進														
重点事業等の名称		おかやま農林水産ブランド力アップPR事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	農林水産物ブランド化推進事業費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産農産物等のブランド化に向け、これまで首都圏やアジア地域の有望な場所において販路開拓を進め、一定の成果とコネクションが構築された。 ・国内では、近隣他県がマスコミを使った積極的な農産物等のPRを強化している。 ・海外では、日本の産地間競争に加え、韓国などが輸出を伸ばしてきている。 ・このため、県産農産物等のブランド強化のスピードアップが必要。 															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>国内のみならず世界に通じる「岡山ブランド」の確立を目指し、関係団体と連携しながら、首都圏及び海外において積極的な宣伝・販売活動を展開すると共に、農産物等の輸出に向けたアジア地域での拠点づくりと市場開拓を行っている。</p> <p>今後は、これら現場中心のプロモーションの実施に加え、情報発信力のある海外市場において県産農産物等を強くアピールするなど、近隣県及び他国に負けないよう、スピード感を持ち、知名度向上とブランド力の強化を図る。</p> <p>1 新 おかやま農林水産ブランド力アップPR事業【4,517千円】</p> <p>(1) SNS等を活用した情報発信 周辺諸国に対してより情報発信力のある香港、シンガポールでの県産農産物等の情報発信</p> <p>(2) 小売店等との連携によるPRの強化 現地の各種媒体（フリーペーパー、インターネット広告等）を利用した広告を実施</p> <p>2 首都圏情報発信事業【6,145千円】 百貨店、老舗果物専門店等との連携によるプロモーションの実施</p> <p>3 ブランド確立輸出促進事業【13,435千円】 商業ベースでの定着促進(海外での拠点づくり等)、新たな販路の開拓(テスト輸出等)等</p> <p>-----</p> <p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点PR期間：首都圏（9月頃）、海外（8月頃） ・SNS等を活用した海外での情報発信：6月～10月 															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックと連動した効果的なPRの実施により、ブランド化のスピードを速め、県産農産物等の知名度や商品価値を高めて、販売拡大や農家所得の向上につなげる。 ・輸出先として有望な地域において、PRの強化と共に販売拠点の拡大、取扱品目の多様化等を同時に進め、他県に先駆けたブランドの確立を早急に図り、台湾における県産ピオーネのようにナンバーワンブランドとしての地位を確立させる。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 15%;">〈設定目標〉 (数値等)</td> <td style="width: 15%;">フェイスブックの ファン数 (人)</td> <td style="width: 10%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成27年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">5,000</td> <td style="text-align: center;">10,000</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <p>和歌山県の類似事例と比較すると約19%の事業費を縮減 和歌山県(H24):5,594千円 (県産品大消費地情報発信事業) ⇒本県(H25):4,517千円</p>						〈設定目標〉 (数値等)	フェイスブックの ファン数 (人)	現 状	平成25年度	平成27年度			0	5,000	10,000
〈設定目標〉 (数値等)	フェイスブックの ファン数 (人)	現 状	平成25年度	平成27年度												
		0	5,000	10,000												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)	20,794	24,097	24,097	4,517											
財源内訳	一般財源	20,794	24,097	24,097	4,517											
	起 債															
	その他特定財源															

【新】おokayama農林水産ブランドカアアップPR事業

海外でのプロモーション <ブランド確立輸出促進事業>

これまでの取組

現場中心の
プロモーション
購入意欲のある既存の
消費者に向けた
アピール

香港

台湾

クアラルンプール

シンガポール

ジャカルタ

新たな市場の開拓

輸出促進のための情報提供と
体制強化

成果と現状

- ・台湾の中秋節におけるピオーネなどに一定の成果
- ・各国のバイヤー等との様々なコネクションを構築
- ・現地では日本の各産地間の競争に加え、韓国、チリなど新興国が台頭

今後の取組（PRの強化）

海外でのPRの強化

■SNS等(フェイスブック)を活用した情報発信（情報発信力のある香港、シンガポールを重点に、英語、中国語【繁体字】で県産農産物の情報を発信）

■連携先小売店等との連携によるPRの強化（フリーペーパー、インターネット広告等）

ブランド強化の
スピードアップ

これまでに培った各国の
コネクションを活用し、
それぞれの国の実情に
あったPR手法を導



情報発信力のある地域
に向けた継続的且つ
話題性のあるPRの
実施

- SNSと連携させたプロモーションの実施
- 海外の効果的なエリアでの継続的で
話題性のあるプロモーション



これまで培ってきた
現場を中心としたプロ
モーション

環境の変化に対応したブランド強化のスピードアップ

目指す姿

- ◎国外におけるブランド化進展のスピードが速まり、
県産農産物及び農産加工品等の知名度や商品化価値が上昇。
- ◎国内外において、販売量の拡大、取扱品目の多様化等が進展。
- ◎有望な輸出先国において県産農林水産物のトップブランド化が進む。



世界に通じる
岡山ブランドの確
立

重点事業調書

[担当部局・課名：農林水産部・農産課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展につながる産業づくり								
夢	戦略プログラム名等	儲かる産業に！攻めの農林水産業育成プログラム								
ラン	メッセージ・基本施策名	農林水産物のブランド確立・次世代フルーツの生産拡大								
重点事業等の名称		“ご当地農産物”プロモーション事業								
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	園芸作物生産振興対策費					
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <p>本県産果樹、野菜のメイン市場である関西圏は、東日本大震災以降、西日本の産地に注目が集まる中で、その重要性が高まっていることから、県産農産物の存在感を高め、ブランド力向上、需要拡大等に積極的に取り組む必要がある。</p> <p>また、県産農産物のブランド化に向けて、新たなPRや需要の開拓が求められている。</p>									
事業内容	<p>〈事業内容〉</p> <p>1 新 旬の岡山！関西プロモーション【3,500千円】 県産の果物や野菜のメイン市場である関西圏において、消費宣伝や販売促進への取組を強化する。 (1) 市場、百貨店でのトップセールス 市場関係者の要望が強いトップセールスを実施 (2) 岡山フェアの開催 大阪市内の百貨店で「岡山フェア」の開催</p> <p>2 新 企業とのタイアップによる新たな需要開拓【1,000千円】 異業種パートナーモデルとして、トップクラブチームと協力して果物をPRし、相互に新たなファン層を開拓</p>									
進め方	<p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関西圏でのトップセールス、岡山フェア(8～9月) ・ 新たな需要開拓(9～11月) 									
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <p>大市場である関西圏での販売力の向上と新たな需要の開拓により、ブランド力の向上や需要の拡大が図られ、本県農業を儲かる成長産業へと発展させる。</p> <p>〈設定目標〉 (数値等)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">大阪市場での ピオーネ占有率</td> <td style="padding: 5px;">現 状 55%</td> <td style="padding: 5px;">平成25年度 57%</td> <td style="padding: 5px;">平成27年度 60%</td> </tr> </table> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <p>トップセールス、企業イメージを活用するなど話題性の高い取組による効果的なPR</p>						大阪市場での ピオーネ占有率	現 状 55%	平成25年度 57%	平成27年度 60%
大阪市場での ピオーネ占有率	現 状 55%	平成25年度 57%	平成27年度 60%							
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額				
	事業費(単位:千円)		4,500	4,500	4,500					
財源内訳	一般財源		4,500	4,500	4,500					
	起 債									
	その他特定財源									

新 ”ご当地農産物”プロモーション事業

【 課 題 】

- 県産農産物のメイン市場である関西圏は、震災以降、重要性が高まっている。
- 多様な消費ニーズに対応し、攻めの販売が求められている。

【 対 応 方 向 】

- 関西圏での売り込みを強化し、本県農産物のブランド力を向上させる。
- 企業との連携による新たなPRや需要を開拓。



旬の岡山！関西プロモーション

- ★ 市場、百貨店でのトップセールス
- ★ 関西圏で初の岡山フェアを開催

企業とのタイアップによる 新たな需要開拓

- ★ スポーツのトップクラブチームと協力して果物をPR
- ★ 相互に新たなファン層を開拓



販売力UP

本県農業を儲かる成長産業へ



重点事業調書

[担当部局・課名：農林水産部・水産課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展につながる産業づくり																																																																				
夢	戦略プログラム名等	儲かる産業に！攻めの農林水産業育成プログラム																																																																				
ラン	メッセージ・基本施策名	農林水産物のブランド確立																																																																				
重点事業等の名称		安全・安心・高品質で“岡山かき”を日本一にするプロジェクト																																																																				
終期設定：平成26年度		予算区分	一般	事項名	農林水産業基盤整備費 水産経営構造改善事業費																																																																	
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県水産業の生産金額は約83億円であり、漁船漁業が32億円、ノリ養殖業が20億円、カキ養殖業については生産が好調で単価も良く31億円となっている。特に養殖カキは、全国第2位の生産量を誇る岡山ブランドである。 本県は全国で唯一のカキ共同生産共同出荷体制（「岡山モデル」）により、身の大きさ、鮮度保持、衛生管理が徹底されており、マーケットでは高品質と高い評価を得ているが、将来にわたってトップレベルの評価を維持させ、カキ養殖業を足腰の強い産業へと育成することが必要である。 県漁連が行う岡山モデルの共同集出荷の約50%を占める備前市日生町頭島の施設が老朽化しており、上記体制の維持が困難な状況にあるとともに、高潮対策が必要である。 																																																																					
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>平成25～26年度に日生町漁業協同組合が国の補助事業を活用し、高度衛生対応で処理能力の高い最新鋭のカキ加工処理施設（カキむき身加工場）を建設する。県は、岡山県農林水産業統合補助金交付要綱に基づき、事業費の20%を補助する。</p> <p style="text-align: right;">○漁業経営構造改善事業の年次計画 （単位：千円）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事業費</th> <th>国費</th> <th>県費</th> <th>工事内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25</td> <td>53,000</td> <td>29,150</td> <td>10,600</td> <td>設計、準備工（杭購入・打設）</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>500,000</td> <td>275,000</td> <td>100,000</td> <td>建物（約1,800m²）、生産ライン18式</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈進め方〉カキの生産時期（10月中旬～3月）を除いて工事を実施する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="6">平成25年度</th> <th colspan="6">平成26年度</th> </tr> <tr> <th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th> <th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">← 設計</td> <td colspan="3">← 契約</td> <td colspan="3">← 杭購入・打設</td> <td colspan="3">← 撤去 契約</td> <td colspan="3">← 建物・機器整備等</td> <td colspan="3">← 稼働</td> </tr> </tbody> </table>						年度	事業費	国費	県費	工事内容	H25	53,000	29,150	10,600	設計、準備工（杭購入・打設）	H26	500,000	275,000	100,000	建物（約1,800m ² ）、生産ライン18式	平成25年度						平成26年度						7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	← 設計			← 契約			← 杭購入・打設			← 撤去 契約			← 建物・機器整備等			← 稼働		
年度	事業費	国費	県費	工事内容																																																																		
H25	53,000	29,150	10,600	設計、準備工（杭購入・打設）																																																																		
H26	500,000	275,000	100,000	建物（約1,800m ² ）、生産ライン18式																																																																		
平成25年度						平成26年度																																																																
7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1																																																				
← 設計			← 契約			← 杭購入・打設			← 撤去 契約			← 建物・機器整備等			← 稼働																																																							
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国で最も安全で安心、高品質なカキを需要に応じて生産し、トップレベルの市場評価をさらに発展させることで生産者価格を高め、カキ養殖業を一層儲かる産業へと育成する。 後継者が安心して就業することができるとともに、離島唯一の産業である水産業が活性化することで離島振興も図られる。 この施設で4.8億円のカキを出荷し、県全体では年間30億円の生産体制を確立する。 <p>〈設定目標〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 30%;">岡山かき生産金額 (数値等)</td> <td style="width: 35%;">農林水産プラン(平成19年度)</td> <td style="width: 35%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">20億円</td> <td style="text-align: center;">30億円</td> </tr> </table> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <p>ベルトコンベアー等の既存機器を有効利用することにより、事業費を40,000千円縮減する。</p>						岡山かき生産金額 (数値等)	農林水産プラン(平成19年度)	平成28年度	20億円	30億円																																																											
岡山かき生産金額 (数値等)	農林水産プラン(平成19年度)	平成28年度																																																																				
	20億円	30億円																																																																				
事業費の見積もり	区分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額																																																																
	事業費(単位:千円)		39,750	375,000																																																																		
財源内訳	一般財源		10,600	100,000																																																																		
	起債																																																																					
	その他特定財源		29,150	275,000																																																																		

安全・安心・高品質で“岡山かき”を日本一にするプロジェクト

現状

- 生産量全国第2位。
- 生産量の約半分が共同利用施設で加工され、県漁連の加工流通センターで袋詰め・出荷されている。
- 安全安心なカキで東京市場でも高評価、「カキオコ」の人気等で需要は高まっている。



カキの需要増加

問題点

- ①消費者の食の安全・安心に対する需要が高いが、施設が老朽化しており、高度な衛生管理への対応が不十分である。
- ②カキ処理能力(むき身加工能力)が足りず、カキの需要が高まる年末等の生産が追いつかない。
- ③埋立地であるため、地盤高が低く、高潮による浸水対策が必要である。

狭い室内で加工処理能力が低い！

2経営体が交代で1レーンを使用しているため、不効率！



加工場の内部



水揚げ用ベルトコンベア

整備後

カキ処理施設を整備（日生町漁協・頭島）

効果

【むき身加工】

⇒H25、26整備予定

- むき身加工処理能力が向上し年末需要等に対応可能
- ・ベルトコンベアの能力向上
(1レーン/2経営体⇒1レーン/1経営体)
→生産者ごとの生産量が平準化、朝獲れ・加工により鮮度UP
- 衛生管理体制が高度化
- 建物基礎の嵩上げにより高潮への対応が可能



他地区の近代的な施設

カキ加工機器を整備（県漁連・備前市日生町）

効果

【袋詰め加工】

⇒H24整備済

- 生産能力が向上し袋詰め数が増加【1,800袋/時⇒2,200袋/時】
- ・日出荷量が増加



県漁連のカキ加工機器

効果

事業実施

- 日本一の衛生管理と品質で“岡山かき”トップブランドの維持
- 水産業の活性化による離島振興

重点事業調書

〔担当部局・課名：知事直轄危機管理課〕

3次	基本戦略名称等	基本 安全・安心な地域づくり					
夢	戦略プログラム名等	県民の命を守る防災・減災プログラム					
ラン	メッセージ・基本施策名	セーフティ・ニューディールの推進					
重点事業等の名称		代替災害対策本部整備事業					
終期設定：平成25年度		予算区分	一般	事項名	防災情報ネットワーク高度化事業費		
現状・課題	<p>現状・課題</p> <p>県庁防災・危機管理センターに設置する県災害対策本部は、大規模災害時において市町村や国等の防災機関と連携し、被害情報の収集や応急対策方針の決定など、災害対策の司令塔（中枢組織）として重要な役割を担っている。</p> <p>大規模地震により県庁舎が被災し、防災行政無線の通信機器や回線が損傷するなどの不測の事態により防災・危機管理センターに本部を設置できない場合は、県立図書館（免震構造）に代替災害対策本部を設置する計画としている。</p> <p>しかし、県立図書館には、災害時にも対応可能な通信設備等が未整備のため、いつ発生するか分からない災害に備え、本部業務に必要な通信設備を早急に整備する必要がある。</p> <p>平成24年度には、県立図書館に防災用発電機を整備し、停電時や図書館の発電機（地下設置）が浸水した場合においても、衛星通信装置など代替災害対策本部室等に必要な防災施設・設備に電力を供給可能とした。</p>						
事業内容・進め方	<p>事業内容</p> <p>県立図書館に防災行政無線を整備し、代替災害対策本部に必要な防災通信体制を構築する。また、代替本部会議室に電話、FAX、パソコン等が増設できるよう配線整備を行うとともに、消防防災ヘリからの現場映像の受信ができるよう映像伝送システムを整備する。</p> <p>なお、電話、FAX、パソコン等の機材については、県立図書館の既存設備を最大限活用し、コスト削減を図る。</p> <hr/> <p>進め方</p> <p>入札・契約（5月）、整備工事（7月～2月）、運用訓練（3月）</p>						
事業の意図・費用対効果等	<p>事業の意図・費用対効果</p> <p>大規模地震時に県庁舎が被災した場合においても、国、県、市町村等との防災通信体制を確保し、県災害対策本部業務を遂行できるだけの代替機能を確保する。</p> <p>代替施設として既存施設・設備を最大限活用するとともに、必要とされる最小限の本部機能を確保する整備内容とする。</p> <hr/> <p>コスト抑制のための工夫</p> <p>県立図書館の会議室や機材（電話、FAX、パソコンなど）を防災用途に最大限活用するとともに、県庁舎の既設無線設備を図書館に移設再利用することにより、整備・運用管理コストの抑制を図る。</p> <p>・既設の無線機器の移設（再利用）による機器購入費の削減額 67,200千円</p>						
事業費の見積もり	区 分		H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額
	事業費(単位:千円)			96,365			
	財源内訳	一般財源		9,665			
		起 債		86,700			
	その他特定財源						

代替災害対策本部整備事業

■大規模地震等により県庁舎が被災した場合を想定し、免震構造を有する県立図書館に県庁の代替災害対策本部機能を整備する。

【事業計画】

- 事業期間 H23～H25
H23～H24 防災用発電機の整備
H25 防災情報ネットワークの整備
- H25事業費 96,365千円
- 財 源 緊急防災・減災事業債
防災基盤整備事業債

【効果】

- 大規模地震等における県災害対策本部機能を確保
- ・停電時における総合防災システム等の運用体制を強化
 - ・防災情報ネットワークの図書館への分散化による機能強化

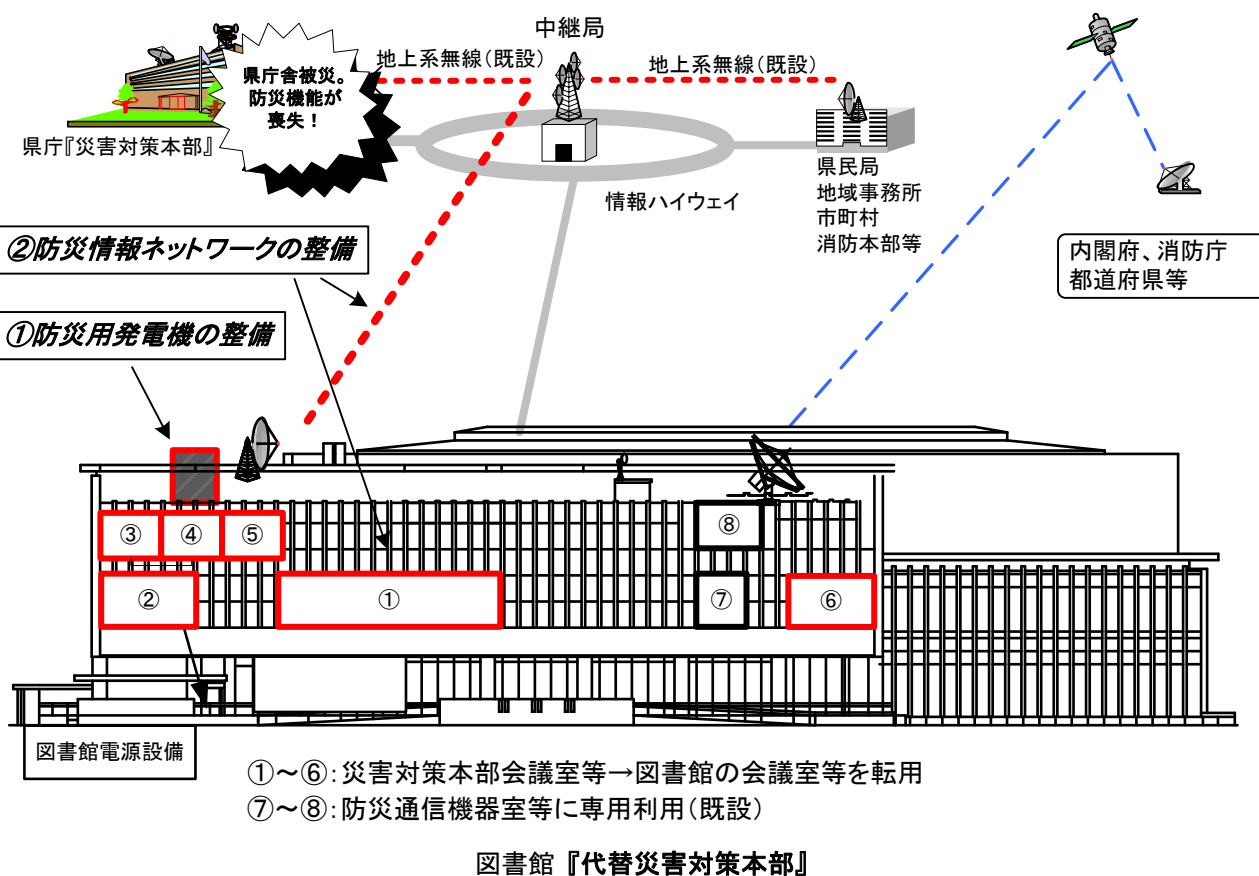
【事業概要】

①防災用発電機の整備【H23～H24】

- ・停電時における総合防災情報システムの運用や代替災害対策本部の業務が円滑に実施できるよう浸水被害を受けない図書館屋上に防災用発電機を整備する。

②防災情報ネットワークの整備拡充【H25】

- ・代替災害対策本部と市町村等の防災関係機関が確実に通信連絡できるよう、災害に強い防災情報ネットワークを整備する。(県庁の既設無線設備を県立図書館に移転再利用することにより、地上系防災行政無線を整備)
- ・図書館の会議室等を防災用途に転用して、代替災害対策本部とすることとしており、図書館の既存設備の有効活用を図りながら、電話、LAN、映像システム等、必要な通信機能を整備する。



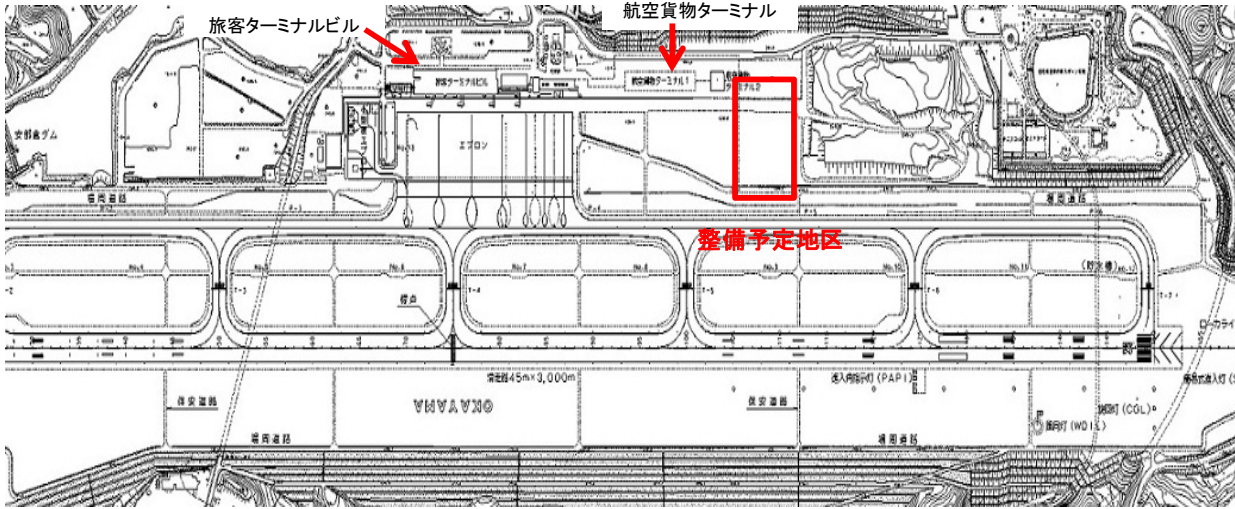
重点事業調書

〔担当部局・課名：知事直轄消防保安課〕

3次	基本戦略名称等	基本 安全・安心な地域づくり							
夢	戦略プログラム名等	県民の命を守る防災・減災プログラム							
ラン	メッセージ・基本施策名	セーフティ・ニューディールの推進							
重点事業等の名称		消防防災ヘリ拠点の移転・整備事業							
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	消防防災ヘリコプター整備事業費				
現状・課題	<p>現状・課題 現在、消防防災ヘリは暫定的に岡南飛行場を基地としているが、県警ヘリや岡山市消防ヘリと災害発生時に同時被災するリスクがあるため、消防防災ヘリの拠点を岡山空港に移転・整備することとし、平成24年度に岡山空港内において適地調査を実施し、基地の整備予定地を選定した。</p>								
事業内容・進め方	<p>事業内容 平成25年度は、ヘリ基地施設の基本設計及び整備予定地の地質調査を実施するとともに、国土交通省へ施設の設置許可申請を行う。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>進め方 平成25年度 ・施設基本設計の実施 ・地質調査(ボーリング調査) ・国への施設の設置許可申請 平成26年度 ・施設詳細設計の実施 ・施設設置許可後、施設整備工事着工 平成27年度 ・工事完了後、国による施設完成検査 ・基地移転(平成28年3月供用開始予定)</p>								
事業の意図・費用対効果等	<p>事業の意図・費用対効果 岡山空港にヘリ基地を移転・整備し、大規模地震等の際にヘリが被災するリスクを回避することにより、県民の生命・身体・財産を守る消防防災ヘリ活動の確保を図る。 県域の中央部に近い岡山空港に拠点を移転し、平時においても県下全域へ、より迅速に出勤することによりヘリ運用の効果を高める。</p> <p>設定目標 (数値等)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">県下最大所要時間の短縮 (真庭市蒜山まで)</td> <td style="text-align: center;">現 状 25分</td> <td style="text-align: center;">移 転 後 20分</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>コスト抑制のための工夫 施設の基本設計を行う中で特に次の点に留意する。 ・航空隊事務所については、基本的に職員のみが使用する施設であることを前提とした機能的かつ必要最小限の設備とする。 ・格納庫については、今後の施設拡張や追加整備等に対応できるような構造とし、将来のコスト増を抑える。</p>						県下最大所要時間の短縮 (真庭市蒜山まで)	現 状 25分	移 転 後 20分
県下最大所要時間の短縮 (真庭市蒜山まで)	現 状 25分	移 転 後 20分							
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額			
	事業費(単位:千円)	2,978	19,674	243,282	334,522				
財源内訳	一 般 財 源	2,978	19,674	60,982	94,322				
	起 債			182,300	240,200				
	その他特定財源								

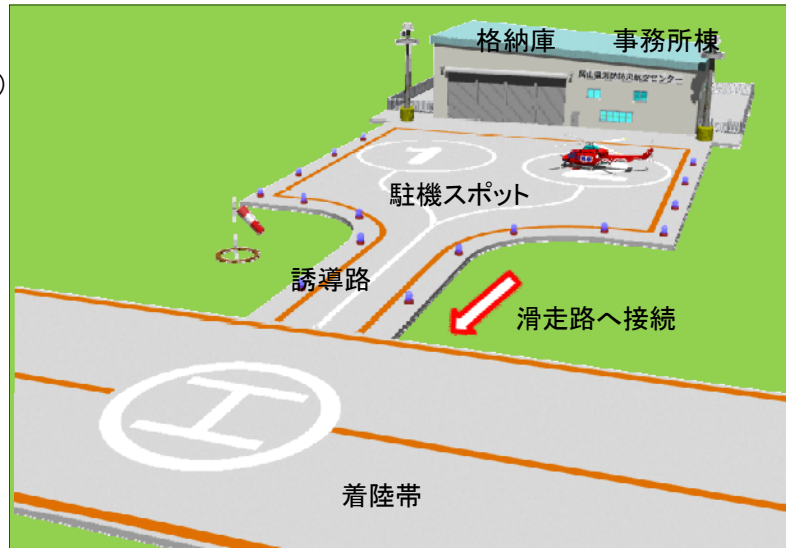
消防防災ヘリ拠点の移転・整備事業概要

●移転先位置図

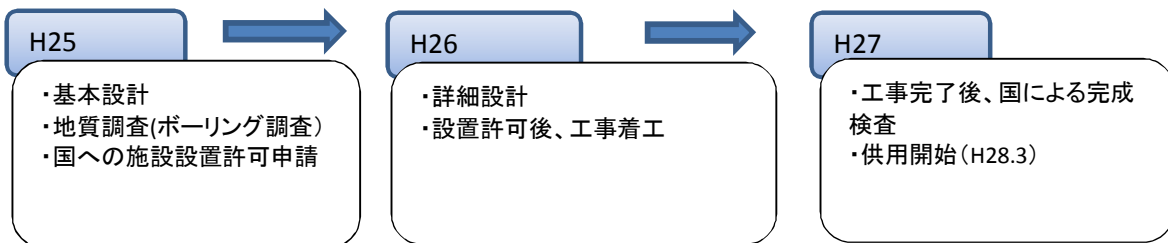


●整備施設概要(案)

- ・建屋
 - 格納庫(鉄骨造平屋建・延べ625㎡)
 - 航空隊事務所棟(鉄骨造2階建・延べ700㎡)
- ・ヘリポート
 - エプロン(2機分の駐機スポット)
 - 誘導路



●スケジュール



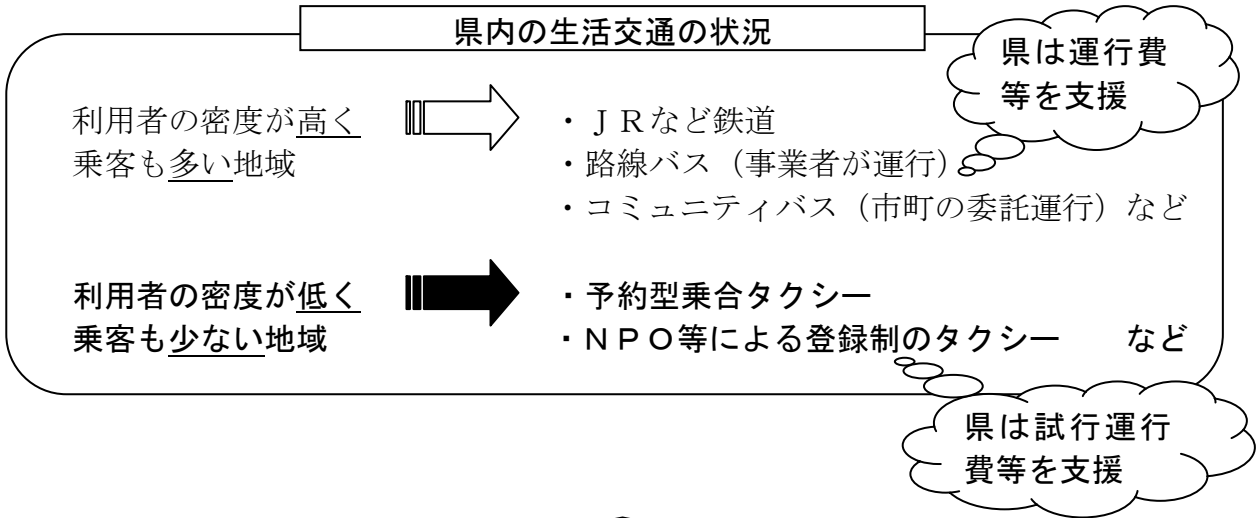
平成25年度は、基本設計および地質調査(ボーリング調査)を実施するとともに、国土交通省へ施設の設置許可申請を行う。

重点事業調書

[担当部局・課名：県民生活部県民生活交通課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅱ 将来を担う人づくり														
夢	戦略プログラム名等	地域を支えリードする担い手育成プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進														
重点事業等の名称		中山間地域交通手段検討モデル事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	生活交通確保対策事業費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <p>中山間地域等における人口減少が止まらない中、過疎化が進行し、高齢者等の交通手段の確保が急務となっている。特に中山間地域においては、公共交通の空白地域が多くあり、市町村では、予約型乗合タクシーなど、地域の実情に合った交通手段の確保に取り組んでいるものの、依然として取組が進んでいない地域も多い。</p>															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>○中山間地域の交通手段検討モデル事業【4,000千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通の空白地域において、交通手段の確保を模索している地域をモデル的に支援 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">補助対象事業</td> <td>専門家を交えた勉強会の開催、住民意識調査を含むフィールドワーク、実験的運行など</td> </tr> <tr> <td>補助対象者</td> <td>市町村（ただし、政令市は除く）</td> </tr> <tr> <td>補助限度額</td> <td>定額補助 補助限度額 1,000千円／地域</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">-----</p> <p>〈進め方〉</p> <p>モデル地域の募集・選定（4月～7月）、市町村への補助（7月～）</p>						補助対象事業	専門家を交えた勉強会の開催、住民意識調査を含むフィールドワーク、実験的運行など	補助対象者	市町村（ただし、政令市は除く）	補助限度額	定額補助 補助限度額 1,000千円／地域				
補助対象事業	専門家を交えた勉強会の開催、住民意識調査を含むフィールドワーク、実験的運行など															
補助対象者	市町村（ただし、政令市は除く）															
補助限度額	定額補助 補助限度額 1,000千円／地域															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動手段の無い高齢者等は、自宅に閉じこもりがちで、歩行障害の発生リスクが高くなるとの専門家の意見があり、これを回避する取組が必要である。 今後、増加していく高齢者の移動手段を確保することによって、高齢者の外出機会が増加し、生きがいや健康維持が図られる。また、モデル的に事業を推進することで、県民に分かりやすく伝わり、交通手段の確保に向けた気運の醸成とともに、公共交通の空白地域の減少が期待できる。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">〈設定目標〉 (数値等)</td> <td style="width: 20%;">中山間地域生活交通確保事業補助金活用地域</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成27年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>13地域</td> <td>21地域 (累計)</td> <td>29地域 (累計)</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">-----</p> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 県下全域において実施する方法ではなく、前向きに取り組もうとしている市町村をモデル的に支援することとし、その事例を全県に広める方法とする。 						〈設定目標〉 (数値等)	中山間地域生活交通確保事業補助金活用地域	現 状	平成25年度	平成27年度			13地域	21地域 (累計)	29地域 (累計)
〈設定目標〉 (数値等)	中山間地域生活交通確保事業補助金活用地域	現 状	平成25年度	平成27年度												
		13地域	21地域 (累計)	29地域 (累計)												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)		4,000	4,000	4,000											
財源内訳	一般財源		4,000	4,000	4,000											
	起 債															
	その他特定財源															

中山間地域交通手段検討モデル事業



高齢化率の高い中山間地域において、公共交通の空白地域が多い
※公共交通の空白地域の定義は、明確なものではなく市町村で基準がまちまち

【空白地域の減少に向けた課題】

- ・ 民間事業者による独自の参入は見込めず、地区住民と行政との連携が重要
- ・ いくつかの地区では成功例があるが、依然として広がり少なく、きっかけづくりが必要

交通手段の確保を模索している地域をモデルとして指定し、地域に適した交通手段の導入を検討するための経費を支援

【事業費】 4,000千円（1,000千円×4地域）

【対象経費】

- ・ 専門家を交えた勉強会の開催
- ・ 住民意識調査を含むフィールドワーク
- ・ 実験的な交通手段運行等に要する経費

【補助対象者】 市町村

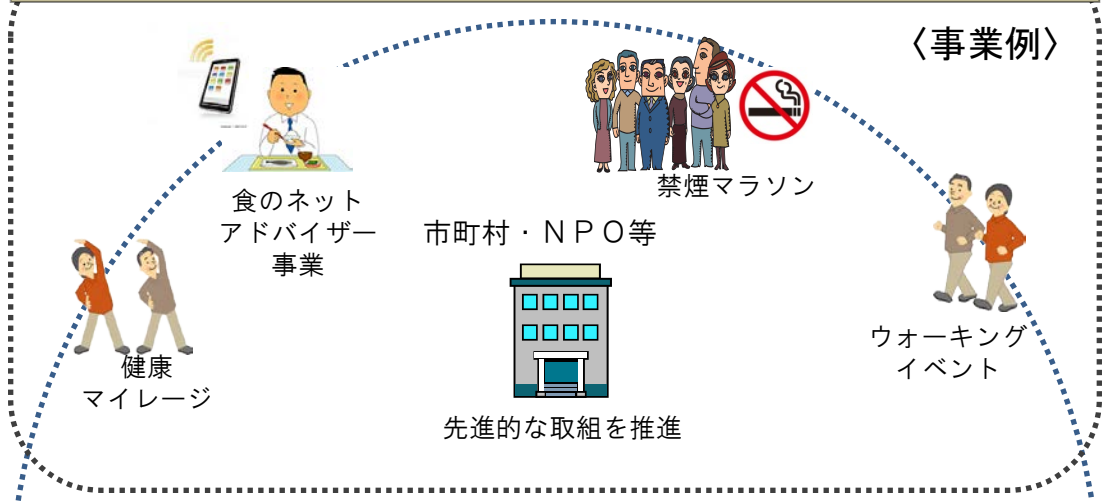
重点事業調書

[担当部局・課名：保健福祉部・健康推進課、医療推進課、長寿社会課]

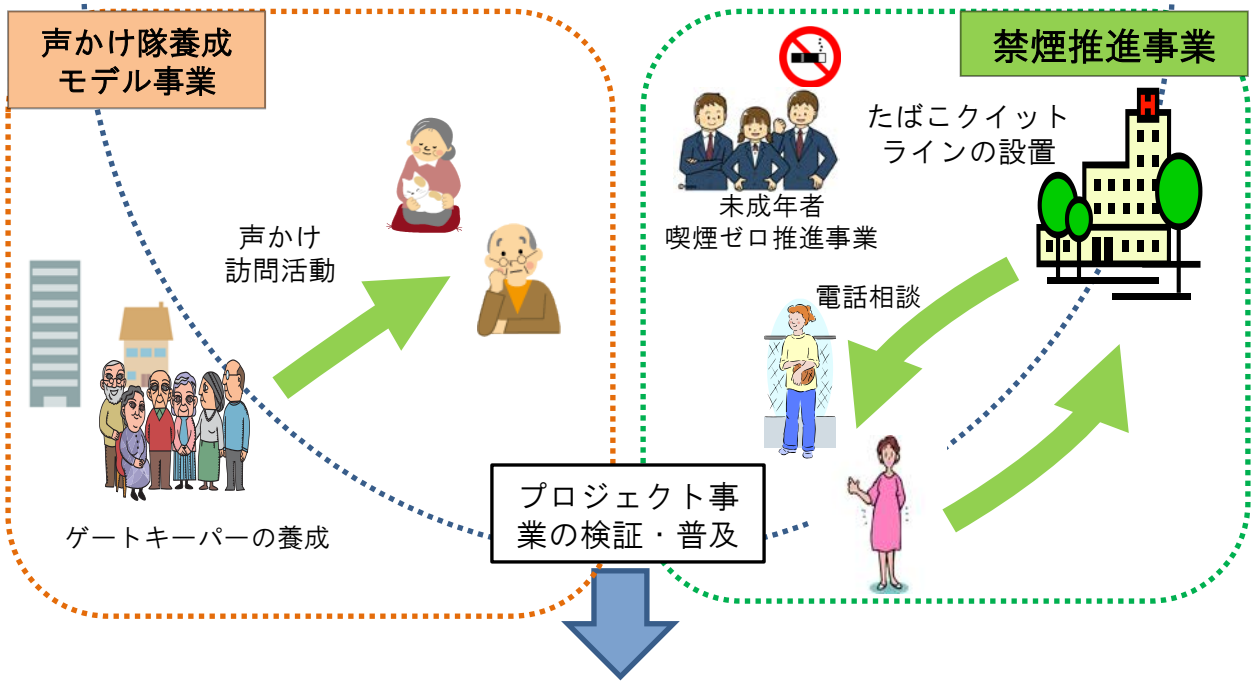
3次	基本戦略名称等	基本Ⅰ 安全・安心な地域づくり															
夢	戦略プログラム名等	良質で先進的な保健・医療・福祉サービス提供プログラム															
ラン	メッセージ・基本施策名	心と体の健康づくりの推進															
重点事業等の名称		健康寿命延伸プロジェクト事業															
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	健康生活習慣普及促進事業費												
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康でいきいきと生活できる期間の延伸は重要である。 ・ 岡山県では、平均寿命は男性79.22歳（全国11位）女性86.49歳（4位）であるが、健康寿命の観点での状況は芳しくない。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 2px;">日常生活に制限のない期間</td> <td style="padding: 2px;">： 男性69.66歳（41位） 女性73.48歳（29位）</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 2px;">自分が健康であると自覚している期間</td> <td style="padding: 2px;">： 男性69.20歳（35位） 女性73.73歳（16位）</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 2px;">日常生活が自立している期間の平均</td> <td style="padding: 2px;">： 男性78.21歳（24位） 女性83.43歳（14位）</td> </tr> </table>						日常生活に制限のない期間	： 男性69.66歳（41位） 女性73.48歳（29位）	自分が健康であると自覚している期間	： 男性69.20歳（35位） 女性73.73歳（16位）	日常生活が自立している期間の平均	： 男性78.21歳（24位） 女性83.43歳（14位）					
日常生活に制限のない期間	： 男性69.66歳（41位） 女性73.48歳（29位）																
自分が健康であると自覚している期間	： 男性69.20歳（35位） 女性73.73歳（16位）																
日常生活が自立している期間の平均	： 男性78.21歳（24位） 女性83.43歳（14位）																
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>1 健康寿命長期化モデル事業 県民自ら楽しく長続きする健康づくりを推進するため、健康マイレージやウォーキングイベントなど各種団体（市町村やNPO等）がモデル的に行う事業を支援し、得られた知見や成果を全県的に波及させる。</p> <p>2 禁煙推進事業 治療電話相談窓口（たばこ・クイットライン）を設置し、たばこをやめたいと考えている未成年者を含めた相談に応じる体制を整備するとともに、未成年者の喫煙を防止するための普及啓発資材（DVD等）を大学等と連携を図り作成する。</p> <p>3 声かけ隊養成モデル事業 健康づくりボランティア等をゲートキーパーに養成し、地域の住民への声かけ、訪問活動を行うことにより、孤立しがちな人や、精神的に不安定な人等と人間関係を創りながら「心のケア」を進めていく。</p> <p>-----</p> <p>〈進め方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 モデル事業募集（～6月）、事業実施（8月～） 2 クイットラインの開設（9月～） 3 地区選定（～5月）、ゲートキーパー研修（6月～8月）、声かけ（心のケア）活動実施（9月～） 																
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康づくりや介護予防のモデル的手法の普及 →健康づくり機運の醸成 2 喫煙率の減少 →喫煙が原因の死亡の減少（現在、喫煙による死亡は全体の10%程度） 3 地域住民の心の健康向上、自殺予防 →全国一自殺の少ない県 <p>〈設定目標〉 県民の平均寿命の延伸を上回る健康寿命の延伸を図る (数値等)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 30%;">成人の喫煙率の減少</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td>17.6%</td> <td>—</td> <td>15.0%</td> </tr> <tr> <td>自殺率の低さ</td> <td>全国7位</td> <td>—</td> <td>全国1位</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p>〈コスト抑制のための工夫〉 健康づくりボランティア等の活用により、事業実施コストの縮減を図る。</p>						成人の喫煙率の減少	現 状	平成25年度	平成28年度	17.6%	—	15.0%	自殺率の低さ	全国7位	—	全国1位
成人の喫煙率の減少	現 状	平成25年度	平成28年度														
	17.6%	—	15.0%														
自殺率の低さ	全国7位	—	全国1位														
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額											
	事業費(単位:千円)		16,000	16,000	12,000												
財源内訳	一般財源		11,000	11,000	11,000												
	起 債																
	その他特定財源		5,000	5,000	1,000												

健康寿命延伸プロジェクト

健康寿命長期化モデル事業



県民の健康寿命長期化の実現



「第2次健康おかやま21」の推進

事業効果・目標

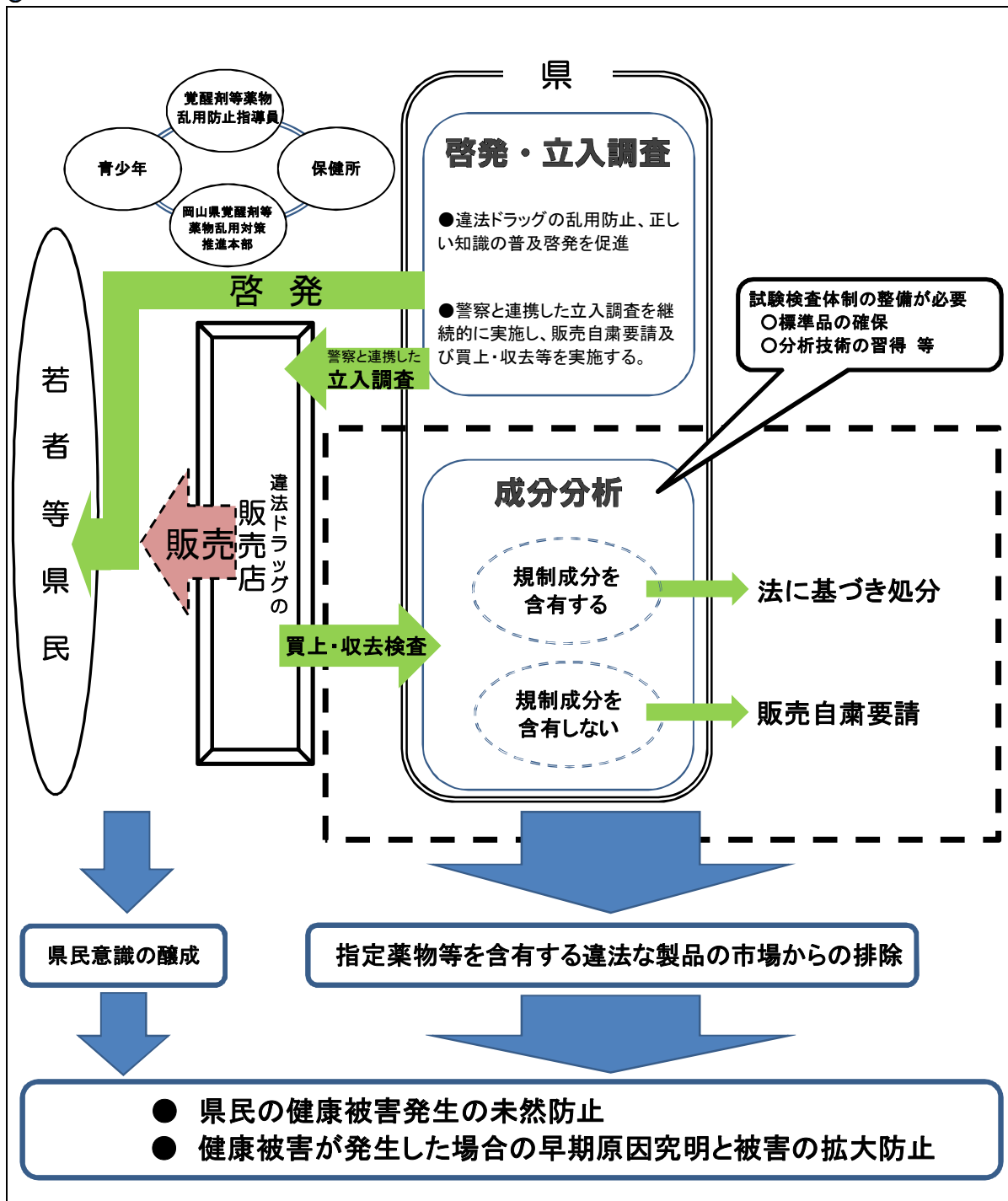
- 1 健康づくり機運の醸成
- 2 喫煙が原因の死亡の減少（現在、喫煙による死亡は全体の10%程度）
- 3 全国一自殺の少ない県

重点事業調書

[担当部局・課名：保健福祉部・医薬安全課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅰ 安全・安心な地域づくり												
夢	戦略プログラム名等	良質で先進的な保健・医療・福祉サービス提供プログラム												
ラン	メッセージ・基本施策名	心と体の健康づくりの推進												
重点事業等の名称		違法ドラッグ対策事業												
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	薬事関係取締費									
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 合法ハーブ等と称して流通している違法ドラッグによる薬物乱用が全国的に拡大し、大きな社会問題となっており、県内においても、脱法ハーブが原因と疑われる健康被害が発生しており、その対策が急務となっている。 違法ドラッグ対策については、薬事法改正により、取締や指定薬物の疑いがある製品への対応等の規制強化が検討されており、指定薬物に係る試験検査体制の整備が課題となっている。 													
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 違法ドラッグの買上・収去を行い、含有する違法成分を特定するための試験検査の実施に必要な体制の整備を図る。(検査技術の取得や必要な試薬・指定薬物の標準品等の購入など) 指定薬物等の規制成分を含有しない違法ドラッグ対策として、絶対に使用しないこと等についての啓発に力を入れる。 <p>-----</p> <p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月から指定薬物の標準品等の購入を開始し、6～7月に違法ドラッグの買上を行うとともに、県環境保健センターにおいて検査を実施する。 中学生高校生等を対象とした「違法ドラッグ対策出前研修」を実施する等「違法ドラッグを買わない。使わない。」の啓発を行う。また、青少年が多く集まるカラオケ店、ゲームセンター、コンビニ等の協力を得て、ポスターの掲示等による啓発を行う。 													
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 違法ドラッグに含有される違法成分を特定するため検査を実施し、指定薬物等を含有する違法な製品を市場から排除し、県民の健康被害の未然防止を図る。また、違法ドラッグに起因する健康被害が発生した場合に、早期の原因究明と被害の拡大防止を図る。 違法ドラッグの危険性についての啓発活動を行うことにより、県民意識の醸成を図り、健康被害発生 の未然防止を図る。 これらの取組によって、県民、特に青少年を違法ドラッグによる健康被害から守ることが可能となる。 <p>〈設定目標〉</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">(数値等)</th> <th style="text-align: center;">現 状</th> <th style="text-align: center;">平成25年度</th> <th style="text-align: center;">平成26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">検査検体数</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">10</td> </tr> </tbody> </table> <p>-----</p> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 違法ドラッグ成分分析用の標準品は検出頻度の高いものから順次購入する。 「違法ドラッグを買わない。使わない。」の啓発は、県HPの活用など県の既存のシステムを利用し経費の削減に努める。 						(数値等)	現 状	平成25年度	平成26年度	検査検体数	0	10	10
(数値等)	現 状	平成25年度	平成26年度											
検査検体数	0	10	10											
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額								
	事業費(単位:千円)		2,700	1,000	1,000									
財源内訳	一般財源		2,700	1,000	1,000									
	起 債													
	その他特定財源													

違法ドラッグ対策事業



違法(脱法)ドラッグ

麻薬、覚醒剤、指定薬物(以下、規制薬物)に類似の物質で、多幸感や快感等を高め、幻覚作用、催眠作用等を得ることを目的として販売されている製品の総称。

主にインターネット、アダルトショップで芳香剤やお香と称して販売されている。

指定薬物(薬事法第2条第14項)

中枢神経系の興奮若しくは抑制又は幻覚的作用を有する蓋然性が高く、かつ、人の身体に使用された場合に保健衛生上の危害が発生するおそれがある物として、厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて指定するものをいう。

現在、90成分が指定されている。

重点事業調書

[担当部局・課名：警察本部・会計課]

3次 夢 ラン	基本戦略名称等	基本Ⅰ 安全・安心な地域づくり																								
	戦略プログラム名等	県民の命を守る防災・減災プログラム (犯罪や事故のない社会実現プログラム)																								
	メッセージ・基本施策名	セーフティ・ニューディールの推進 (警察基盤の充実強化)																								
重点事業等の名称		警察本部庁舎整備事業																								
終期設定：平成30年度		予算区分	一般	事項名	警察行政推進費																					
現状・課題	(現状・課題) <ul style="list-style-type: none"> ・ 通信指令課を始めとする警察本部の中核機能が耐震未改修の庁舎に配置 ・ 警察本部所属が県庁本庁舎を始め、市内10施設に分散配置されていることから、治安維持及び災害対策のため、情報の集約、指揮命令系統の一元化、業務の効率性等に支障 ・ 知事部局等と混在配置されており、秘匿性を有する捜査情報、個人情報保護のためのセキュリティ対策が物理的に困難 ・ 狭隘化のため、捜査会議室や装備資機材保管庫、駐車場等の確保が困難 																									
事業内容・進め方	(事業内容) ○ 警察本部庁舎整備基本計画策定業務委託 【29,889千円】 重大事件・事故や自然災害発生時の警察活動の根幹をなす執行機関としての機能を確保した、堅牢な警察本部独立庁舎の整備実現に向け、基本計画を立てるもの。																									

(進め方) 整備スケジュール案																										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">平成25年度</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">平成26年度</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">平成27年度</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">平成28～30年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">←-----→</td> <td style="text-align: center;">←-----→</td> <td style="text-align: center;">←-----→</td> <td style="text-align: center;">←-----→</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">基本計画</td> <td style="text-align: center;">大規模 事業評価</td> <td style="text-align: center;">基本設計</td> <td style="text-align: center;">実施設計</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: center;">←-----→</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td style="text-align: center;">建設工事</td> </tr> </table>							平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28～30年度	←-----→	←-----→	←-----→	←-----→	基本計画	大規模 事業評価	基本設計	実施設計				←-----→				建設工事
平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28～30年度																							
←-----→	←-----→	←-----→	←-----→																							
基本計画	大規模 事業評価	基本設計	実施設計																							
			←-----→																							
			建設工事																							
事業の意図・費用対効果等	(事業の意図・費用対効果) 民間のノウハウも活用して基本計画を策定することにより、警察活動に必要な機能を備えた上、地震等の災害に強く、来庁者の利便性やセキュリティの確保、コスト抑制にも配慮した警察本部庁舎を整備することが可能となる。																									

(コスト抑制のための工夫) 警察本部機能を十分に発揮できる庁舎となるよう整備する一方、効率的な庁舎スペースの活用等による整備費の縮減、将来の維持管理経費の節減等、コスト抑制にも配慮した庁舎とする。																										
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額																				
	事業費(単位:千円)		29,889																							
	財源内訳	一般財源		29,889																						
		起 債																								



セーフティ・ニューディールの推進 ～ 警察本部庁舎整備事業 ～



全警察署の指揮を行う警察本部に情報を集約し、迅速・的確な対応が必要!

しかし現在の県警察は...

一部耐震未改修

庁舎が倒壊
するおそれ



警察本部機能が分散化

情報集約・
指揮命令に支障



狭隘化

- ・知事部局と混在
- ・機能の集約化や高度化が困難



万全な態勢を構築するため

警察活動の拠点となる最重要基盤【警察本部庁舎】の整備が必要!



警察本部庁舎整備基本計画策定業務委託 【29,889千円】

重点事業調書

[担当部局・課名：教育庁財務課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅰ 安全・安心な地域づくり														
夢プ	戦略プログラム名等	県民の命を守る防災・減災プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	セーフティ・ニューディールの推進														
重点事業等の名称		県立学校施設の耐震化														
終期設定：平成27年度		予算区分	投資	事項名	県立高等学校校舎等整備費 他											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県の県立学校の耐震化率（H24.4.1現在）は70.6%であり、全国公立高校の耐震化率（H24.4.1現在：82.4%）を下回っている。 文部科学省では義務教育諸学校の平成27年度末までのできるだけ早い時期の耐震化完了を示しており、県立学校についても早期の耐震化が必要である。 															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容・進め方〉</p> <p>○県立学校の耐震化について、平成27年度末までの完了を目指し、平成25年度は次のとおり実施設計及び補強工事を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震補強工事实施設計 66棟（26校） 【350,099千円】 耐震性がない建物の耐震補強工事实施設計の実施 耐震補強工事 11棟（3校） 【431,597千円】 実施設計が完了した建物の耐震補強工事の実施 															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校は、児童生徒が1日の大半を過ごす学習・生活の場であるとともに、災害発生時には地域の応急避難場所としての役割を担うため、早急な安全性の確保が必要である。 耐震補強工事を実施することにより、校舎等を建て替えることなく、児童生徒の安全・安心の確保を図ることができるとともに、災害発生時の応急避難場所としての機能を確保することができる。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 10%;">(設定目標)</td> <td style="width: 20%;">県立学校の</td> <td style="width: 15%;">現状(H24.4)</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成27年度</td> </tr> <tr> <td>(数値等)</td> <td>耐震化率</td> <td>70.6%</td> <td>75.9%</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※ 公立高等学校耐震化率（H24.4.1全国率）82.4%</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 従来は、耐震補強工事と併せて大規模改造工事を実施していたが、建物延命の観点等から、同時施工する改修は外壁塗装と屋上防水に留め、耐震補強工事に特化することで経費を縮減した。 <p style="text-align: center;">1棟当たりの平均1.6億円⇒0.9億円</p>						(設定目標)	県立学校の	現状(H24.4)	平成25年度	平成27年度	(数値等)	耐震化率	70.6%	75.9%	100%
(設定目標)	県立学校の	現状(H24.4)	平成25年度	平成27年度												
(数値等)	耐震化率	70.6%	75.9%	100%												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)	1,509,197	781,696	5,157,000	5,961,600											
	財源内訳	一般財源	194,423	97,214	670,450	775,026										
		起 債	1,301,200	670,300	4,442,500	5,120,500										
	その他特定財源	13,574	14,182	44,050	66,074											

県立学校の耐震化の推進

【781,696千円】

県立学校の耐震化について、平成27年度までの完了を目指し、実施設計及び補強工事を実施する。

○耐震補強工事实施設計 66棟(26校) 【350,099千円】
耐震性がない建物の耐震補強工事实施設計の実施

○耐震補強工事 11棟(3校) 【431,597千円】
実施設計が完了した建物の耐震補強工事の実施



重点事業調書

[担当部局・課名：県民生活部、環境文化部]

3次	基本戦略名称等	基本戦略横断プロジェクト				
夢プ	戦略プログラム名等	胸を張ってPR！岡山まるごと情報発信プロジェクト				
ラン	メッセージ・基本施策名	岡山への愛着と誇りの醸成				
重点事業等の名称		美作国建国1300年記念事業県事業等				
終期設定：平成25年度		予算区分	一般	事項名	美作国建国1300年記念事業費 県立美術館事業費	
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建国1300年という節目を契機に、美作地域が一丸となって情報発信や活性化に取り組む。 ・事業の実施に当たっては、全県的な盛り上げ、首都圏や関西圏等県外からの誘客対策、さらには、記念事業を一過性の効果にとどめることなく、今後の地域活性化につなげる必要がある。 					
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>1 美作国建国1300年記念事業県事業等〈新規〉【24,659千円】《再掲》 県や美作地域の10市町村、民間団体で組織する実行委員会が実施する記念事業に県負担金を支出する。また、美作地域の魅力を県内外へ広める県事業を実施する。</p> <p>2 美作国建国1300年記念特別展「美作の美術」〈新規〉【9,095千円】《再掲》 美作国の歴史と文化・伝統を時間軸で展示する、希少価値の高い展覧会を開催する。</p> <p>-----</p> <p>〈進め方〉</p>					
事業の意図・費用対効果	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建国1300年記念事業の実施により、県民が美作地域の歴史・文化についての意識を深め、郷土愛の醸成、記念事業実施を契機とした地域活性化を図る。 					
事業費の見積もり	区分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額
	事業費(単位:千円)		33,754			
	財源内訳	一般財源	28,966			
		起債	0			
		その他特定財源	4,788			



【実行委員会事業】

- 1 開幕祭典
美作地域10市町村の住民が参加して、記念事業の開幕を祝う祭典
- 2 美作国おもしろラリー
美作国の歴史を訪ねる街歩きや地域資源を活かしたスタンプラリー
- 3 みまさかミステリーツアー
「あさのあつこ氏」のオリジナルミステリー小説の謎解きに読者が参加するイベント
- 4 「NARUTO列車」で巡る美作国
津山線(2両編成)、姫新線・因美線(1両編成)にNARUTOラッピング列車を運行

県負担金 15,000千円 **重点**

島根県
＜出雲大社 平成の大遷宮＞

建国1300年
京都府 丹後地域
＜丹後建国1300年記念事業＞



©岸本斉史 スコット/集英社・テレビ東京・びえる ※写真はイメージです

8 岡山めぐり総合フェア2013

【10月、美作地域内、6,462千円、農林水産部】
・美作地域の農林水産物の展示・販売等

9 美作国の絶品体感事業

【7月～11月、美作地域内、2,159千円、県民生活部】
・美作地域の絶品を体感してもらうツアーの実施
・NPO等地元住民の協力を得て交流を図る

10 美作国元気集落の隠れたお宝再発見！

【10月、美作地域内、2,454千円、県民生活部】
・美作地域の元気集落の活動や産品等PRするブースを「岡山めぐり総合フェア」に出展

11 美作国町並み活用賑わい創出事業

【10月、美作地域内、2,943千円、県民生活部】
・地域の賑わいを創出するため、美作地域の歴史を感じさせる町並みを活用したイベントを実施

その他事業

・県立図書館「美作国記念展示・上映会」など

1 県民文化祭 メインフェスティバル

【9月、津山市内、13,558千円、環境文化部】
・県内文化団体等による演技・演奏

2 県民文化祭 地域フェスティバル

【9月～11月、津山市内ほか、4,000千円、環境文化部】
・県民が主役となって企画、実施する文化芸術活動

3 おかやま文化フォーラム

【11月、美作地域内、1,195千円、環境文化部】
・古代吉備をテーマとするフォーラム(歴史講演会)

4 美作国建国1300年記念特別展「美作の美術」

【5月31日～6月30日、県立美術館(岡山市)、9,095千円、環境文化部】
・「江戸一目図屏風」など美作地域ゆかりの書画や美術工芸品等の展示

5 企画展「美作の名宝」

【7月25日～9月1日、県立博物館(岡山市)、1,663千円、教育庁】
・美作地域ゆかりの考古品、民俗資料等の展示

6 美作国伝統継承事業

【11月、美作地域内、2,103千円、県民生活部】
・美作地域に古くから伝わる芸能や工芸など伝統文化を活用し、ワークショップや伝統芸能公演を実施

7 岡山県民俗芸能大会

【11月、津山市内、700千円、教育庁】
・美作地域を中心とした上演団体による獅子舞共演大会

建国1300年
鹿児島県 大隅地域

瀬戸内国際芸術祭

首都圏
関西圏
からの誘客

春:3/20～4/21、夏:7/20～9/1、秋:10/5～11/4



美作国PR天使
SakuLove (さくらぶ)

重点事業調書

[担当部局・課名：県民生活部県民生活交通課]

3次	基本戦略名称等	基本戦略横断プロジェクト													
夢	戦略プログラム名等	胸を張ってPR！岡山まるごと情報発信プロジェクト													
ラン	メッセージ・基本施策名	岡山への愛着と誇りの醸成													
重点事業等の名称		美作国建国1300年記念事業県事業等													
終期設定：平成25年度		予算区分	一般	事項名	美作国建国1300年記念事業費										
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建国1300年という節目を契機に、美作地域が一丸となって情報発信や活性化に取り組む。 ・事業の実施に当たっては、全県的な盛り上げ、首都圏や関西圏等県外からの誘客対策、さらには、記念事業を一過性の効果にとどめることなく、今後の地域活性化につなげる必要がある。 														
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 美作国建国1300年記念事業実行委員会への負担金<新規>【15,000千円】 実行委員会では、開幕祭典をはじめ、みまさかミステリーツアーや美作国おもしろラリー等のイベントや人気マンガ「NARUTO」（作者は奈義町出身）を活用したラッピング列車を運行することとしており、県として負担金を支出する。 美作国の絶品体感事業<新規>【2,159千円】 美作地域の絶品なもの（「たべもの」、「まつり」、「しなもの」）を活用して、誘客促進を図る。 美作国町並み活用賑わい創出事業<新規>【2,943千円】 地域づくり団体等の企画・運営により、美作地域の歴史を感じさせる町並みを活用してイベントを実施する。 美作国元気集落の隠れたお宝再発見！<新規>【2,454千円】 美作地域の元気集落の活動や製品等をPRするため、「めぐり総合フェア」に出展する。 美作国伝統継承事業<新規>【2,103千円】 美作地域に古くから伝わる芸能や工芸など伝統文化を、都市住民の参加も得ながら継承・発展させ、地域の魅力発信とコミュニティーの活性化につなげるため、ワークショップや伝統芸能公演を実施する。 <p>-----</p> <p>〈進め方〉</p> <p>美作国の絶品体感事業（7月～11月）、美作国元気集落の隠れたお宝再発見！（10月）、美作国町並み活用賑わい創出事業（10月）、美作国伝統継承事業（11月）</p>														
事業の意図・費用対効果	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建国1300年記念事業の実施により、県民が美作地域の歴史・文化についての意識を深め、郷土愛の醸成、記念事業実施を契機とした地域活性化、さらには、観光産業における所得を向上させる。 <p>〈設定目標〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="width: 20%;">文化、スポーツ、自然などに誇りを持って （数値等）</td> <td style="width: 30%;">文化、スポーツ、自然などに誇りを持って る地域になっていると感じる人の割合</td> <td style="width: 10%;">現 状</td> <td style="width: 10%;">平成25年度</td> <td style="width: 10%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">32.5%</td> <td style="text-align: center;">36.5%</td> <td style="text-align: center;">50.0%</td> </tr> </table>						文化、スポーツ、自然などに誇りを持って （数値等）	文化、スポーツ、自然などに誇りを持って る地域になっていると感じる人の割合	現 状	平成25年度	平成28年度		32.5%	36.5%	50.0%
文化、スポーツ、自然などに誇りを持って （数値等）	文化、スポーツ、自然などに誇りを持って る地域になっていると感じる人の割合	現 状	平成25年度	平成28年度											
		32.5%	36.5%	50.0%											
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額									
	事業費(単位:千円)		24,659												
財源内訳	一般財源		24,659												
	起 債														
	その他特定財源														

実行委員会事業

美作地域の各市町村、県及び民間が一体となり、美作国建国1300年記念事業実行委員会を組織し、事業を実施する。

実行委員会事業は約80,000千円の計画であり、そのうち県として、15,000千円を負担する。

開幕祭典【5/5 各市町村】 4,900千円

5月5日に各市町村でセレモニー

**住民参加型ミュージカルみまさか猿神退治
【9～11月 真庭市、美作市他】 500千円**

美作国建国当時の世相、民俗を活用した
ミュージカル

映像製作 2,000千円

【通年 美作全域】

記録映像の製作

みまさかミステリーツアー

【10月～12月 美作全域】 14,000千円

あさのあつこ氏のオリジナルミステリーの謎
解きに、読者が参加するイベント

美作国おもしろラリー

【4～11月 美作全域】 5,700千円

歴史を訪ねるスタンプラリー

「NARUTO列車」で巡る美作国

【4月～26年3月 津山線・姫新線・因美線】

14,300千円

車両(3両)に「NARUTO」のラッピングを施し、
1年間運行するとともに、主な駅舎を装飾

閉幕セレモニー 300千円

【26年3月 津山市他各市町村】

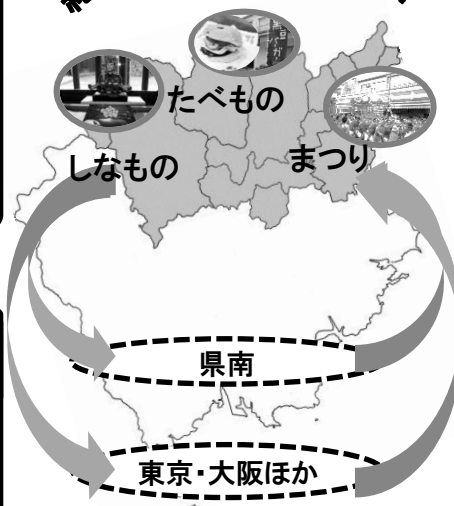
県事業

美作国の絶品体感事業

【2,159千円】

- ・夏と秋にそれぞれ4回程度、地元(住民、NPO等)がツアー参加者を受け入れて、絶品なものを体感してもらう。
- ・県は、地元の受入業務を支援することとし、東京、大阪在住のふるさと県人会等にも協力を要請して、多くの人に訪れていただく。

美作地域には
知られていない
絶品なものがたくさん!



**美作国町並み活用賑わい創出
事業【2,943千円】**

ふるまち

- ・古町町並み保存地区(美作市)、湯郷温泉街(美作市)、勝山町並み保存地区(真庭市)など、美作地域の歴史を感じさせる町並みを活用して、地元の地域づくり団体の企画・運営による地域の活力を生み出すイベントを実施する。

**美作国元気集落の隠れた
お宝再発見! 【2,454千円】**

- ・美作地域の元気集落の活動や産品等をPRするブースを、美作地域で行われる「あぐり総合フェア2013」に出展する。
- ・元気集落の空き家情報や移住者の口コミ情報等も発信する。

**美作国伝統継承事業
【2,103千円】**

- ・美作地域に古くから伝わる芸能や工芸など伝統文化を、都市住民の参加も得ながら継承・発展させ、地域の魅力発信とコミュニティの活性化につなげるため、ワークショップや伝統芸能公演を実施する。

重点事業調書

〔担当部局・課名：環境文化部文化振興課〕

3次	基本戦略名称等	基本戦略横断プロジェクト 基本 豊かで潤いのある暮らしづくり														
夢	戦略プログラム名等	胸を張ってPR！岡山情報発信プロジェクト 文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	岡山への愛着と誇りの醸成、「文化がまちにある」プロジェクトの推進														
重点事業等の名称		アート・ブリッジおかやま形成事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	芸術文化活動費											
現状・課題	<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域文化の振興は、郷土への愛着と誇りを育み、個性豊かな地域づくりを促進する。 国民文化祭開催を契機に、地域の文化資源への関心が高まり、岡山文化の魅力を県内外へ発信した。〔総参加者数：196万人 経済波及効果：129.2億円〕 〔成果〕 県民の文化への関心の高まり 分野や地域、世代の枠を超えた交流の輪の拡大 次世代への継承の重要性を認識 地域文化を支えリードする人材の育成やNPO、住民、地元の芸術家との協働による文化施策の推進は、ソフト面から地域の活力を高める大きな効果を持つ。 地域文化の理解と振興のため、市町村文化協会や地元の作家が中心となり地域の人々が地域の文化を主体的に担っていく仕組みづくりが求められている。 															
事業内容・進め方	<p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 短期滞在制作モデル事業 文化団体や作家、NPO、住民等を地域の文化サポーターとしてサポートグループを構築し、空き家や空き店舗、空き教室などを活用し、短期の滞在制作（レジデンス）を核とした文化事業を実施 <hr/> <p>進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の作家を招聘する短期レジデンス（滞在制作）を中心に地域住民との共同作品制作やワークショップ、関連イベントを開催し、その過程の中で交流を通じて、人と人、人と地域を結び（ブリッジ）文化を核とした地域づくりとなるモデル事業を市町村や市町村文化協会を巻き込みながら実施し、地域に文化芸術を根付かせる。 特に平成25年度は美作国建国1300年記念事業を盛り上げるため、吉井川流域を中心に県南から県北をつなぐように開催地を配置。平成26・27年度に開催地を巡回させながら計県内3地域で実施 															
事業の意図・費用効果等	<p>事業の意図・費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内各地で文化芸術を通じた人と人とのつながりを深めるとともに、地域の文化のレベルアップを図り、これを地域で支える人々（サポートグループ）を育てることで、文化を核とした地域づくりを促進 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">設定目標 (数値等)</td> <td style="width: 30%;">展覧会、交流事業等への 延べ参加者数(累計)</td> <td style="width: 10%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成27年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">0人</td> <td style="text-align: center;">15,000人</td> <td style="text-align: center;">45,000人</td> </tr> </table> <hr/> <p>コスト抑制のための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村との連携により滞在施設や展覧会会場、交流活動会場使用料を削減 事業実施ノウハウを市町村に引き継ぎ、将来的に市町村主体で実施地域を拡大 						設定目標 (数値等)	展覧会、交流事業等への 延べ参加者数(累計)	現 状	平成25年度	平成27年度			0人	15,000人	45,000人
設定目標 (数値等)	展覧会、交流事業等への 延べ参加者数(累計)	現 状	平成25年度	平成27年度												
		0人	15,000人	45,000人												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)		8,530	8,530	8,530											
財源内訳	一般財源		8,530	8,530	8,530											
	起 債															
	その他特定財源															

アート・ブリッジ おかやま形成事業

第25回 国民文化祭・おかやま2010

県文祭のグレードアップ

岡山芸術回廊の開催

文化芸術への一層の関心の高まり
住民、NPO、地域の芸術家のネットワークの広がり

発展・強化

「文化がまちにある」プロジェクトの推進

アート・ブリッジおかやま

文化芸術の力で地域を元気に！

市民レベルで文化を支える
サポートグループの構築

サポートグループ

参加

文化団体

アーティスト

地域住民

NPO

ボランティア

支援

行政

地域と文化をつなぐ

国内外の作家を招聘
レジデンス事業
H25:モデル実施

交流活動

アーティストとの
共同制作・ワーク
ショップ

発表活動

空き家や空き店舗
の活用

地域の文化事業の活性化

H26～

全県的広がり

地域住民が文化を身近に感じるきっかけ
～人と地域をつなぐ(ブリッジ)～

地域の文化力の向上

文化を核とした地域づくり

重点事業調書

〔担当部局・課名：環境文化部文化振興課〕

3次 夢 ラン	基本戦略名称等	基本戦略横断プロジェクト 基本 豊かで潤いのある暮らしづくり												
	戦略プログラム名等	胸を張ってPR！岡山まるごと情報発信プロジェクト 文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム												
	メッセージ・基本施策名	岡山への愛着と誇りの醸成、文化創造活動の企画・支援												
重点事業等の名称		美作国建国1300年記念特別展「美作の美術」												
終期設定：平成25年度		予算区分	一般	事項名	県立美術館事業費									
現 状 ・ 課 題	<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美作国建国1300年記念事業を県全体で盛り上げるため、県南の施設で事業を実施することは重要。 ・美作の優れた歴史と文化・伝統を広く県内外へ紹介する絶好の機会である。 													
事 業 内 容 ・ 進 め 方	<p>事業内容</p> <p>県立美術館において、美作国の歴史と文化・伝統を時間軸で展示する、全国でも珍しい希少価値の高い展覧会を次のとおり開催する。 開催時期：平成25年5月31日～6月30日 展示作品：「江戸一目図屏風」等、美作国ゆかりの作品（仏像、掛軸、絵巻、工芸品等）約150点 関連事業：記念講演会、美術の夕べ、学芸員によるギャラリートーク</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示作品の借用（4～5月中旬） ・図録の作成（4～5月下旬） ・展示室工作、作品の展示（5月下旬（数日間）） ・展覧会開催、関連事業の実施（5月31日～6月30日） ・展示の撤収、返却（7月初旬） 													
事 業 の 意 図 ・ 費 用 対 効 果 等	<p>事業の意図・費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの人に美作国の文化・芸術に触れてもらい、美作国のみならず岡山県の文化・芸術に関する情報発信を行う。 <table border="1" style="width: 100%; margin: 10px 0;"> <tr> <td style="width: 15%;">設定目標 (数値等)</td> <td style="width: 20%;">記念特別展 入館者数(人)</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">10,000</td> <td></td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>コスト抑制のための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間メディア（山陽新聞社）との共同開催（メリット） <ul style="list-style-type: none"> ・事業費の一部出資が見込まれる。 ・効果的な広報による入館者の増加が期待できる。 						設定目標 (数値等)	記念特別展 入館者数(人)	平成25年度				10,000	
設定目標 (数値等)	記念特別展 入館者数(人)	平成25年度												
		10,000												
事 業 費 の 見 積 も り	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額								
	事業費(単位:千円)		9,095											
財 源 内 訳	一般財源		4,307											
	起 債													
	その他特定財源		4,788											

美作国建国1300年記念 特別展「美作の美術」

平成25年に建国1300年を迎える美作国
この国に育まれた優れた美術作品を一堂に集めた特別展「美作の美術」を開催

実施時期:平成25年5月31日～6月30日

会場:県立美術館

主な展示作品(予定)

東京スカイツリー展示で話題の県重要文化財「江戸一目図屏風」(鋏形蕙斎)
剣豪・宮本武蔵の水墨画、棟方志功の版画など

美作国ゆかりの作家の作品(仏像、掛軸、絵巻、工芸品等) 約150点

事業費:10,095千円(うち県負担額9,095千円)

共催:山陽新聞社(予定)



「江戸一目図屏風」 鋏形蕙斎 津山郷土博物館蔵



「達磨図」(部分) 宮本武蔵
岡山県立美術館蔵



「二菩薩釈迦十大弟子」 棟方志功
棟方志功・柳井道広(M&Y)記念館蔵

会期中、美作の歴史や美術に焦点をあてた記念講演会や当館学芸員によるギャラリートーク等、様々な関連事業を開催し、美作国1300年の歴史や優れた文化、伝統を紹介

重点事業調書

〔担当部局・課名：環境文化部スポーツ振興課〕

3次 夢 ラン	基本戦略名称等	基本戦略横断プロジェクト 基本 豊かで潤いのある暮らしづくり					
	戦略プログラム名等	胸を張ってPR！岡山情報発信プロジェクト 文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム					
	メッセージ・基本施策名	トップクラブチームによるおかやまの元気・感動の創出					
重点事業等の名称		トップクラブチーム・ファイト！岡山応援事業					
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	県民スポーツ振興費		
現状・課題	<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 国のスポーツ基本計画：「する人」だけでなく、「みる人」、「支える人」にも着目 県スポーツ推進条例：スポーツを通じた地域の活性化を規定 トップクラブチームの活躍は、県民に感動や夢を創出 県民が、スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画する機会の確保が必要 平成23年、トップクラブ3チームのホームゲームの観戦に合計で166千人が来場 全国各地での試合は、岡山県をPRし情報発信する絶好の舞台 						
	<p>事業内容</p> <p>日本のトップレベルのリーグで岡山を拠点に活動し、県民に感動や夢を与えてくれるアジアノ岡山、岡山湯郷Belle、FC高梁吉備国際大学Charme、岡山シーガルズ（以下、「トップクラブチーム」）の試合等を活用して、以下の事業を実施する。</p> <p>トップクラブチーム・ファイト！岡山応援事業【4,315千円】</p> <ol style="list-style-type: none"> 県民応援デー開催事業（1,992千円） <ul style="list-style-type: none"> ホーム公式戦会場で小学生の前座試合、中高生の運営ボランティア体験などを実施 アウェイゲーム情報発信事業（2,323千円） <ul style="list-style-type: none"> 中四国、大阪などでのアウェイゲームにおいて、県外事務所や観光課などと連携し、岡山の情報発信やアウェイサポーター誘客などを推進 						
事業内容・進め方		<p>進め方 1、2ともに各クラブに委託</p>					
事業の意図・費用対効果等	<p>事業の意図・費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> トップクラブチームの試合等を活用して、「する、みる、支える」というスポーツ活動へのきっかけづくりを行い、スポーツ活動に取り組む人たちの全体的な拡大を図る。 県民挙げての応援が、各チームの活躍、ひいては元気・夢・感動の創出、地域の活性化（経済効果）、郷土愛の醸成、岡山の情報発信につながる。 						
	設定目標（数値等）	トップクラブチームの観客動員数	現 状 シーズン	平成25年度 シーズン	平成28年度 シーズン		
			166千人	-	218千人		
		<p>コスト抑制のための工夫 大阪事務所の活用、委託によるコスト削減</p>					
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額	
	事業費(単位:千円)		4,315	4,315	4,315		
	財源内訳	一般財源		4,315	4,315	4,315	
		起 債					
その他特定財源							

トップクラブチームファイト！岡山応援事業

夢・あこがれ

ファジアーノ岡山  岡山シーガルズ 

トップクラブチーム

岡山湯郷Belle  FC高梁吉備国際大学Charme 

ホームゲームを活用

アウェイゲームを活用

子ども達 中心に…

「する・みる・支える」のきっかけづくり

観客 全員に…

岡山をPR

する

- ・ホーム公式戦会場で小学生が前座試合

岡山を全国に情報発

みる・支える

- ・アウェイサポーターの誘客
- ・岡山の観光情報PRなど

みる

- ・子育て中の親子を誘客

支える

- ・中高生が運営ボランティアを体験
- ・選手入場時のBGMを高校生が吹奏楽で生演奏

県民挙げての
応援気運の盛り上がり

岡山の認知度UP
郷土愛の高まり

観客数の増

交流人口の増

スポーツで **元気・感動** の創出

重点事業調書

[担当部局・課名：産業労働部観光課]

3次	基本戦略名称等	基本戦略横断プロジェクト														
夢	戦略プログラム名等	胸を張ってPR！岡山まるごと情報発信プロジェクト														
ラン	メッセージ・基本施策名	首都圏におけるPR拠点の整備等														
重点事業等の名称		首都圏アンテナショップ調査事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	観光・物産支援事業費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <p>H23.5 市長会よりアンテナショップ設置要望書提出</p> <p>H23.8 第3次夢づくりプランにアンテナショップの設置検討を記載</p> <p>H24.6 アンテナショップ検討チーム会議発足</p>															
事業内容	<p>〈事業内容〉</p> <p>首都圏において、本県の観光情報、特産品、移住先等の情報発信拠点となるアンテナショップを平成26年度を目途に開設するために、必要な調査及びプロモーション方策について、県、市町村、民間事業者等と連携した「オール岡山」方式により検討等を行う。</p>															
進め方	<p>〈進め方〉</p> <p>○平成25年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏アンテナショップ設置にかかわる基本計画の策定 (目的・機能・規模・立地・運営方式・商品選定) ・知事・市町村長等を構成員とするアンテナショップ運営協議会(仮)設立 ・アンテナショップ開設にあわせた本県プロモーション方策の検討 ・実施計画、店舗設計 <p>○平成26年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店舗施設工事 ↓ ・店舗開設 ・プロモーションスタート 															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <p>多くの集客が見込める首都圏において、県の認知度やイメージの向上につながるほか、首都圏の消費者ニーズ等に対応した県産品のブラッシュアップを図ることで、観光客の誘致や県産品の販路開拓、ブランド力の向上につながる。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 15%;">〈設定目標〉 (数値等)</td> <td style="width: 20%;">総観光客数 (夢づくり初)</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">2,337万人</td> <td></td> <td style="text-align: center;">2,800万人</td> </tr> </table> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公設民営方式による民間のノウハウの活用 ・市町村負担金算定に人口割・売上割等を導入 (受益者負担の明確化) 						〈設定目標〉 (数値等)	総観光客数 (夢づくり初)	現 状	平成25年度	平成28年度			2,337万人		2,800万人
〈設定目標〉 (数値等)	総観光客数 (夢づくり初)	現 状	平成25年度	平成28年度												
		2,337万人		2,800万人												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)	0	19,943	151,594	40,766											
	財源内訳	0	19,943	131,575	20,747											
	起 債	0	0	0	0											
	その他特定財源	0	0	20,019	20,019											

オール岡山検討チーム「首都圏アンテナショップ」基本構想案

1 設置趣旨

岡山県の知名度アップによる観光誘客と県産品の販路拡大等

多くの人口を抱え、潜在的な需要を持つ首都圏で、岡山県の観光情報、特産品、移住先等の情報発信拠点を整備することにより、本県の知名度アップを図り、観光客入込数の増加や県産品販路の拡大、I J Uターンの促進等、地域経済の活性化に資する。

2 コンセプト

首都圏で「本物の岡山」を売り出す総合機能型のアンテナショップ

首都圏の目の肥えた消費者に、本県の豊かな自然や歴史文化に育まれた観光資源や本県の強みである高級食材・加工品、住み心地の良さなど、ワンストップで「本物の岡山」をアピールするため、総合的な機能を整備する。

(主な機能)

- ①岡山の知名度アップ、観光誘客のための情報発信
- ②県内で生産・製造された食材・加工食品・民芸品等の販売・PR・販路開拓
- ③催事スペースを設置し、市町村、農商工団体等による特産品の実演販売・PR
- ④高品質の特産食材を使ったスイーツ等の提供（イートイン方式）
- ⑤定住・移住のための就職、住宅等の情報提供・相談受付

(規模)

200㎡（60坪）程度

（他道府県のショップ面積（1,000㎡超を除く）の平均は269㎡。レストランを含まない場合は182㎡）

(その他)

農林水産部の「岡山屋」や各市町村、団体の首都圏事業との連携を図る。

3 立地場所

都心で、情報発信力の高い地域（例：銀座・有楽町周辺）

交流人口が圧倒的に多く、幅広い情報発信効果が期待でき、他県ショップとの連携や販路開拓の拠点機能性が高い都心部に開設する。

4 運営形態

協議会で運営方針を決定、店舗運営は公設民営方式

店舗運営については、民間の活力とノウハウの活用を図るため、民間委託とする。

県市町村及び関係団体で運営協議会を設置し、運営方針について決定する。

運営協議会にて、商品選定基準の作成、検証を行う。

初期投資及び年間賃料は、県市町村が負担する。

当初5年間（H26～30）を第1期とし、4年目終了後に次期方針を検討する。

5 経費負担方式

県・市町村による負担（初期投資・店舗賃借料は行政負担）

県：市町村＝1：1

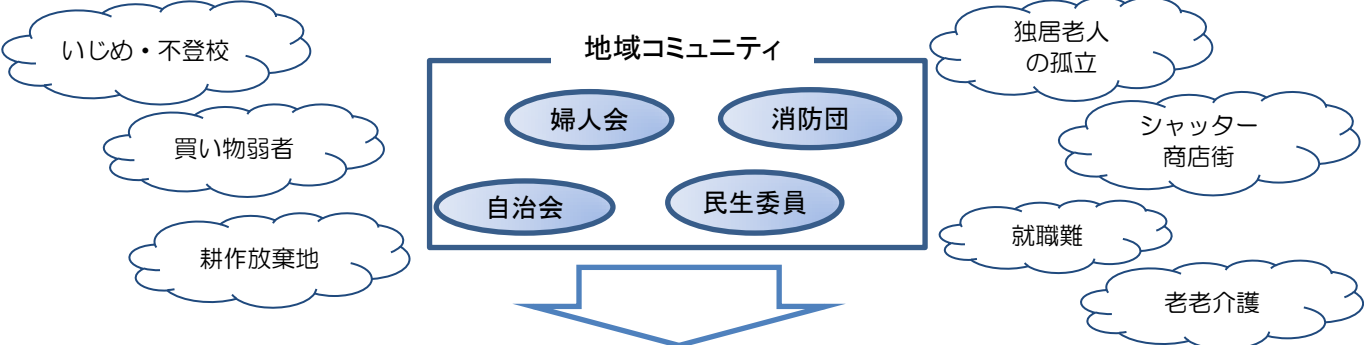
重点事業調書

[担当部局・課名：県民生活部県民生活交通課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅱ 将来を担う人づくり												
夢	戦略プログラム名等	地域を支えリードする担い手育成プログラム												
ラン	メッセージ・基本施策名	「新しい公共」の担い手との協働の推進												
重点事業等の名称		多様な主体の協働による地域支援事業												
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	地域協働支援事業費									
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の課題は、複雑化・多様化しているが、地域社会の絆の弱体化、高齢化や加入率低下による人材不足等により、地域だけで課題解決することが難しくなっている。 これまで、国の新しい公共支援事業で地域の課題を解決する仕組みづくりを支援してきたが、成功パターンには、より多くの主体が様々なかたちで参画している場合が多い。 													
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>(1) 概要：多様な主体が協働して地域課題の解決に取り組む事業に対して支援する。</p> <p>(2) 選定方法：県が推進する施策に沿ったテーマを県が提示し、事業を公募する。 企画コンペ方式を採用（新しい公共支援事業と同様）</p> <p>(3) 予算規模：8,121千円（2,000千円×4件）</p> <p>(4) 主な応募条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な主体で構成されたグループからの応募であること これまでの地域コミュニティだけでは解決できなかった地域課題について、多様な主体が協働することにより、効果的に解決が図られるものであること 等 <p>-----</p> <p>〈進め方〉 事業説明会の開催（3月下旬）、事業選定（5月）、事業開始（6月～3月）</p>													
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの活性化に向けて、地域課題を解決する取組を支援するものであり、そうした取組の情報発信により、県全域の地域力の向上を図る。 これまで実施してきた新しい公共支援事業において、例として、次のような効果があり、この事業においても同程度の成果があると考える。 <p>＜過疎地有償運送の取組（津山市阿波地域）＞</p> <p>福祉バス等の運行に係るコスト削減等が課題であったが、市や地元のNPO等で解決策を検討し、地域住民が運転手となることで大幅にコスト削減。また、車両は企業からのEV車貸与が可能となった。</p> <p>＜子育てひろば（屋内）の設置（備前市）＞</p> <p>地域では、ひろばの設置が熱望されていたが、この事業において、屋内設備やおもちゃ等が手作りや寄附により整備され、低コストで開設された。運営も地域住民など子育て支援ネットワークで行われている。</p> <p>〈設定目標〉 (数値等)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">「新しい公共」を進める事業 に参画したNPO等の数</td> <td style="text-align: center;">現 状</td> <td style="text-align: center;">平成25年度</td> <td style="text-align: center;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">3 4</td> <td style="text-align: center;">5 5</td> <td style="text-align: center;">1 2 0</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <p>本事業は、200万円/件であるが、新しい公共支援事業の700万円/件と同様の効果をあげ、県内全域への波及を目指している。</p>						「新しい公共」を進める事業 に参画したNPO等の数	現 状	平成25年度	平成28年度		3 4	5 5	1 2 0
「新しい公共」を進める事業 に参画したNPO等の数	現 状	平成25年度	平成28年度											
	3 4	5 5	1 2 0											
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額								
	事業費(単位:千円)		8,121	8,121	8,121									
	財源内訳	一般財源	8,121	8,121	8,121									
		起 債												
		その他特定財源												

多様な主体の協働による地域支援事業

地域の課題 複雑化・多様化しているが、地域社会の絆の弱体化、高齢化や加入率低下による人材不足等により、地域コミュニティだけで解決することが難しくなっている。



これまでの「新しい公共」支援事業での取組例(H23・24)

多様な主体の特性を活かすことにより、効率的できめ細かな公共サービスの提供

【具体的な例】

成功パターン

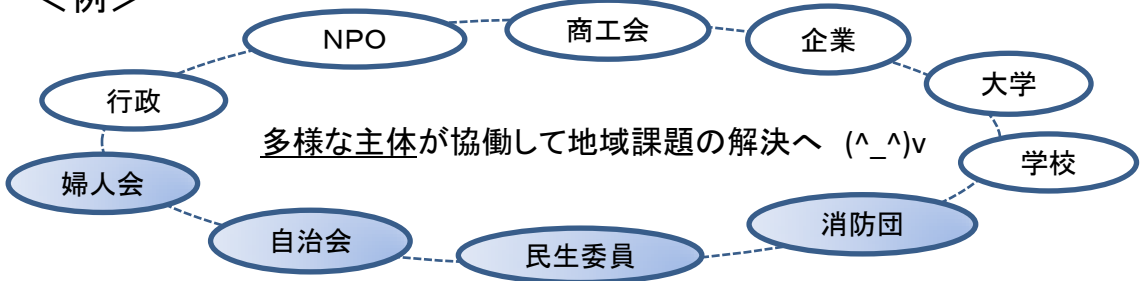
【過疎地有償運送の実施】
津山市、NPO法人、自治会、企業等が協働して、福祉バス等の運行コストの削減が課題であったが、地域住民が運転手となることで大幅に低コスト化を実現。車両は企業からのEV車貸与。

【子育てひろばの設置】
備前市、4つのNPO法人、地元住民が子育て支援ネットワークを構成し、設置が熱望されていた親子で集える「子育てひろば」を空き家を活用して2ヶ所で低コストにより開設。地域住民が運営。

【有害獣（猪）の有効活用】
吉備中央町、NPO法人、企業、就労支援施設、県等が協働して、廃棄されていた猪の皮を地域資源として活用し、付加価値の高い皮革製品を開発、商品化を検討。障害者の工賃アップもめざす。

新しい事業でめざす仕組み

<例>



多様な主体が協働して地域課題の解決へ (^_^)v

【事業の概要】
 ・事業費 8,121千円
 ・期間 H25～H27
 ・支援 2,000千円/件(4組/年)
 ※ 県がテーマを提示し、公募。
 (新しい公共支援事業と同様にコンペ方式を採用)

【主な応募条件】
 ・多様な主体で構成されたグループからの応募
 ・多様な主体の協働により、行政の直接実施に比べ、効果的に解決が図られるもの 等

取組みを情報発信し、コミュニティの活性化へ

重点事業調書

[担当部局・課名：土木部監理課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅰ 安全・安心な地域づくり				
夢	戦略プログラム名等	県民の命を守る防災・減災プログラム				
ラン	メッセージ・基本施策名	セーフティ・ニューディールの推進				
重点事業等の名称		土木施設アセットマネジメント推進事業				
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	土木施設アセットマネジメント推進事業費	
現状・課題	(現状・課題) ・維持修繕に必要な予算が確保できず、耐用年数を超過しても更新・修繕できていない土木施設が数多くある。 ・高度経済成長期以降、急速に増加した土木施設が更新期を迎え、維持管理・更新費の急騰が見込まれている。					
事業内容・進め方	(事業内容・進め方) ○土木施設長寿命化事業【49,218千円】 ・土木施設のライフサイクルコストを極力低減するため、アセットマネジメント手法を活用した「予防保全型維持管理」に取り組み、維持管理・更新費の急増を抑制する。 ・この取組のスタートとして、河川管理施設（小規模な水門等）、ダム管理施設（ゲートを有し老朽化が進行している2ダム）、港湾施設について、施設ごとに詳細点検、台帳整備、長寿命化計画の策定を行う。					

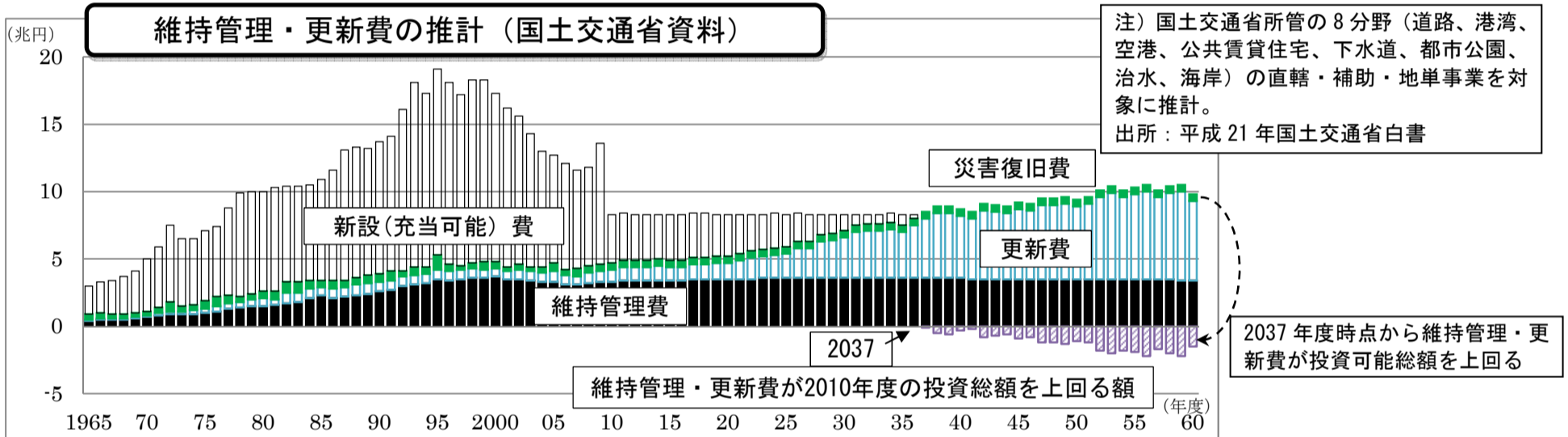
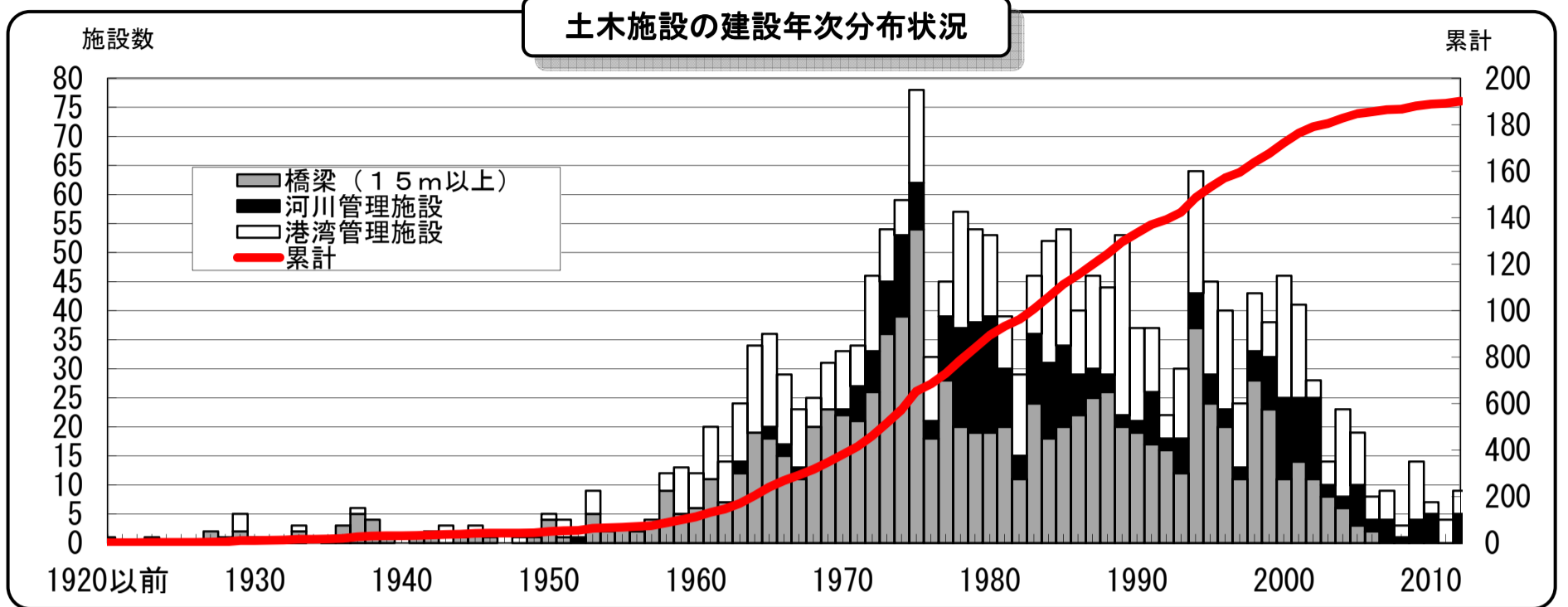
事業の意図・費用対効果等	(進め方) ・施設単位で維持管理区分を設定、施設の点検、台帳整備（4月～） ・長寿命化計画等の策定（6月～） <H25:河川管理施設（小規模な水門等）、H26：ダム、H27：港湾施設>					

(事業の意図・費用対効果) ・土木施設の適切な維持・長寿命化により、維持修繕予算の平準化、最少化を図る。 ・施設の更新費用も含めたライフサイクルコスト（LCC）の最適化を実現する。（下記〈コスト抑制のための工夫〉参照）						
(設定目標) (数値等)		長寿命化計画 策定施設	現 状 2(※)	平成25年度 3	平成26年度 4	平成27年度 5
※道路橋梁（15m超）、河川管理施設（修繕費が4億円を超える大規模な排水機場等）						

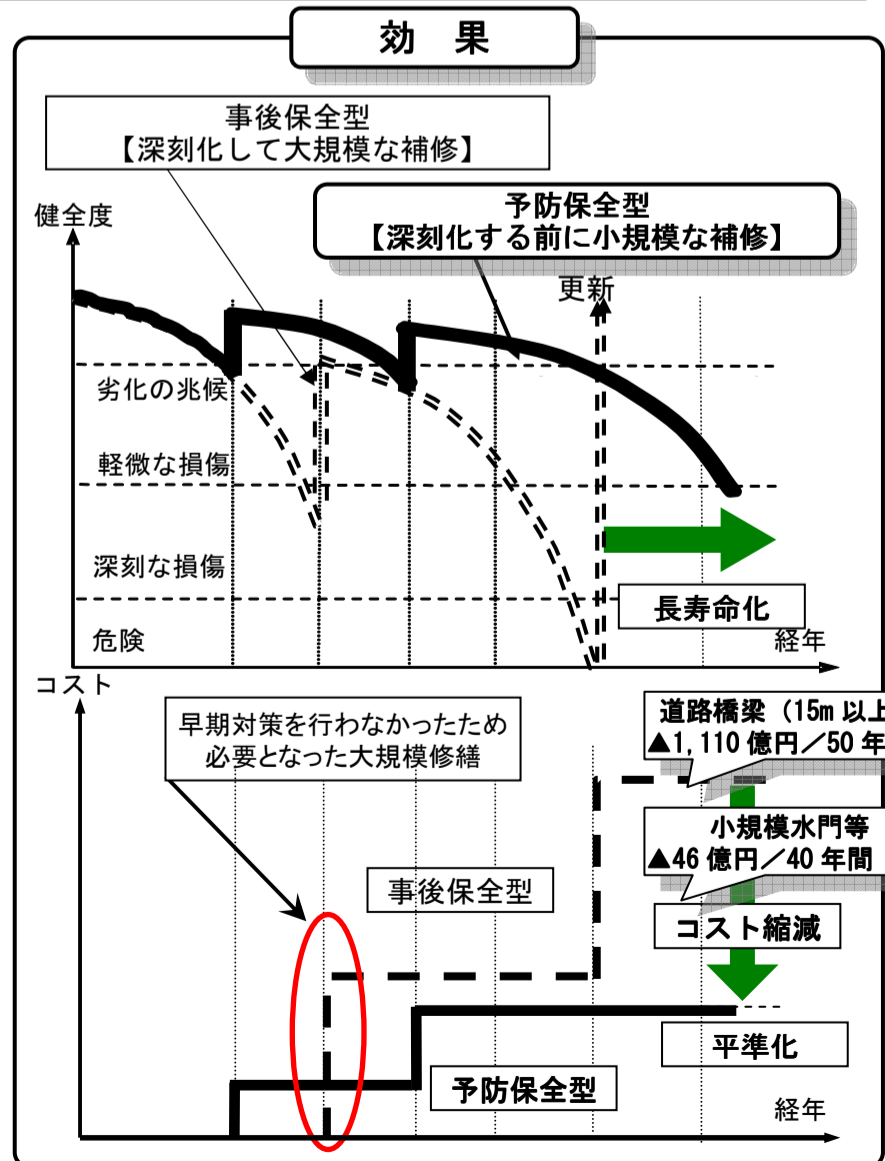
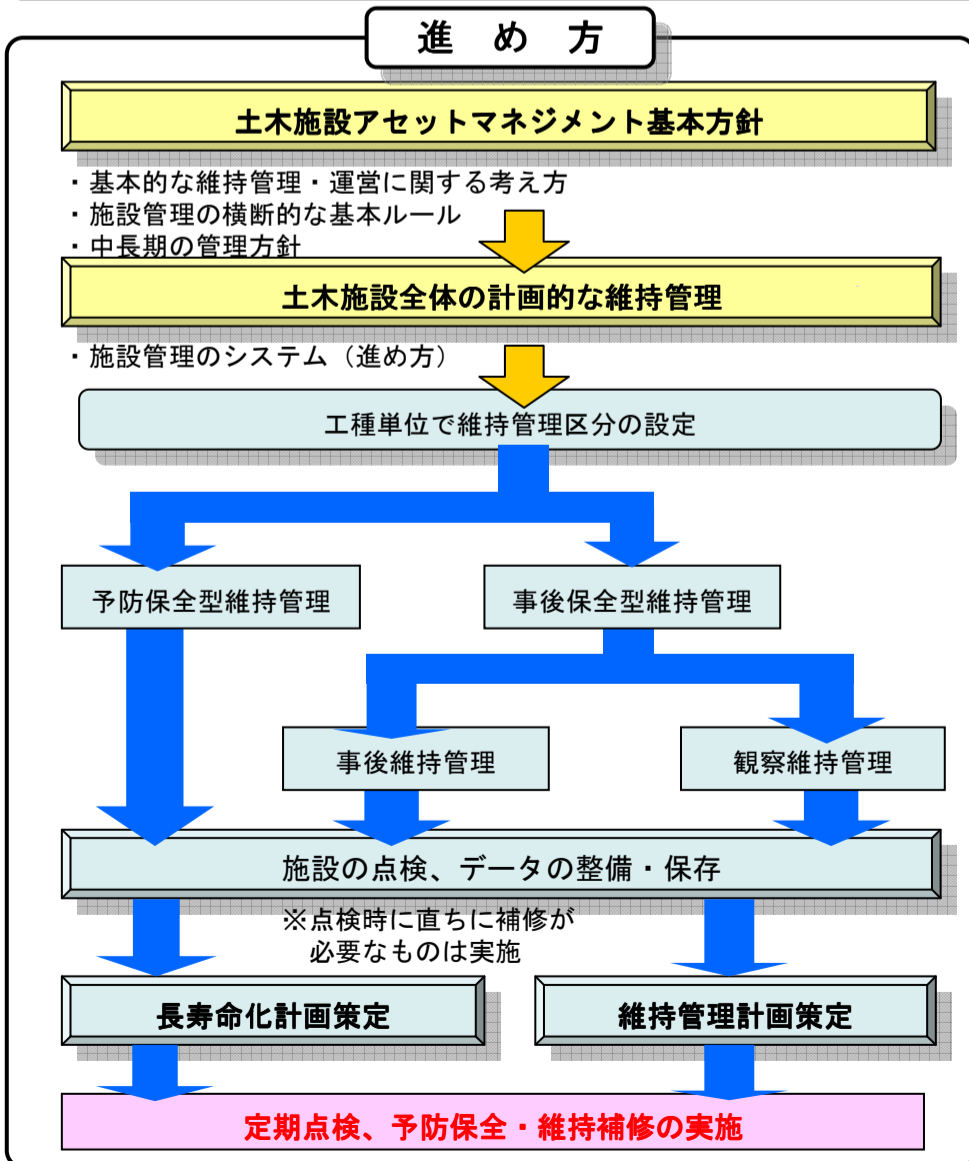
(コスト抑制のための工夫) ・本県の道路橋梁（15m以上）の試算：約△1,110億円／50年間（H22～H71） ・本県の小規模水門等の試算：約△46億円／40年間（H26～H65） ・大阪府の土木施設（道路施設、河川管理施設、港湾施設等）の試算：約△3,300億円／20年間（H22～H41）						
事業費見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額
	事業費(単位:千円)		49,218	52,200	18,000	
財源内訳	一般財源		44,000	44,347	18,000	
	起 債					
	その他特定財源		5,218	7,853		

土木施設アセットマネジメント推進事業

高度経済成長期等に集中的に整備された土木施設が老朽化し、補修・更新費用が大幅に増加 【大更新時代が到来】



アセットマネジメント手法を活用し、限られた財源の中で戦略的な維持修繕により施設の延命化を図り、費用の平準化、最小化を目指す。



重点事業調書

[担当部局・課名：知事直轄危機管理課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅰ 安全・安心な地域づくり																
夢	戦略プログラム名等	県民の命を守る防災・減災プログラム																
ラン	メッセージ・基本施策名	迅速でわかりやすい防災情報の提供																
重点事業等の名称		総合防災情報システム再構築事業																
終期設定：平成31年度		予算区分	一般	事項名	防災情報ネットワーク高度化事業費													
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <p>県総合防災情報システムは、①市町村等防災機関相互の気象・観測情報や被害情報等の伝達・共有②メール配信等による県民への防災情報の提供などの機能を備え、災害対策業務に必要不可欠なツールとして、防災機関が有効活用し、安全・安心な地域づくりに寄与している。</p> <p>平成18・19年度に整備した現行システムは、平成27年7月にサーバに搭載しているOS（基本プログラム）のサポート期間が終了し、ウィルスに対するセキュリティ対策ができないため、以後の運用が困難となる。このため、システムの再構築が必要であり、視認性や操作性の向上などシステムの機能強化を含めて、構築に2ヶ年かかることから、平成25年度に着手する必要がある。</p>																	
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>総合防災情報システムの再構築【H31までの全体事業費：371,941千円】</p> <p>次の5つの基本方針の下、再構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 優れた視認性と直感的に分かる操作性の被害情報収集システム 2 地図でビジュアルに概況を把握できる被害状況共有システム 3 公共情報commonsを活用し、多様なメディアで県民に伝える防災情報提供システム 4 クラウドを導入し、アクセス集中時の処理能力の強化やコスト削減を図ったシステム 5 メール配信に重要情報を優先したお勧め登録を設け、使いやすさを向上させたシステム <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉</p> <p>システム構築（H25～26年度）と運用保守（H27～31年度）を一括契約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25：公募型プロポーザル方式により業者選定（8月）。実施設計と一部システム構築 ・H26：システム構築（H27年3月までに新システムに全面移行） ・H27～31：システムの運用保守 																	
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果等〉</p> <p>視認性、操作性等の向上をはじめとする機能改善を行い、防災関係機関の活動を的確に支援するとともに、多様な手段でわかりやすく県民に災害情報を提供することにより、本県の災害対応力の強化を図る。</p> <p>防災メール配信については、お勧め登録メニューの新設により登録作業を簡素化し重要情報を確実に提供できるようにし、県民にとって真に使いやすく役立つシステムとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">〈設定目標〉 （数値等）</td> <td style="width: 15%;">防災メール登録件数</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">25,000</td> <td style="text-align: center;">30,000</td> <td style="text-align: center;">50,000</td> <td></td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災情報メール配信機能のクラウド導入による整備・運用管理コストの削減：22百万円 ・プロポーザル方式によるコスト削減の提案やWeb用気象情報（気象庁情報）の活用など 						〈設定目標〉 （数値等）	防災メール登録件数	現 状	平成25年度	平成28年度				25,000	30,000	50,000	
〈設定目標〉 （数値等）	防災メール登録件数	現 状	平成25年度	平成28年度														
		25,000	30,000	50,000														
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額												
	事業費(単位:千円)		36,892	194,006	23,763	117,280												
財源内訳	一般財源		10,592	105,106	23,763	117,280												
	起 債		26,300	88,900														
	その他特定財源																	

総合防災情報システム再構築事業

【必要性】

ハード面の課題

- ・OSのサポート期間
H27年7月に終了。安全対策が脆弱化、システム運用が不可能に
- ・サーバの老朽化
耐用年数経過。部品供給期間終了 など

ソフト面の課題

- ・県民向け情報提供
Web操作が分かりにくい。スマートフォン未対応。防災メール配信の登録が面倒
- ・被害報告システム
操作性が悪い。報告内容が一目で分からない。地図が使いにくく住所検索できない。

【システムの再構築】 五つの基本方針

優れた視認性と直感的に分かる操作性

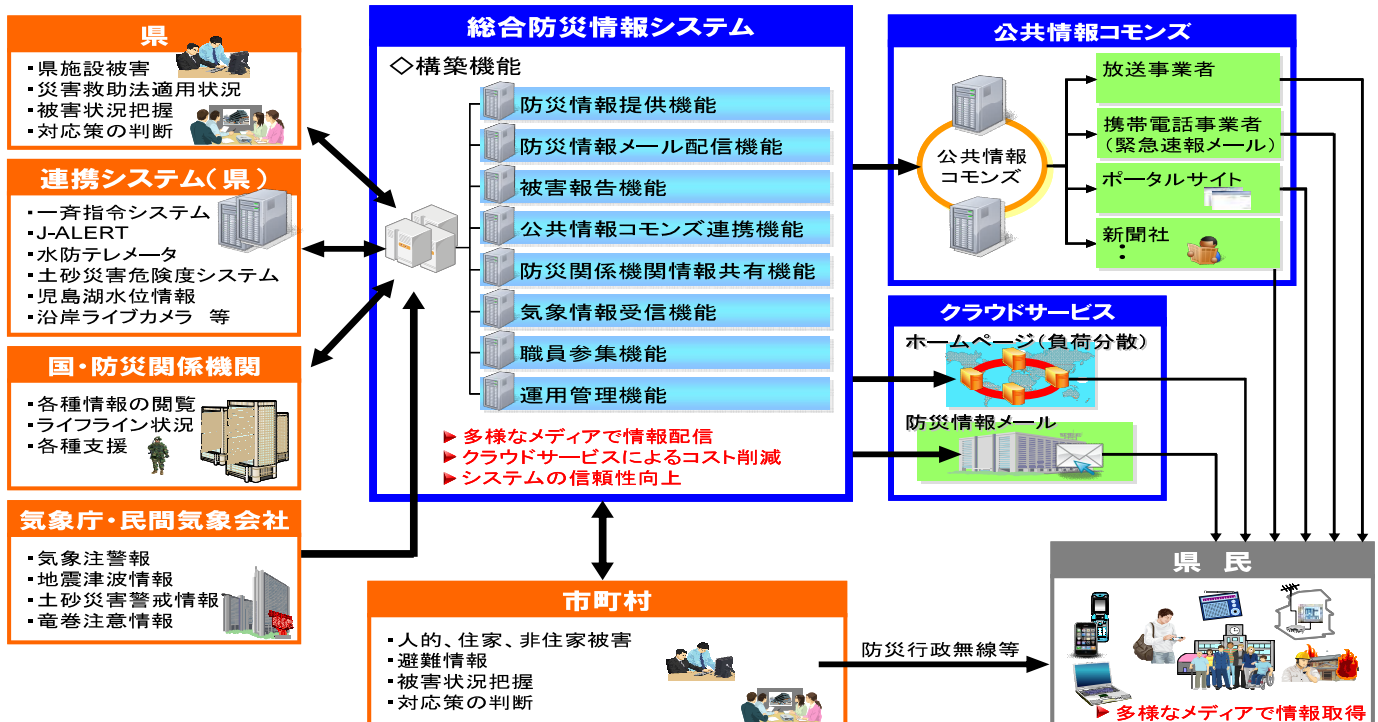
地図でビジュアルに概況を把握

公共情報コモンズを活用し、多様なメディアで県民に情報提供

クラウドを導入し、アクセス集中時の処理能力強化、コスト削減

重要情報を優先したメールお勧め登録を設け、使いやすさを向上

総合防災情報システムイメージ図



【事業計画】

- ◇事業期間 H25～26 実施設計、再構築
H27～31 保守運営(5年間)
- ◇事業概算 371,941千円
- ◇財源 防災基盤整備事業債

【事業効果】

- ①防災関係機関相互の被害情報の共有により迅速で的確な防災活動を支援
- ②多様な情報伝達手段により、県民が災害関連情報を確実に入手できるようになり、的確な避難行動等を支援

重点事業調書

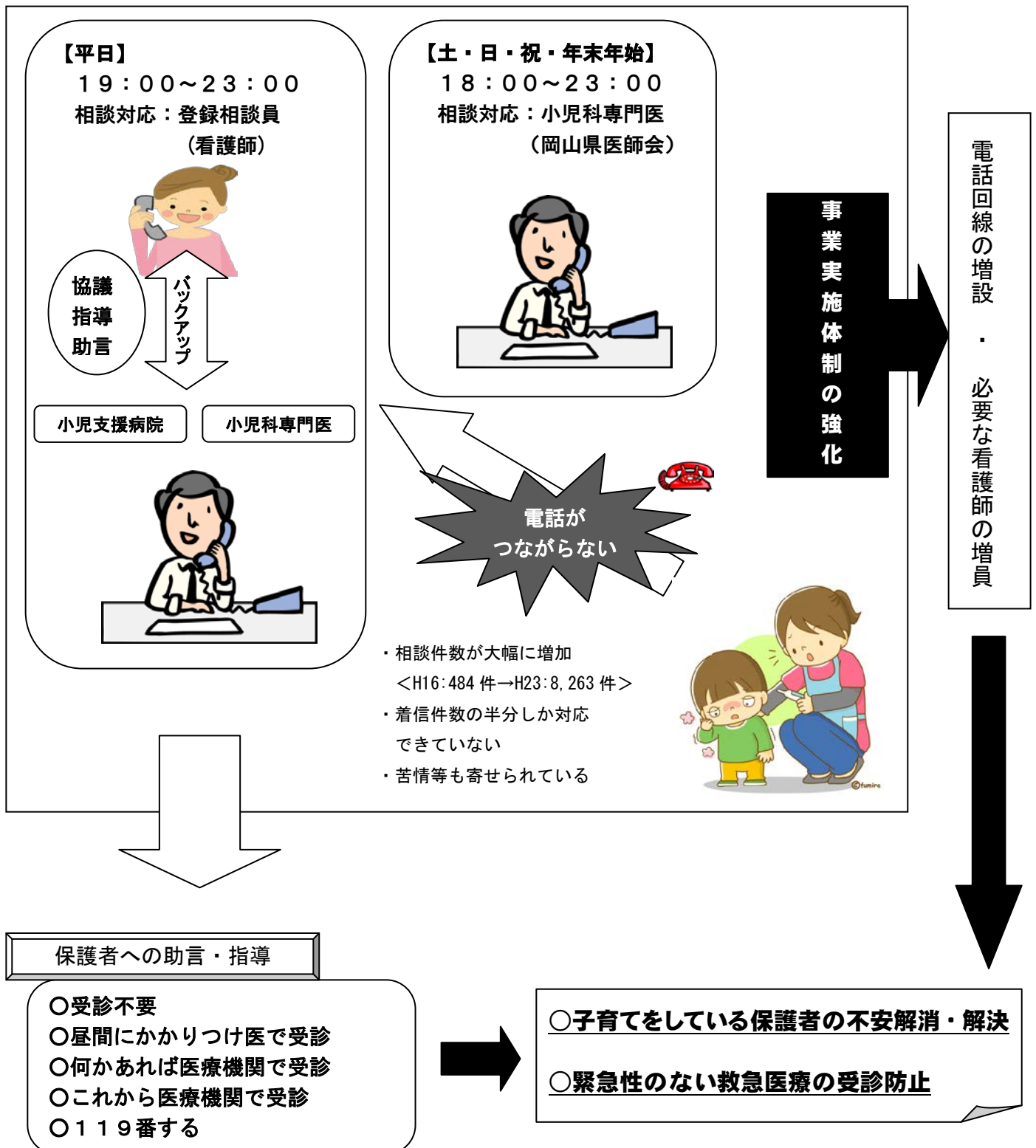
[担当部局・課名：保健福祉部・医療推進課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅰ 安全・安心な地域づくり												
夢	戦略プログラム名等	良質で先進的な保健・医療・福祉サービス提供プログラム												
ラン	メッセージ・基本施策名	地域における医療提供体制の整備												
重点事業等の名称		小児救急医療電話相談事業												
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	救急医療体制整備費									
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが夜間体調を崩した際、症状への対応方法等の保護者などの不安について電話で相談に応じるとともに、医療機関の受診についても適切なアドバイスを行うことにより、緊急性のない救急医療の受診を防ぐことで、小児科医の負担を軽減するとともに、小児の救急に際して保護者等が安心感をもって適切に対応できることを目的としている。 事業開始当初に比べ相談件数が大幅に増加したことに伴い、電話回線が1回線のため、相談中等で電話がつながりにくくなっており、現状では着信件数の約半分しか対応できておらず、苦情等も寄せられている状況であり、事業実施体制の強化が求められている。 													
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>事業実施体制の強化を図るため、相談電話の回線を1回線から2回線に増設する。また、2回線目の担当として、登録相談員（看護師）を増員し、小児科専門医から必要な研修を受けた上で電話相談に当たらせる。</p> <p>1 これまでの取組 <制度開始>H16年度に（社）岡山県医師会へ業務委託 小児科専門医が休日等（土日祝・年末年始）の18時～23時に対応 <制度拡大>H19年度に対応時間を拡大 登録相談員が平日（月～金）の19時～23時についても対応を開始</p> <p>2 事業実施体制強化後 <実施時間>休日等：18時～23時、平日：19時～23時 → <u>変更なし</u> <電話回線数>1回線 → <u>2回線へ</u> <相談対応者>休日等：小児科専門医1名、平日：登録相談員1名 → <u>2回線に対応するため登録相談員の増員を図る</u></p>													
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <p>事業実施体制の強化により、より多くの相談への対応が可能となるとともに、子育てをしている保護者の安心につながるほか、緊急性のない救急医療の受診防止にもつながる。</p> <p>〈設定目標〉 (数値等)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">電話相談対応件数</td> <td style="text-align: center;">現状(H23)</td> <td style="text-align: center;">平成25年度</td> <td style="text-align: center;">平成27年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">8,263件</td> <td style="text-align: center;">10,000件</td> <td style="text-align: center;">13,000件</td> </tr> </table>						電話相談対応件数	現状(H23)	平成25年度	平成27年度		8,263件	10,000件	13,000件
電話相談対応件数	現状(H23)	平成25年度	平成27年度											
	8,263件	10,000件	13,000件											
事業費の見積もり	<p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <p>従来、休日等の相談は小児科専門医が対応していたが、増設する回線については、休日等及び平日ともに登録相談員で対応することでコスト削減を図る。なお、その場合の安全性の確保は、小児支援病院の医師がバックアップを行うことによって図る。</p>													
	区分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額								
	事業費(単位:千円)	11,189	19,137	19,137	19,137									
財源内訳	一般財源	6,136	10,256	10,256	10,256									
	起債													
	その他特定財源	5,053	8,881	8,881	8,881									

小児救急医療電話相談事業

【小児救急医療電話相談の流れ】

- ① 相談者（概ね15才未満の子どもの保護者）
- ② 短縮ダイヤル（#8000）へ電話
- ③ 岡山県医師会の固定電話へ着信
- ④ 番相談員の携帯電話へ転送



重点事業調書

[担当部局・課名：教育庁指導課・生涯学習課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅱ 将来を担う人づくり人づくり														
夢	戦略プログラム名等	学校・家庭・地域の連携による教育推進プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	科学技術教育の推進														
重点事業等の名称		科学技術教育の推進														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	学力向上総合推進事業費・生涯学習センター事業費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの各種調査によると、小学校から中学校にかけて学年が高くなるにつれて理科への興味・関心が低下するなど、理科離れの傾向が見られる。 天然資源に乏しい日本が科学技術立国を確立するためには、次代を担う優れた人材の育成が不可欠であり、小中学校段階からの理科離れの解消に向けた取組を更に進める必要がある。 															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>○科学に挑戦ステップアップ事業 小学生から高校生まで見通した科学に関するステップアップ事業を編成し、裾野の拡大から才能伸長を図る一貫プログラムを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学オリンピックへの道【11,948千円】 理数に興味関心の高い中高生を対象としたコンテストや国際科学オリンピックを目指したセミナーを開催し、国際的に活躍できる人材の育成を目指す。 科学技術人材育成（サイエンスチャレンジ等）【2,539千円】 理数科高校、工業科等専門高校において、科学技術教育・ものづくり教育への取組を推進するとともに、高校生を対象に、チームによる科学技術・理科・数学など複数分野でのコンテストを開催し、科学好きの裾野の拡大と能力の高い生徒の一層の伸長を図る。 理数に挑戦：岡大連携 小中学生を対象とした理数の問題にチャレンジするコンテストを実施する。 岡山大学と連携した運営委員会、作問委員会の運営【1,463千円】 コア・サイエンス・ティーチャー養成拠点構築等（経費：(独)科学技術振興機構） 岡山大学と連携し、小中学校における理科教育の中核となる現職教員の養成を行う。 <p>○「人と科学の未来館サイピア」の活用 新「人と科学の未来館サイピア」活用事業（指定管理料を含む） プラネタリウムや全天周映像の上映、実験教室の開催、地域の科学技術や産業の展示等</p>															

事業の意図・費用対効果等	<p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ステップアップ事業：作問（4～9月）、大会実施（10～12月） サイピア：県内企業、大学、NPO等と連携・協働し、学習指導要領に対応したプログラムの実施による全県的な理科学習の補完的役割を果たすと同時に、幅広い世代に向け、県内の先端技術、ものづくり技術等のオンリーワンを発信する場とする。 <p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度な科学技術の知識や能力を伸ばす場の提供による国際的に活躍する人材の輩出 一貫したプログラムの提供や様々な機関との連携による実験・展示等を通じ、幅広い世代が楽しく学び交流し、つながりや知の循環が生み出される。 サイピアを活用し、幅広い世代が楽しく学び交流し、知の循環を図ることで、ものづくりや先端技術の理解が深まり、本県産業の発展にも資する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 15%;">〈設定目標〉 (数値等)</td> <td style="width: 15%;">サイピア 利用者数</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成26年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">75,000</td> <td style="text-align: center;">82,000</td> </tr> </table> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> サイピアを含めた生涯学習センターの運営管理については、指定管理者制度を導入し、民間の能力を活用しつつ、サービスの向上や経費の節減などを図る。 						〈設定目標〉 (数値等)	サイピア 利用者数	現 状	平成25年度	平成26年度			0	75,000	82,000
〈設定目標〉 (数値等)	サイピア 利用者数	現 状	平成25年度	平成26年度												
		0	75,000	82,000												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)	15,922	15,950	15,950	15,950											
財源内訳	一般財源	15,922	15,950	15,950	15,950											
	起 債															
	その他特定財源															

科学に挑戦ステップアップ事業

科学技術分野での人材育成

- ・国際科学オリンピックへ出場する生徒
- ・国際学会等で活躍できる人材
- ・県内ものづくり企業で活躍できる人材

才能伸長

「科学オリンピックへの道」

H27 国際物理オリンピックへの出場を目指す



「理数に挑戦」

理科離れの解消

学校での取組

高校生

スーパー・サイエンス・ハイスクール(国)
岡山一宮・倉敷天城・玉島・津山

科学技術人材育成事業

- ・県立学校5校での実践的人材育成
→先端技術者+地元産業を支える技術者の育成
- ・サイエンスチャレンジ岡山(競技会)の開催
→裾野の拡大と上位層の更なる伸長

中学生

小学生

●教員の専門性向上
コア・サイエンス・ティー
チャー(CST)養成拠
点構築事業
小中学校におけ理科
教育に優れた教員の
養成

岡山大学と連携

運営委員会・作問委員会

岡大と連携して運営委員会等を組織し統括的に運営

新 「人と科学の未来館サイピア」活用事業(科学の学び・体験・交流事業)

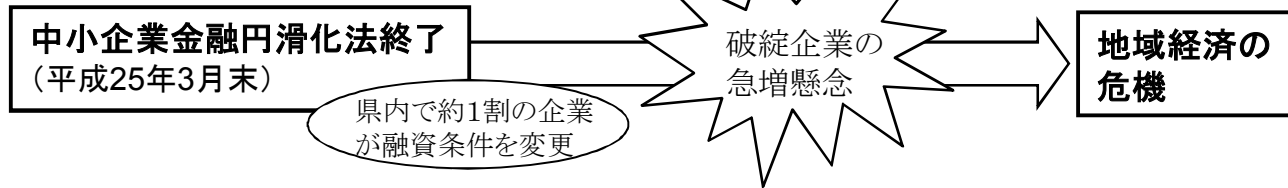
重点事業調書

[担当部局・課名：産業労働部・経営支援課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展につながる産業づくり																						
夢プ	戦略プログラム名等	地域産業パワーアップ・新ビジネス育成プログラム																						
ラン	メッセージ・基本施策名	新分野・新事業に挑戦する元気な中小企業の育成																						
重点事業等の名称		地域経済対策～リスクを乗り越え成長する中小企業の支援～																						
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	中小企業支援パッケージ-事業推進費 中小企業金融対策費																			
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <p>1 中小企業金融円滑化法が平成25年3月末に期限切れを迎えることから、中小企業の経営改善や事業再生・業種転換等の緊急かつ実効性のある支援とともに、厳しい経済情勢が長期化する中、担保力の不足する中小企業が成長を目指すための金融支援が必要とされている。</p> <p>2 企業が災害等の緊急事態発生時に事業を早期復旧・継続するためのBCP(事業継続計画)の必要性の認識が高まっているが、県内ではBCPを策定済又は策定中の中小企業は5%に止まり、実効性ある計画策定と事業継続能力の向上が必要である。</p>																							
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>1 ポスト金融円滑化法支援パッケージ</p> <p>(1)経営改善セミナー及び緊急相談会の開催【1,153千円】</p> <p>(2)事業承継及びM&A等に係る講演会・相談会の開催【1,727千円】</p> <p>(3)制度融資の見直しによる返済緩和及び成長支援【812千円】</p> <p>①融資条件の統一(期間延長)：融資期間7年(うち据置期間1年)→10年(2年)</p> <p>②返済条件の緩和：経営改善計画等に基づく場合、既存融資の返済期間を延長(5年間)</p> <p>③借換の促進：事業再生資金による借換の場合、融資期間を延長(最長12年間)</p> <p style="padding-left: 20px;">経済変動対策資金の借換要件の緩和(2分の1返済要件の撤廃)</p> <p>④円滑な短期資金の供給(事業活性化短期資金の創設)</p> <p>2 中小企業BCM(事業継続マネジメント)推進事業</p> <p>(1)BCP推進センターの設置【8,391千円】</p> <p>①推進マネージャーを配置し相談や普及啓発、訓練等を実施</p> <p>②BCP研究会による掘り起こしとレベルアップ(情報交換・研修等)</p> <p>③企業の段階に応じた策定支援(南海トラフ地震被害想定I7(国道2号以南の事業所)等)</p> <p>④地域連携BCPへの発展(地域内・地域間の連携した取組を支援)</p> <p>(2)BCP融資資金(事業継続対策資金)の創設【812千円】</p>																							
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <p>1 円滑化法終了後のソフトランディング、短期資金融通による事業活動の活性化を促進する。最小限の経費で、中小企業の経営改善や事業再生等に寄与できる。</p> <p>2 中小企業の事業継続能力強化により、緊急時のサプライチェーン維持・雇用確保を図る。策定企業が東日本大震災の際に得られた効果 被災の影響の軽減51.8%(中企庁調査)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成27年度</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>〈設定目標〉</td> <td>保証協会代位弁済率</td> <td>2.27</td> <td>2.25</td> <td>2.20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(数値等)</td> <td>BCP策定企業</td> <td>5</td> <td>20</td> <td>50</td> <td></td> </tr> </table>							現 状	平成25年度	平成27年度			〈設定目標〉	保証協会代位弁済率	2.27	2.25	2.20		(数値等)	BCP策定企業	5	20	50	
	現 状	平成25年度	平成27年度																					
〈設定目標〉	保証協会代位弁済率	2.27	2.25	2.20																				
(数値等)	BCP策定企業	5	20	50																				
費用対効果等	<p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <p>1 信用保証協会の相談会等への人的(及び経費)協力により経費節減</p> <p>2 他県類似事例と比較すると73%の事業費削減(岐阜県(H24)34,515→本県(H25)9,203千円)</p>																							
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額																		
	事業費(単位:千円)		12,895	12,895	12,895																			
財源内訳	一般財源		12,895	12,895	12,895																			
	起 債																							
	その他特定財源																							

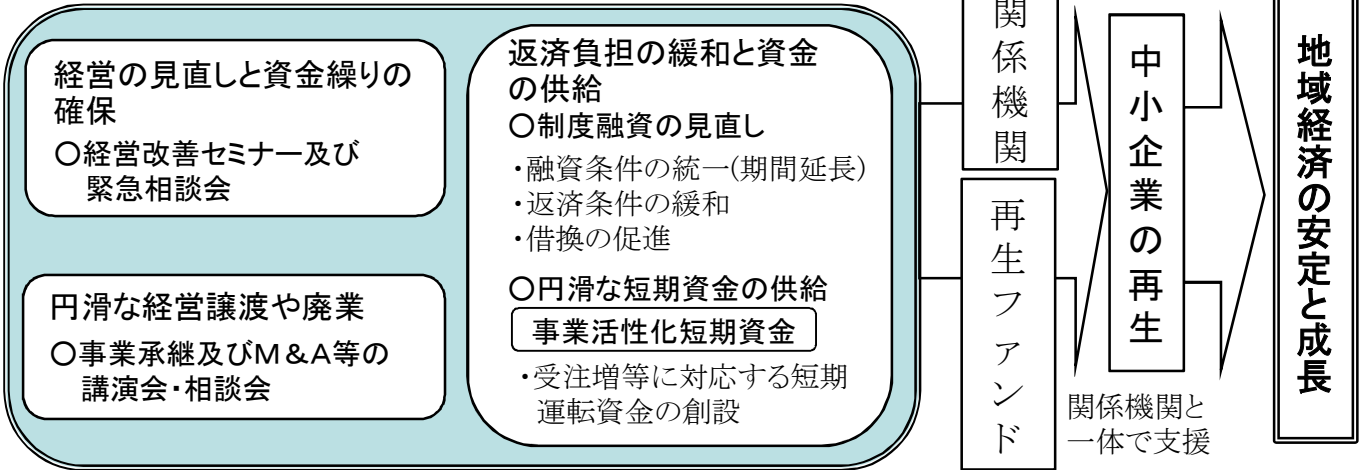
地域経済対策～リスクを乗り越え成長する中小企業の支援～

◆ポスト金融円滑化法支援パッケージ



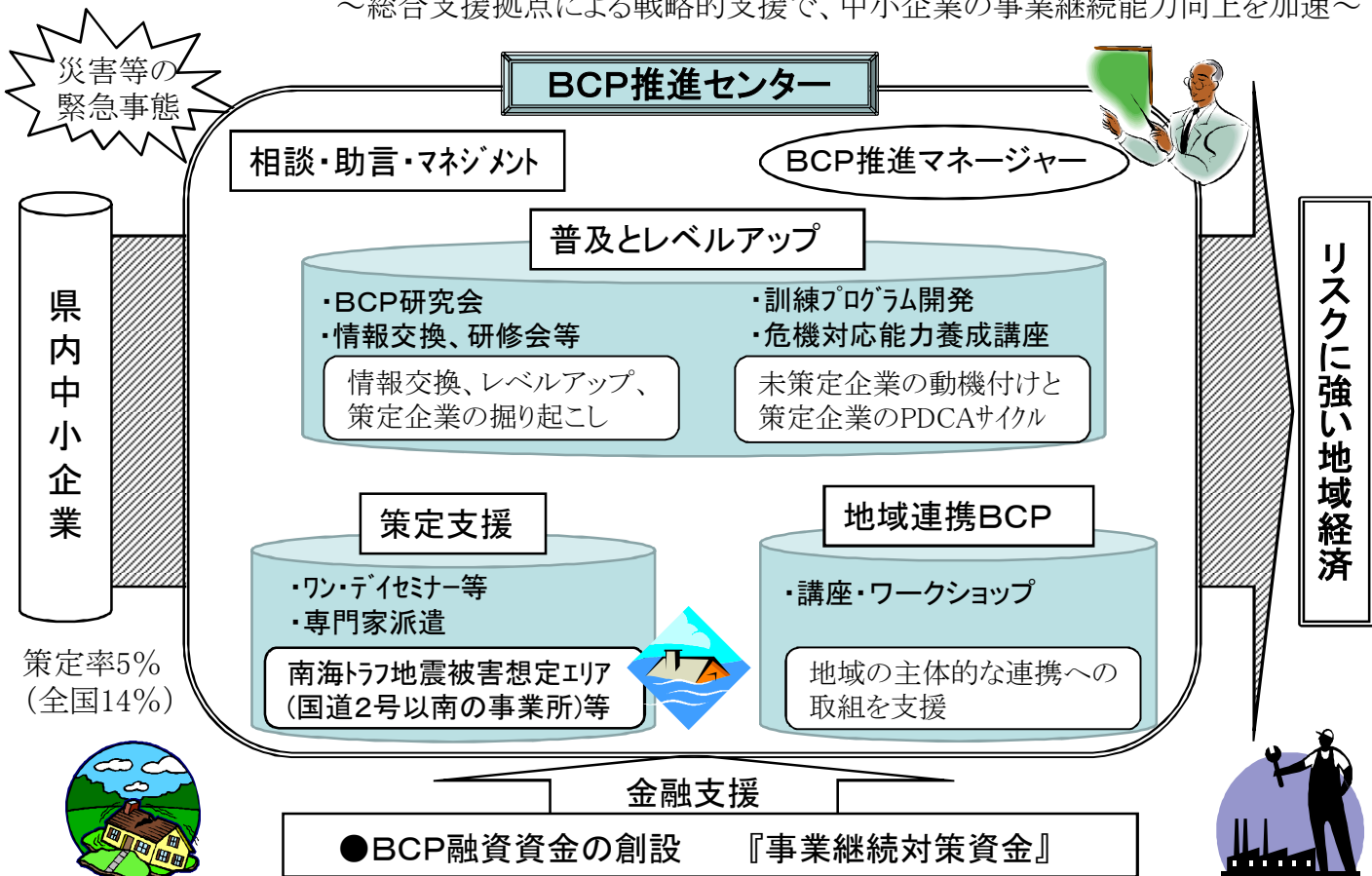
中小企業の経営改善、事業再生等の支援を強化し、ソフトランディングを図る必要

支援パッケージ



◆中小企業BCM(事業継続マネジメント)推進事業

～総合支援拠点による戦略的支援で、中小企業の事業継続能力向上を加速～



重点事業調書

[担当部局・課名：土木部都市局都市計画課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅳ 豊かで潤いのある暮らしづくり												
夢プラン	戦略プログラム名等	文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム												
	メッセージ・基本施策名	文化財の保存・活用												
重点事業等の名称		岡山後楽園魅力向上事業												
終期設定：平成26年度		予算区分	一般	事項名	岡山後楽園魅力向上事業費									
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山後楽園の入園者の減少傾向に歯止めがかからない。 特別名勝岡山後楽園の歴史的、文化的な遺構が十分活用されていない。 													
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>1. にぎわい創出事業【7,839千円】 後楽園の活用方策等を検討し、魅力づくり事業の検討・提言を行うことを目的に県が設置した「後楽園魅力向上委員会」からの中間提言を受け、にぎわい創出事業を実施</p> <p>(1)後楽園・岡山城連携プロモーション事業（新規：1,380千円：産業労働部と連携） ・県、岡山市等連携会議の開催や共通のパンフレット、ポスターを作成し、広報宣伝活動を実施</p> <p>(2)後楽園キャンパスメンバーズ制度導入事業（新規） ・大学等の年会費負担で、学生証の提示で入場できる制度の導入</p> <p>(3)岡山後楽園の夜間独占使用を活用した誘客対策事業（継続：産業労働部と連携） ・全国的、国際的規模の会議等のレセプション会場として「鶴鳴館」の夜間利用を促進するため、観光部局及び岡山市等と連携してPRを展開</p> <p>(4)タンチョウの飼育員後継者育成事業（継続H24～H26：6,459千円） ・初春祭などでのタンチョウのお庭散策（飛翔）を継続するための飼育員養成</p> <p>2. 特別名勝の保存整備事業【50,000千円】（継続H23～H26：50,000千円） 発掘調査により確認された御舟入跡の復元・整備や延養亭等の保全・改修</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉</p> <p>1. にぎわい創出事業 ・県市連携会議の開催（4月～）、共通のパンフレット、ポスターの作成（4月～）、広報宣伝活動の実施（7月～） ・県内の大学等へのPR活動（4月～） ・観光部局、岡山市等と連携したPR活動（4月～） ・タンチョウの飼育員後継者育成事業（H24～H26）</p> <p>2. 特別名勝の保存整備事業 ・御舟入跡の復元・整備や延養亭等の保全・改修（4月～）</p>													
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山後楽園を本県の観光振興や情報発信に効果的に活用することで、国内外からの来園者の増加につなげるとともに、県内各観光地への波及効果や観光岡山のブランド化を図る。 <p>〈設定目標〉 (数値等)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 20%;">後楽園の入園者数</td> <td style="width: 15%;">現状(H23)</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>664,503</td> <td>705,000</td> <td>750,000</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 後楽園・岡山城連携プロモーション事業：岡山市1/2負担。岡山市との連携により、広報活動を実施。 						後楽園の入園者数	現状(H23)	平成25年度	平成28年度		664,503	705,000	750,000
後楽園の入園者数	現状(H23)	平成25年度	平成28年度											
	664,503	705,000	750,000											
事業費の見積もり	区分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額								
	事業費(単位:千円)	56,459	57,839	56,459										
	財源内訳	一般財源	31,459	32,839	31,459									
		起債												
	その他特定財源	25,000	25,000	25,000										

にぎわい創出事業

後樂園魅力向上委員会からの提言「岡山後樂園の課題について」に向けた中間報告への対応

後樂園の入園者数が長期的にみると大幅に減少している。

昭和47年度	209万人（新幹線開通）
昭和63年度	150万人（瀬戸大橋開通）
平成23年度	66万人（ここ10年程度ほぼ横ばい）
平成24年度	約60万人程度の見込み
平成25年度目標	70万5千人

課題

①

危機意識をもって戦略的に観光施策に取り組むこと

● 後樂園・岡山城連携プロモーション事業【1,380千円】←岡山県と岡山市の定期的な連絡会議の開催

・ 後樂園と岡山城との連携をより一層強化するため、後樂園と岡山城共通の観光パンフレット、ポスターを作成し、産業労働部が行う観光プロモーションを県市連携して行う。

● 岡山後樂園の夜間独占使用を活用した誘客対策

・ 全国的又は国際的な規模の会議等のレセプション会場として、後樂園の夜間独占使用について、観光部局及び岡山市と連携してPRすることにより、後樂園の魅力を全国に向けて情報発信し、誘客につなげる。

②

後樂園は観光客の滞在時間が短く、収益構造が弱い

● 後樂園・岡山城連携プロモーション事業【1,380千円】←岡山県と岡山市の定期的な連絡会議の開催（再掲）

③

後樂園周辺エリアや施設とのコミュニケーションが不足している

● 後樂園・岡山城連携プロモーション事業【1,380千円】←岡山県と岡山市の定期的な連絡会議の開催（再掲）

④

県民にとって後樂園が日常的に親しめる場所となっていない

● 後樂園キャンパスメンバーズ制度の導入

・ 大学短大生の来園機会を増やすために、大学短大の年会費負担により、学生証の提示で無料入場できる後樂園キャンパスメンバーズ制度を導入する。

⑤

子どもたちの郷土愛が希薄



来園者の増加・県内各観光地への波及効果・観光岡山のブランド化

岡山後樂園魅力向上事業について

事業名	H24	H25
・タンチョウの飼育員後継者育成	● → ○	○
・特別名勝の保存整備（H23～H26）	○ → ○	○
・後樂園・岡山城連携プロモーション事業		●

注)
●新規事業
○継続事業

重点事業調書

〔担当部局・課名：環境文化部スポーツ振興課〕

3次 夢 ラン	基本戦略名称等	基本戦略横断プロジェクト 基本 豊かで潤いのある暮らしづくり														
	戦略プログラム名等	胸を張ってPR！岡山情報発信プロジェクト 文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム														
	メッセージ・基本施策名	スポーツで創る「元気コミュニティ」の推進														
重点事業等の名称		スポーツによる地域づくり推進事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	県民スポーツ振興費											
現状・課題	<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用したスポーツ交流・地域活性化や地域スポーツクラブの人材育成等の促進【県スポーツ推進条例など】 ・全国レベルのチームの誘致による観覧機会の提供が必要 ・平成23年8月、なでしこジャパンの合宿(美作) ・平成24年7月、U-20女子ワールドカップ代表ヤングなでしこの合宿 ・ライフステージに応じて一生スポーツに親しむ生涯スポーツ社会の実現が必要 ・総合型クラブの運営に係る財政的・人的基盤が十分でなく、育成のための支援が必要 															
事業内容・進め方	<p>事業内容</p> <p>国際大会に出場する日本代表チームの合宿を誘致し、さまざまな地域資源を活用し地域を挙げてチームを受け入れることで、スポーツを通じた地域の一体感や活力の醸成を図るとともに、岡山を全国に情報発信する。 また、地域スポーツ推進の核となる総合型クラブの運営を担う人材の育成を行い、運営の安定化を図る。</p> <p>スポーツによる地域づくり推進事業【3,527千円】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本代表チームのスポーツ合宿誘致事業(2,973千円) <ul style="list-style-type: none"> ・国際大会に出場する日本代表チームの合宿誘致のための、関係市町村、競技団体等との連携による中央競技団体への働きかけ等 2 総合型クラブ人材育成事業(554千円) <ul style="list-style-type: none"> ・クラブの経営管理に携わる専門的人材の育成を目的とした(公財)日本体育協会公認アシスタントマネジャー資格取得のための講習会の開催 <hr/> <p>進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (1)市町村、県競技団体、地元観光団体、商工会等との協働会議(4月) (2)中央団体等への働きかけ、地元の受入れ気運の醸成(4～6月) 2 (1)(公財)岡山県体育協会への委託(4月) (2)クラブマネジャー養成講習会(9月) 															
事業の意図・費用対効果等	<p>事業の意図・費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本代表チーム合宿により、地域の一体感の醸成や消費の誘導効果など地域の活性化(経済効果)とともに来場者との交流促進を図る。 ・注目度の高い日本代表チームの合宿を通して、全国に岡山を情報発信することができる。 ・総合型クラブのスタッフに講習会を受講してもらうことでスキルアップを図るとともに、公認資格を得ることで、スポーツ振興くじ助成を受けることができる等、人的及び財政的基盤の強化につながる。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">設定目標 (数値等)</td> <td style="width: 15%;">アシスタント マネジャー 資格取得者数</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">23人</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">50人</td> </tr> </table> <hr/> <p>コスト抑制のための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設で受け入れ可能な競技種目を選定 ・関係市町村との連携による誘導活動の実施 ・(公財)岡山県体育協会への委託による人件費等の抑制 						設定目標 (数値等)	アシスタント マネジャー 資格取得者数	現 状	平成25年度	平成28年度			23人	-	50人
設定目標 (数値等)	アシスタント マネジャー 資格取得者数	現 状	平成25年度	平成28年度												
		23人	-	50人												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)		3,527	3,527	3,527											
財源内訳	一般財源		3,527	3,527	3,527											
	起 債															
	その他特定財源															

スポーツによる地域づくり推進事業

スポーツは、**地域の活力**や**一体感の醸成**に寄与している 【スポーツ基本法】

【スポーツ推進条例】

合宿を誘致 **総合型地域スポーツクラブを育成**



日本代表チームの合宿を誘致しよう！



地域のスポーツを推進しよう！

〈日本代表チームの合宿誘致〉

国際大会のための事前合宿

誘致活動の実施

自治体、県競技団体、商工会等との連携による中央競技団体への働きかけ
広報 など

例) なでしこジャパン東アジアカップ2013
事前合宿

〈総合型クラブの育成〉

運営スタッフの専門的資格の取得

クラブマネジャー養成事業

スポーツ振興くじ(toto)助成の活用を視野に入れて、アシスタントマネジャー資格取得のための講習会を実施

岡山の良さを実感

災害が少ない

温かいおもてなし

交通の便が良い

気候が温暖

食べ物が美味しい

総合型クラブを活性化

有資格者を増やす

法人ならtoto助成が延長

NPO法人取得促進

スポーツによる地域づくりを推進！！

地域への
経済波及効果

地域の活力や
一体感の醸成

運営スタッフの
スキルアップ

人と人との
交流促進

全国への
情報発信

toto助成活用による
クラブ運営の安定

重点事業調書

〔担当部局・課名：環境文化部スポーツ振興課〕

3次	基本戦略名称等	基本 豊かで潤いのある暮らしづくり														
夢	戦略プログラム名等	文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らしづくり創造プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	スポーツで創る「元気コミュニティ」の推進														
重点事業等の名称		おかやまマラソン(仮称)検討事業														
終期設定：平成25年度		予算区分	一般	事項名	県民スポーツ振興費											
現状・課題	<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化・スポーツが楽しめる地域を目指すことが大切 トップアスリートの活躍は、多くの県民に夢と感動を提供できる。 本県ゆかりの選手が、6大会連続でオリンピックに出場するなど、女子マラソン王国としての地位を生かした情報発信を図る必要 他県で開催された大規模なマラソン大会において成功事例が多い。 															
事業内容・進め方	<p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度中に策定予定としている基本構想に基づき、平成27年度秋季の第1回大会開催を想定した大会実施計画の策定作業を進めるとともに、多くの県民参加を促すための大会の開催機運醸成や環境整備等を、関係機関・団体等と連携して進める。 <hr/> <p>進め方</p> <p>1/4半期 準備委員会開催(平成25年度事業計画策定)、実施計画策定、県内大会との開催時期等調整、コース設定作業等</p> <p>3/4半期 準備委員会開催(進捗状況報告)</p> <p>4/4半期 準備委員会開催(実施計画中間報告)</p>															
事業の意図・費用対効果等	<p>事業の意図・費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツの推進、競技スポーツのレベル向上に向けた裾野の拡大 県民・市民へ夢と感動を提供するとともに、地域の一体感を醸成 地域の情報発信と、それによる都市イメージの向上 大会の開催と、それに併せて実施される関連行事による高い経済効果 (同規模で開催されている他府県大会では4～10倍弱の経済波及効果) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">設定目標 (数値等)</td> <td style="width: 20%;">成年男女の運動・ スポーツ実施人数</td> <td style="width: 20%;">現 状</td> <td style="width: 20%;">平成25年度</td> <td style="width: 20%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>76.4万人(49%)</td> <td>76.4万人(49%)</td> <td>86万人(55%)</td> </tr> </table> <hr/> <p>コスト抑制のための工夫</p> <p>本大会の開催に係る本県負担額の縮減を図るため、先行大会開催主体の事例研究等により、全体事業費の縮減を図る。また、併せて、スポンサーセールスの工夫及び積極的展開により、協賛金等の収入増に努める。</p> <p style="text-align: center;">【現行概算額】歳出) 事業費 389百万円 歳入) 行政負担(岡山県・岡山市) 230百万円、 参加料収入 129百万円、協賛金収入 30百万円</p>						設定目標 (数値等)	成年男女の運動・ スポーツ実施人数	現 状	平成25年度	平成28年度			76.4万人(49%)	76.4万人(49%)	86万人(55%)
設定目標 (数値等)	成年男女の運動・ スポーツ実施人数	現 状	平成25年度	平成28年度												
		76.4万人(49%)	76.4万人(49%)	86万人(55%)												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)	12,436	14,705	60,000	389,000	389,000										
財源内訳	一般財源	9,560	9,968	(60,000)	(230,000)	(230,000)										
	起 債															
	その他特定財源	2,876	4,737		(159,000)	(159,000)										

県・関係団体連携による おかやまマラソン(仮称)の開催について

1 基本コンセプト

県民総参加 ~みんなで参加し、みんなで盛り上がる大会!~

- ・ 参加者：15,000人を目指す
- ・ ボランティアや沿道関連イベント等により県民の一体感を醸成

地域活性化 ~地域を元気にする大会!~

- ・ 観光情報、特産品等の展示・物販等、全国への情報発信行事を併催
- ・ 全国から参加者を積極的に誘引し、地域間交流を促進



新たな「おかやまの魅力」の創造

2 コース設定

- ・ 名所・旧跡周辺や普段走ることができない空間を盛り込み、選手・観戦者ともに楽しめるレースを演出
- ・ 岡山市内の平坦地に高低差の少ないフルマラソンコースを設定することにより、初心者からタイムを狙うランナーまで、幅広い層が参加しやすい大会を目指す

3 開催時期

- ・ 27年度秋季の第1回大会開催を目指す(以後毎年継続実施)

4 推進体制

おかやまマラソン実行委員会(仮称)

県、岡山市、岡山陸上競技協会、岡山県体育協会、山陽新聞社で構成している準備委員会を今後、さらに関係団体を加え拡大

5 大会開催経費

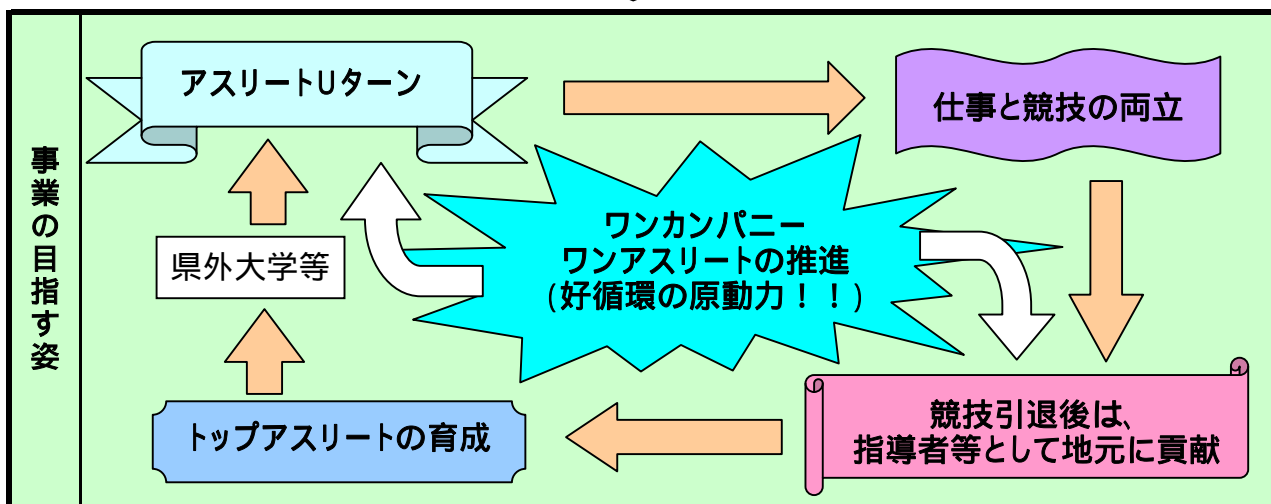
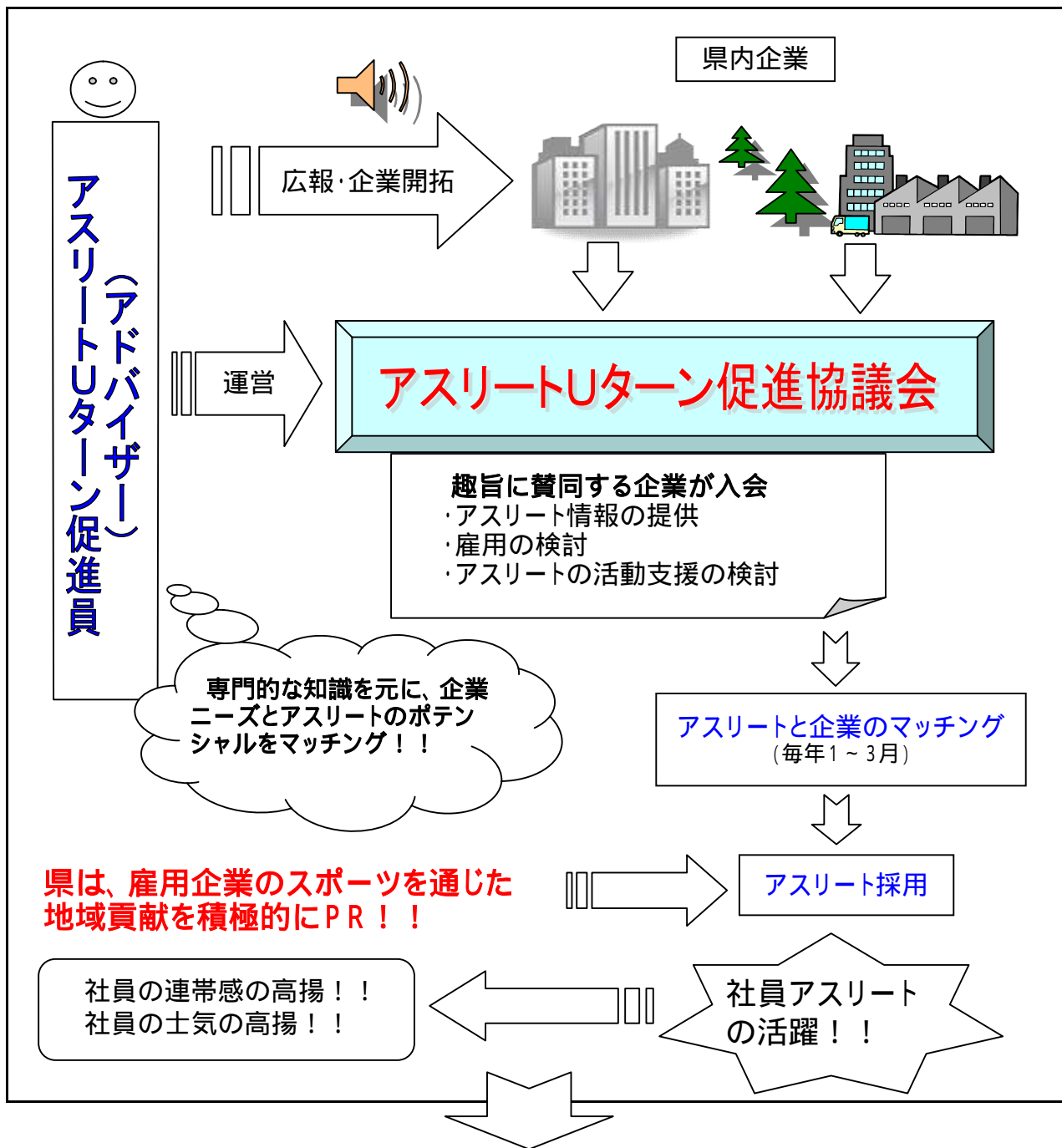
3.9億円(概算額)

重点事業調書

〔担当部局・課名：環境文化部スポーツ振興課〕

3次	基本戦略名称等	基本 豊かで潤いのある暮らしづくり														
夢	戦略プログラム名等	文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	未来へはばたくアスリートの育成・支援														
重点事業等の名称		アスリートUターン促進事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	競技スポーツ振興費											
現状・課題	<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山国体以降、県内中学生や高校生は全国大会においてめざましい活躍を継続 県外の強豪大学等で全国トップクラスに成長を遂げても、Uターン就職できないため、成年選手及び次世代指導者となる人材が県内に定着しない。 県内には独自にチームを丸抱えするという企業が少ない。 															
事業内容・進め方	<p>事業内容</p> <p>ジュニア期から岡手で育成され、県外で活躍している心身ともに優れたアスリートのUターン就職を促進することで、継続的に優秀な人材を確保し、競技スポーツの推進はもとより、スポーツを通じた地域貢献に資する。</p> <hr/> <p>進め方</p> <p>競技団体から推薦された成年選手と、競技スポーツの推進に賛同する企業とのマッチング 県は、雇用企業のスポーツを通じた地域貢献を積極的にPR</p> <p>〔対象〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県高校出身者で、国体成年種別に出場する確約がとれるアスリート 引退後は一般社員として引き続き勤務する意思があるアスリート <p>〔事業展開〕</p> <p>平成25～27年度：アスリートUターン促進員(アドバイザー)を配置 事業の広報及び協力企業の開拓 アスリートUターン促進協議会を組織 県と企業の協力体制を整備 企業説明会(毎年1～3月) アスリートと企業とのマッチング</p>															
事業の意図・費用対効果等	<p>事業の意図・費用対効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 成年選手の受け皿を確保することで、選手と指導者の好循環が生まれ、一貫指導体制の推進が可能となり、本県競技力の発展と向上が期待できる。 全国トップレベルに到達したアスリートの多様な経験や人間的魅力等、有為な能力を地元地域に還元することができる。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">設定目標 (数値等)</td> <td style="width: 15%;">就職内 定着者数</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成26年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">0人</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">5人</td> </tr> </table> <hr/> <p>コスト抑制のための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外事務所(東京・大阪)や企業情報に詳しい外部人材の活用など 						設定目標 (数値等)	就職内 定着者数	現 状	平成25年度	平成26年度			0人	-	5人
設定目標 (数値等)	就職内 定着者数	現 状	平成25年度	平成26年度												
		0人	-	5人												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)		1,551	1,425	1,425											
財源内訳	一般財源		1,551	1,425	1,425											
	起 債															
	その他特定財源															

アスリートUターン促進事業



重点事業調書

[担当部局・課名：産業労働部産業企画課新エネルギー推進室]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅳ 豊かで潤いのある暮らしづくり														
夢	戦略プログラム名等	地球と人にやさしい岡山流スマートライフ発信プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	新エネルギーを活用したスマートタウン構想の推進														
重点事業等の名称		スマートタウン構想推進事業														
終期設定：平成28年度		予算区分	一般	事項名	新エネルギー推進事業費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <p>地域特性に合わせた新エネルギーを積極的に利活用しながら、「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」を効果的に組み合わせ、エネルギーの効率的利用やエネルギー消費量の削減を図るとともに、災害時にも対応できるエネルギーシステムの構築が求められており、東日本大震災以降、その社会的要請が高まっている。</p>															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>・パイロット地域推進事業補助【10,000千円】</p> <p>指定したパイロット地域において市町村が実施する地域協議会等の設置・運営や新エネルギー等を効率的に活用するエネルギーシステムの導入、県内企業の新技術・新製品の導入実証の促進等を支援する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉</p> <p>パイロット地域事業の開始（第1四半期）</p> <p>パイロット地域の2次募集（第2四半期）、パイロット地域の2次指定（第3四半期）</p>															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <p>事業の実施により、地域特性に合わせた新エネルギーを活用しながら、地域産業の振興、地域の魅力アップ、さらには、災害に強く、低炭素な地域づくりを進めるモデルケースが県内各地で実施・計画され、新エネルギーの導入拡大とともに、エネルギーの有効活用、安定供給等を実現する新たなエネルギーシステムの構築が期待できる。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 15%;">〈設定目標〉 (数値等)</td> <td style="width: 20%;">新エネルギー を活用したス マートタウン</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <p>市町村からの提案を審査し補助対象事業を選定することで、無駄な事業支出を排除するとともに、市町村負担（補助率1／2）を条件とすることで効果的な事業に厳選する。</p> <p>また、国の事業の積極的な活用により事業推進を図り県費支出を抑制する。</p>						〈設定目標〉 (数値等)	新エネルギー を活用したス マートタウン	現 状	平成25年度	平成28年度			0	0	5
〈設定目標〉 (数値等)	新エネルギー を活用したス マートタウン	現 状	平成25年度	平成28年度												
		0	0	5												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)	3,885	10,000	20,000	20,000	10,000										
	財源内訳															
	一般財源	3,885	10,000	20,000	20,000	10,000										
	起 債															
	その他特定財源															

新エネルギーを活用したスマートタウン構想

～新エネルギーの地産地消を通じた新たなまちづくり～

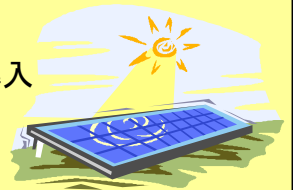
スマートタウン

新エネルギーの導入拡大とエネルギーの最適利用

- ・自立分散型の新エネルギーの導入拡大
- ・エネルギーネットワークの構築
- ・エネルギーの高効率利用
- ・電源セキュリティの向上
- ・電力需要のピークカット・ピークシフト

岡山モデル

- ・晴れの国ならではの太陽光発電等地域特性を生かした新エネルギーの導入
- ・電気自動車EVを積極的に活用するエネルギーの効率的な利用
- ・県内企業による新技術の開発・参入の促進



スマートタウン構想の推進

◆パイロット地域指定によるスマートタウン化への重点的な支援

- ・やる気のある市町村を支援し、モデルケース化
- ・市町村からの提案を審査し、補助事業を選定 ○補助率 1/2 ○上限額 500万円/地域



パイロット地域での取組イメージ

- ◇都市再生や安全安心の向上、環境配慮などを目指した次世代の地域づくり
 - ・新エネルギーやEVの導入促進とその災害時電力供給への活用
 - ・HEMS化と併せた電子回覧板の導入等IT活用
 - ・超小型モビリティ等による移動サポート など
- ◇豊富な地域資源を活用して、エネルギーを自給し、自立する地域づくり
 - ・住民を含めた企画委員会を組織し、住民の力で考えて作り、行動
 - ・森林資源の木質チップ化・ボイラー利用など資源循環による地域再生
 - ・小水力発電の設置促進・観光利用等によるイメージアップや財源確保 など



全県への取組の拡大



ロードマップ

新エネルギーの積極的導入と
地域での活用モデル実証

地域でのエネルギー
マネジメントシステム
を加えた社会実証

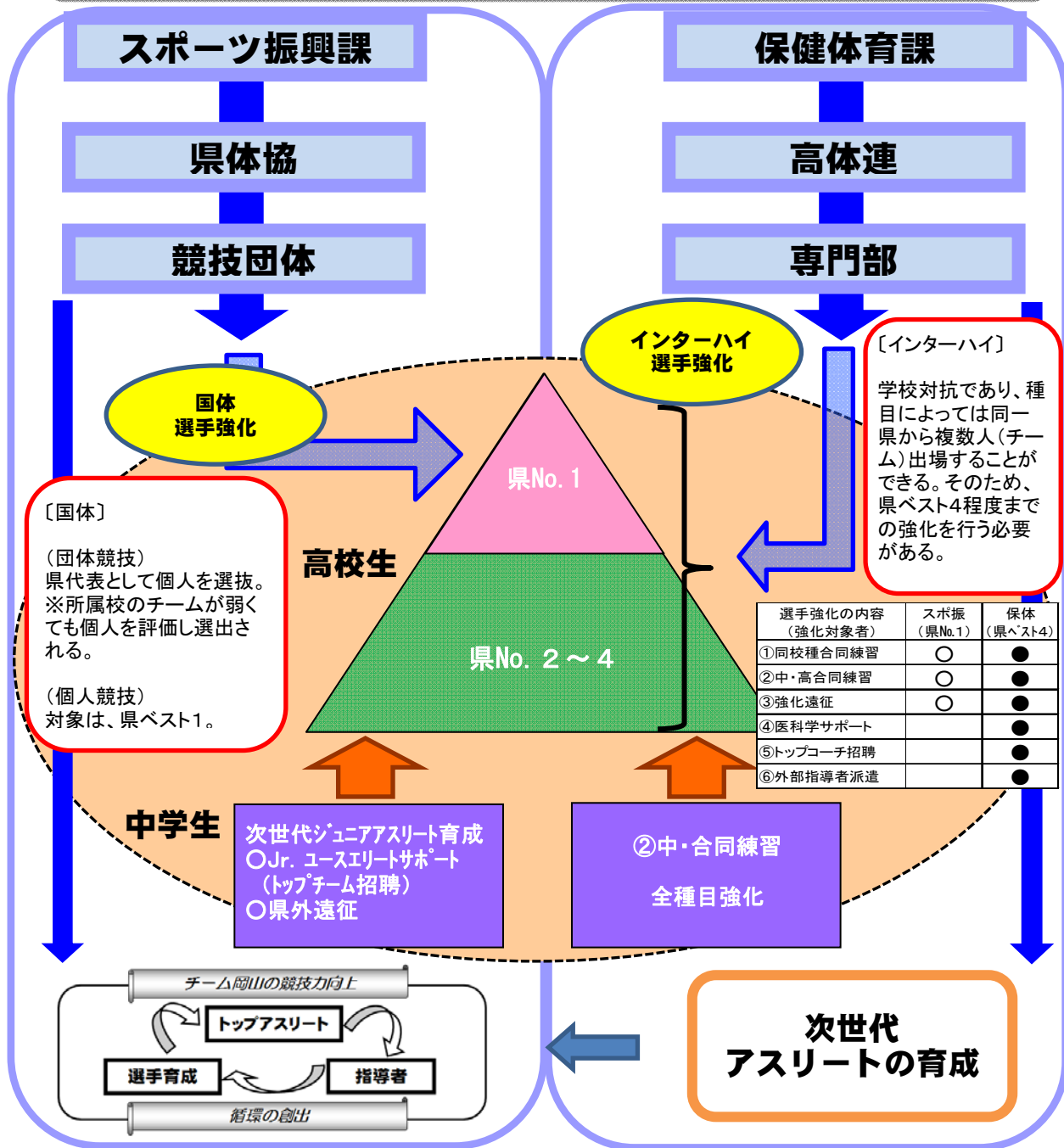
スマートタウンの普及に
よる持続可能な社会の
実現

重点事業調書

[担当部局・課名：教育庁保健体育課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅳ 豊かで潤いのある暮らしづくり														
夢	戦略プログラム名等	文化・スポーツ・学びを楽しむ暮らし創造プログラム														
ラン	メッセージ・基本施策名	未来へはばたくアスリートの育成・支援														
重点事業等の名称		平成28年度全国高等学校総合体育大会開催準備事業														
終期設定：平成28年度		予算区分	一般	事項名	学校スポーツ活動推進費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に中国ブロックで開催するインターハイについて、岡山県は主会場県として総合開会式及び10種目を実施するため、総合開会式及び競技運営の準備を整えるとともに、県内開催競技をはじめとする全体的な競技力強化及び競技用具の整備が必要である。 															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>新平成28年度全国高等学校総合体育大会開催準備事業【4,000千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山県準備委員会の設置 <p>新平成28年度全国高等学校総合体育大会に向けた競技力強化支援事業【26,878千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全種目強化費 8,788千円 中・高運動部活動連携・強化推進事業 9,450千円 競技用具整備事業 8,640千円 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山県準備委員会を設置し、各専門委員会（広報・報道、競技、式典・演技、宿泊・衛生）で着実に準備を進める。 平成28年度に主力となる中学校3年生を重点対象に、中・高運動部活動連携・強化推進事業を実施し、高校指導者と中学生との繋がり、選手の県外流出防止、適性に応じた競技へのマッチングを視野に入れた強化等を行うとともに、必要な競技用具を整備する。 															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合開会式には、皇太子殿下の御臨席を賜るとともに、競技には全国から高校生のトップアスリート等約30万人が来県する見込みであり、万全の準備を進める。 高校生の活躍は、高等学校の運動部活動の活性化に繋がるだけでなく、小中学生にも大きな刺激と目標を与えるとともに、スポーツを通じて県民の一体感や活力が醸成され、元気あふれる岡山の創造に繋がるという効果が期待できる。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 15%;">(設定目標) (数値等)</td> <td style="width: 30%;">全国高等学校総合体育大会 入賞数</td> <td style="width: 10%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成28年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">58</td> <td style="text-align: center;">65</td> <td style="text-align: center;">90台</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 県単独（全34種目）での開催からブロック分散開催へ変更 総合開会式の規模を縮小（従来の陸上競技場から体育館へ変更、13,000人規模から5,000人規模へ縮小） 先催県の事例を精査し、広報活動費などの事業費を縮減（約10%） 事業実施に必要な事務局人員数も、先催県の事例を参考に縮減 						(設定目標) (数値等)	全国高等学校総合体育大会 入賞数	現 状	平成25年度	平成28年度			58	65	90台
(設定目標) (数値等)	全国高等学校総合体育大会 入賞数	現 状	平成25年度	平成28年度												
		58	65	90台												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)		30,878	61,144	124,144	389,839										
財源内訳	一般財源		30,878	61,144	124,144	389,839										
	起 債															
	その他特定財源															

H28インターハイに向けた強化支援事業



◆強化支援の経年概要(高等学校)

	選手強化の内容	H25	H26	H27	H28	摘要
県内開催競技	①同校種合同練習					10競技
	②中・高合同練習					
	③強化遠征					
	④医科学サポート					
	⑤トップコーチ招聘					
	⑥外部指導者派遣					
県外開催競技	①同校種合同練習					24競技
	②中・高合同練習					
	③強化遠征					
	④医科学サポート					
	⑤トップコーチ招聘					
	⑥外部指導者派遣					

※H25の県外開催競技については、中体連に専門部のない11競技のみが対象。
 ※選手強化の内容は、各専門部がそれぞれの選手強化の状況に応じて実施する。

重点事業調書

[担当部局・課名：県民生活部中山間・地域振興課]

3次	基本戦略名称等	基本戦略横断プロジェクト														
夢	戦略プログラム名等	元気！輝く中山間地域活性化プロジェクト														
ラン	メッセージ・基本施策名	交流・定住の促進														
重点事業等の名称		首都圏ターゲット！「晴れの国ぐらし」PR・受入推進事業														
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	中山間地域等振興対策費											
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災以降、移住先としての岡山県の人気が高まっており、この機を逃すことなく岡山の魅力をより一層PRするとともに、移住希望者のニーズにきめ細かく対応する必要がある。 特に、東京で開催する相談会では来場者が非常に多いことから、大阪と同様に規模の大きい交流・定住フェアを開催する必要がある。 また、移住相談会では、ブースでの相談だけでなく、県全体の魅力や移住体験談等を聞きたいとの声が多いなど、相談者の多様なニーズに的確に対応する必要がある。 															
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 東京での「おかやま交流・定住フェア」の開催【2,258千円】<新規> 「おかやま晴れの国ぐらしセミナー&相談会」の開催【2,766千円】<拡充> <ul style="list-style-type: none"> 対象：移住先として岡山に興味を持っている方 ねらい：より具体的に移住に向けた思いを深めてもらう 「おかやま晴れの国ぐらし」の魅力発信強化【2,800千円】<新規> <ul style="list-style-type: none"> 全国規模の田舎暮らし専門誌等に、「おかやまで晴れの国ぐらし」（仮称）を連載し、移住先としての岡山の魅力、移住者の体験談、イベント情報などを積極的にPRすることにより、本県への交流・定住の促進を図る。 <hr/> <p>〈進め方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 「おかやま交流・定住フェアin東京」の開催（7月） 「おかやま晴れの国ぐらしセミナー&相談会」の開催（東京：5月・1月、大阪：6月・2月） いなか暮らし専門誌への掲載（年4回程度） 															
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <p>東日本大震災以降、特に首都圏において移住先としての本県の人気が急速に高まっており、こうした移住希望者等のニーズに的確に対応するとともに、晴れの国ぐらしの魅力をより一層積極的にPRすることにより、本県への移住を強力に推進し、地域の活性化につなげる。</p> <p>※東京の相談デスク来場者数：H22年度 10人(1回) → H23年度 82人(1回) → H24年度 244人(2回) ※うち2世帯5人が移住</p> <p>震災前後の関東からの本県への転入者数：震災前1年 4,865人 → 震災後1年6,117人(25.7%増)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 15%;">(設定目標) (数値等)</td> <td style="width: 15%;">相談件数</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成27年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1,335(H23)</td> <td>1,550</td> <td>1,650</td> </tr> </table> <hr/> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <p>民間のノウハウを活用した方が効果的なものについては、委託事業として実施する。</p>						(設定目標) (数値等)	相談件数	現 状	平成25年度	平成27年度			1,335(H23)	1,550	1,650
(設定目標) (数値等)	相談件数	現 状	平成25年度	平成27年度												
		1,335(H23)	1,550	1,650												
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額										
	事業費(単位:千円)	622	7,824	7,824	7,824											
	財源内訳															
	一般財源	622	7,824	7,824	7,824											
	起 債															
	その他特定財源															

首都圏ターゲット！「晴れの国ぐらし」PR・受入推進事業

現在

新規・拡充

①魅力発信

■ポータルサイトによる情報発信

新規

■いなか暮らし専門誌による情報発信【2,800千円】

移住者の紹介等の定期的な掲載



安全・安心な地域で暮らしたい

ターゲット！
いなか暮らし等を考えている方

②移住相談

【関西圏】大阪1
■交流・定住フェアの開催

新規

【首都圏】東京1
■交流・定住フェアの開催

移住先としての岡山の魅力を広くPR

首都圏からの移住相談が増加していることを受け、より多くの方に岡山の魅力をもPRする。



- ・晴れの国ぐらしプレゼンテーション
- ・市町村相談コーナー
- ・就職、就農、住まいの相談



岡山は暮らしやすそう

ターゲット！
移住先として岡山に興味を持っている方

【首都圏・関西圏】東京3・大阪3
■相談デスクの開催

拡充

【首都圏・関西圏】東京2・大阪2
■晴れの国ぐらしセミナー&相談会の開催【2,766千円】

- ・市町村相談コーナー
- ・就職、就農、住まいの相談

移住者との交流などにより、より具体的に移住に向けた思いを深めてもらう。

■IJUナビゲーターの配置
(東京・大阪)

住居や就職・就農等の相談、各市町村の支援制度の紹介などにより、移住希望者を包括的にサポート

- ・晴れの国ぐらしトークセッション
- ・市町村相談コーナー
- ・就職、起業、就農研修制度、生活環境などの具体的な相談



実際に岡山を訪れてみたい

ターゲット！
岡山への移住を真剣に考えている方

③移住体験

【市町村実施】
■お試しぐらしツアー

【市町村実施】
■お試し住宅

住民や移住者との交流等を通じて地域を理解してもらい、移住希望者の不安を解消

・24年度に実施したフェア等来場者のうち、実際に移住した世帯数

4世帯(会場別：東京2世帯5人、大阪2世帯5人)
現在追加調査中

・24年度フェア等来場者数

交流・定住フェア 102人(大阪)

相談デスク 338人(東京244人・大阪94人;各2回)

岡山県への定住者の増加

重点事業調書

[担当部局・課名：農林水産部・農村振興課]

3次	基本戦略名称等	基本Ⅲ 発展につながる産業づくり												
夢プ	戦略プログラム名等	儲かる産業に！攻めの農林水産業育成プログラム												
ラン	メッセージ・基本施策名	農林水産物の鳥獣害防止対策の推進												
重点事業等の名称		集落ぐるみ鳥獣害防止対策総合支援事業												
終期設定：平成27年度		予算区分	一般	事項名	農山村活性化総合対策費 農林水産強化対策費									
現状・課題	<p>〈現状・課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 野生鳥獣による農作物等への被害は深刻化・広域化しており、農業者の生産意欲の減退、耕作放棄地の増加等を招き、集落の経済的損失は大きい。 農家個々による防護柵設置、有害鳥獣捕獲等の点的対策から集落ぐるみによる総合的な鳥獣被害防止対策が求められている。 													
事業内容・進め方	<p>〈事業内容〉</p> <p>《鳥獣から護る》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣被害防止総合対策交付金[国庫：92,900千円] <ul style="list-style-type: none"> ・防護柵等の整備、接近警戒システム等新たな技術導入支援 ①農作物等鳥獣害防止施設等整備支援【18,772千円】 <ul style="list-style-type: none"> ・国庫事業を補完 <p>《鳥獣を捕獲する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ②有害獣捕獲強化支援【11,768千円】 <ul style="list-style-type: none"> ・駆除強化月間(7月～9月)に市町村が行うイノシシ、シカに加え、サルの駆除活動への上乗せ助成 <p>《鳥獣を活用する》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鳥獣被害防止総合対策交付金[国庫：92,900千円の内数] <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲獣解体処理加工施設の新設 <p>《鳥獣と棲み分ける》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農村地域力発揮総合対策交付金[国庫：新規、国から事業主体への直接補助] <ul style="list-style-type: none"> ・緩衝帯の設置、耕作放棄地解消等 <p>《「人」づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ③狩猟者確保・育成支援【2,217千円】 <ul style="list-style-type: none"> ・新規狩猟免許(第1種銃猟、わな猟)取得への経費助成 ・新規狩猟免許取得者への講習会開催(ベテラン猟師による初心者育成) ④(新)鳥獣被害防止アドバイザー等人材育成支援【1,604千円】 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣害に強い集落づくりを支援するアドバイザーや集落で中心となるリーダーの育成及び被害防止相談窓口の設置 <p>-----</p> <p>〈進め方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害防止アドバイザー等人材育成支援(5月～12月) 													
事業の意図・費用対効果等	<p>〈事業の意図・費用対効果〉</p> <p>野生鳥獣被害の防止に向け、農作物等を鳥獣から守る「防護」と有害鳥獣の「捕獲」、捕獲獣の「利活用」や鳥獣との「棲み分け」を支援することで、有害鳥獣に強い集落づくりを総合的に推進するとともに、野生鳥獣対策の専門的な知識や経験を有する「人」づくりを進め、地域での指導体制の強化を図る。</p> <p>(設定目標)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 30%;">防護柵の整備延長</td> <td style="width: 15%;">現 状</td> <td style="width: 15%;">平成25年度</td> <td style="width: 15%;">平成27年度</td> </tr> <tr> <td>(数値等)</td> <td>2,700km</td> <td>3,100km</td> <td>3,500km</td> </tr> </table> <p>-----</p> <p>〈コスト抑制のための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の農家による点的対策から集落ぐるみによる面的対策に取り組むことにより、防護柵の効率的な設置(農地個々の防護柵設置から集落全体を見据えた防護柵設置へ)によりコスト抑制が期待できる。 防護柵整備 受益農地27a/100m ⇒ 受益農地134a/100m 						防護柵の整備延長	現 状	平成25年度	平成27年度	(数値等)	2,700km	3,100km	3,500km
防護柵の整備延長	現 状	平成25年度	平成27年度											
(数値等)	2,700km	3,100km	3,500km											
事業費の見積もり	区 分	H24予算額	H25予算要求額	H26見込額	H27見込額	H28以降見込額								
	事業費(単位:千円)	123,740	127,261	127,261	127,261									
	財源内訳	一般財源	34,480	34,361	34,361	34,361								
		起 債												
		その他特定財源	89,260	92,900	92,900	92,900								

新

集落ぐるみ鳥獣害防止対策総合支援事業



「護る」「捕獲」「活用」「棲み分け」の4つをキーワードに有害鳥獣に強い”集落”づくりを進めるとともに、これを支える「人づくり」に取り組む。



有害鳥獣に強い”集落”づくり

鳥獣から護る

侵入防止柵整備、警戒システム等新技術の導入

- 鳥獣被害防止総合対策交付金 《92,900千円(国庫)》
 - ・侵入防止柵整備
 - ・新技術導入

- ①農作物等被害防止施設等整備支援 《18,772千円(県費)》
 - ・国庫事業を補完



鳥獣を捕獲する

市町村、猟友会(駆除班)との連携による捕獲の強化

- ②有害獣捕獲強化支援 《11,768千円(県費)》
 - ・市町村の許可捕獲(駆除)奨励金に上乗せ助成
 - 対象獣:イノシシ、シカ、サル
 - ※サルを新たに対象とする



鳥獣を活用する

捕獲した有害獣の食肉等活用拡大に向けた取組を支援

- 鳥獣被害防止総合対策交付金 《92,900千円(国庫)の内数》
 - ・捕獲獣解体処理加工施設の新設

鳥獣と棲み分ける

野生鳥獣と人との生活領域分断による人里への出没防止

- 農村地域力発揮総合対策交付金 《国庫:新規 国から事業主体への直接補助》
 - ・緩衝帯の設置
 - ・耕作放棄地解消 等

有害鳥獣に強い”集落”を支援する「人」づくり

捕獲の担い手の確保・育成

- ③狩猟者確保・育成支援 《2,217千円(県費)》
 - ・新規狩猟免許取得への助成
 - ・狩猟者のスキルアップ

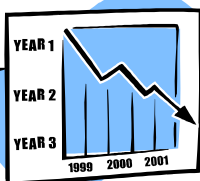


集落での被害防止活動の中核となる地域リーダーや活動を支援する人材の育成



- ④鳥獣被害防止アドバイザー等人材育成支援 《1,604千円(県費)》

- ・研修会、技術講習会等開催
- ・相談窓口の設置



イノシシの被害も減ったしまた、頑張ろうか～

農産物等の被害の減少

生産意欲の高揚！ 集落の活性化！

